

様式1【公表】

「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」
平成29年度事後評価資料（実施報告書）

整理番号	S2606		関連研究分野 (分科細目コード)	消化器外科学 (8302)
補助事業名 (採択年度)	消化器癌におけるがん代謝メカニズム解明を目指した国際共同研究（平成26年度）			
代表研究機関名	熊本大学			
代表研究機関以外の協力機関	なし			
主担当研究者氏名	馬場 秀夫			
補助金支出額	(平成26年度) 35,910,000円	(平成27年度) 40,641,817円	(平成28年度) 41,246,760円	(合計) 117,798,577円
(公募応募当初の「事業計画調書」に記載の) 若手研究者の 派遣計画	(平成26年度) 2人	(平成27年度) 4人 (2人)	(平成28年度) 4人 (3人)	(合計) 5人
若手研究者の 派遣実績	(平成26年度) 2人	(平成27年度) 6人 (2人)	(平成28年度) 5人 (4人)	(合計) 7人
(公募応募当初の「事業計画調書」に記載の)研究者 招へい計画	(平成26年度) 1人	(平成27年度) 2人 (1人)	(平成28年度) 1人 (1人)	(合計) 2人
研究者の 招へい実績	(平成26年度) 1人	(平成27年度) 2人 (0人)	(平成28年度) 3人 (0人)	(合計) 6人

(参考)

派遣期間が300日未満となり、最終的に若手派遣研究者派遣実績のカウントから除外された者(外数)	(平成26年度) 人	(平成27年度) 人 (人)	(平成28年度) 人 (人)	(合計) 人
---	---------------	-----------------------	-----------------------	-----------

様式1【公表】

1. 派遣・招へいによる人的交流を通じて得られた成果の達成状況

(1) 事業計画調書に記載した到達目標

(事業計画調書(3-(2))に記載した「研究課題を海外の研究グループと共同して行うことにより、国際研究ネットワークの強化・拡大に関して客観的な指標に基づく到達目標」)

本研究課題を海外施設と共同で行うことにより、当研究分野を国際的にリードし、日本における学術の振興と後進の教育に貢献しうる若手研究者を育成することが目標である。これらの観点から、研究者として以下の目標を定め、派遣された若手研究者が、これらの目標に到達できたか否かで検証を行う。

1. 問題意識を持ち、解決すべき問題に対し、自ら研究方略や目標設定、具体的な実験計画などを構築し、研究を実施することができるか。
2. 積極的に新たな知識や技術の獲得に努め、異なった視点や観点を持つ他の研究者と共に学び、自らを向上させることができるか。
3. 自らの研究成果を、学会発表や学術誌への論文発表を行い、国際的に情報発信することができるか。
4. 国籍や文化、使用する言語などが異なり様々なバックグラウンドを持つ研究者と円滑にコミュニケーションを行い、意見交換を行うことができるか。
5. 帰国後に研究者として本学等に在籍し、研究の活性化や、後進の指導に貢献できているか。

(2) 上述の到達目標に対する達成状況の自己評価とその理由

【自己評価】

- 期待を上回る成果を得た
- 十分に達成された
- おおむね達成された
- ある程度達成された
- ほとんど達成されなかった

【理由】

本プログラムにより、計7名の若手研究者が海外研究グループとの共同研究を行い、研究ネットワークの形成に貢献した。それぞれの研究者が“がん代謝”に関する研究計画を立案し、自らが主導して海外研究グループとの共同研究を遂行することができた。特に、最先端の研究手法・テクノロジーなどを積極的に習得し、世界各国から集まった共同研究員と円滑にコミュニケーションをとり協力することにより、順調に研究を推進することができた。

その研究成果は、国際的にも認められ、Cancer cell (IF 27.4), Gastroenterology (IF 18.4), GUT (IF 16.7)などのtop journalに採択されている。本プログラムに関連する原著論文は48本であり、American Association for Cancer Research (AACR)、American Society of Clinical Oncology (ASCO)などの国際学会でも多くの発表を行った。

帰国後は、それぞれ熊本大学に在籍し、本事業において形成された国際研究ネットワークを継続すべく、後進の研究指導を行いながら研究を継続している。

2. 国際共同研究課題の到達目標及びその達成状況

(1) 事業計画調書に記載した国際共同研究課題の研究目的及び到達目標

(事業計画調書(3-(2))に記載した国際共同研究課題の研究目的及び到達目標(「研究の学術的背景」及び「当該研究領域における本研究課題の学術的な特色や独創的な点、及び事業期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか、到達目標とその検証方法」))

1. 学術的背景

癌は我が国における死因の第一位を占めているため、多様な治療法が開発されてきたが、未だ十分な成果をあげるに至っておらず、がん克服は、医療・医学における学術上の最優先課題である。近年、癌細胞は正常な細胞と異なる代謝動態を呈しており、それが低酸素や慢性炎症、免疫抑制などの変化を誘導し、癌の発育、進展や転移促進において重要であることが明らかになりつつある。がん代謝異常には様々な遺伝子のジェネティックあるいはエピジェネティック異常が関わっており、それらは癌の新たな予防・診断・治療の分子標的として注目されている。

2. 当該研究領域における本研究課題の学術的な特色や独創的な点、及び事業期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか、到達目標とその検証方法

本研究課題の学術的な特色
消化器癌の発生・進展においてきわめて重要である“がん代謝”について、世界を代表する癌研究施設と共同でグローバルな視野から包括的に検証する点が本研究の特色である。日本と欧米では、がんの疫学的バックグラウンドが大きく異なるため、“がん代謝”を含む生物学的特徴も大きく異なると考えられている。食生活の欧米化に伴い本邦のがんの特色が変化してきていることを考えると、本研究で得られる成果のインパクトは極めて大きいと考えられる。各施設における到達目標は以下の通りである。

【到達目標】

- ① Dana-Farber Cancer Instituteとの共同研究：大規模コホート研究において発生した1000例以上の大腸癌データベースを用いて、大腸癌におけるがん代謝マーカーの発現と予後、分子的变化(CMIP, MSI, KRAS, BRAF, PIK3CAなど)との関連を網羅的に解析し、新たながん代謝関連バイオマーカーを確立する。
- ② Duke-NUS Graduate Medical School Singaporeとの共同研究：次世代シーケンサーを用いた胃がんゲノム解析ならびに得られた分子プロファイルに基づくサブグループ分類が進められており、胃癌におけるがん代謝の特徴を解析し、臨床応用に直結するバイオマーカーの確立を目指す。
- ③ Shengjing Hospital of China Medical Universityとの共同研究：膵癌におけるがん代謝の臨床的意義をPET検査との関係から明らかにし、それに関わる分子変化についてin vitro, in vivo研究で実証する。
- ④ The University of Texas MD Anderson Cancer Centerとの共同研究：全米有数の食道癌治療センターである当施設の臨床データベースを用いて、がん代謝と抗がん剤感受性などとの関連を解析し、その分子メカニズムを検証する。
- ⑤ Norris Comprehensive Cancer Centerとの共同研究：大腸癌におけるゲノム薬理学(pharmacogenomics)の技術を応用し、がん代謝に関わる遺伝子多型などの解析を行うことにより、がん代謝を標的とした創薬またはそのバイオマーカーの開発を目指す。
- ⑥ Icahn School of Medicine at Mount Sinaiとの共同研究：特に非アルコール性脂肪性肝(炎)を

様式1【公表】

発生母地とする肝細胞癌のコホートをを用いた遺伝子発現解析により、肝細胞癌におけるがん代謝に関わる遺伝子発現と発癌、予後、及び肝線維化、との関係を明らかにし、新たな癌代謝関連バイオマーカーの確立・検証を行う。

(2) 上述の到達目標等に対する達成状況の自己評価とその理由

【自己評価】

- 期待を上回る成果を得た
- 十分に達成された
- おおむね達成された
- ある程度達成された
- ほとんど達成されなかった

【理由】

本プログラムで得られた研究成果は国際的にも評価され、Cancer cell (IF 27.4), Gastroenterology(IF 18.4), GUT(IF 16.7), JAMA Oncology (IF 16.6)などのtop journalに採択された。本プログラムに関連する原著論文は48本であり、AACR、ASCOなどの国際学会でも多くの発表を行った。各施設との共同研究に関する成果を下記に記す。

- ① Dana-Farber Cancer Instituteとの共同研究の到達目標は、大腸癌におけるがん代謝マーカーの発現と予後、分子的变化との関連を網羅的に解析し、新たながん代謝関連バイオマーカーを確立することであった。美馬研究員は、大腸癌におけるがん代謝、microbiomeに関するバイオマーカーの探索を行った。大腸癌組織中のグラム陰性嫌気性桿菌であるFusobacterium nucleatumの存在量をquantitative PCRを用いて評価した。組織中のT細胞数との関連を解析し、その結果は一流誌であるJAMA Oncology誌に掲載された。また、Fusobacterium nucleatumと大腸癌予後との関連については、一流誌であるGUT誌に報告した。また、引き続き小澄研究員がDana-Farber Cancer Instituteでの国際共同研究を開始しており、組織中のT細胞数とp62発現との関連をOncoimmunology誌に報告した。
- ② Duke-NUS Graduate Medical School Singapore: 胃癌および食道胃接合部癌の切除標本から腫瘍間質に存在するCAFs及びnormal fibroblasts (NFs)細胞株の樹立をおこなっている。網羅的ゲノム解析として、次世代シーケンサーによる9ペアでのエクソームシーケンシング、11ペアでのRNAシーケンシングをおこなった。ゲノム解析は、Duke-NUS Graduate Medical School Singapore, Cancer and Stem Cell Biology Programにておこない、現在、網羅的解析から得られたデータの中でCAFsに特異的な変化を見出した。現在、その研究成果を消化器病学のトップジャーナルに投稿した。(Ishimoto T et al. Gastroenterology, in press)。
- ③ Shengjing Hospital of China Medical University: まず、重要なゲノム変化としてKRAS遺伝子変異に着目して解析を開始した。KRAS変異は膵癌予後に影響を及ぼさないという結果が得られ、本研究成果はMedical Oncology (Med Oncol 2016; 33: 32)に掲載された。現在は、膵癌におけるLOXのがん代謝における役割に関する研究を遂行しており、興味深い結果が得られている。
- ④ The University of Texas MD Anderson Cancer Center: 腹水を伴う胃癌患者より、腹水を採取し腹水細胞を分離した。分離した細胞より、DNA、RNA、タンパクを採取し、それぞれをExon Seaquence, RNA Seaquence, 液体クロマトグラフィー質量分析法による網羅的解析を行った。腹水細胞をマウスに移植することでPDXモデルを作製することにも成功している。液体クロマトグラフィー質量分

様式1 【公表】

析では、代謝酵素の一つでがん幹細胞との関係が報告されているALDH1が腹水細胞に増加していることを明らかにされた。

- ⑤ Norris Comprehensive Cancer Center：肥満による癌死亡リスク上昇も報告されているが、肥満が癌に与える影響は、脂肪組織により産生されるアディポカインレベルに左右される。切除不能大腸癌に対するbevacizumab併用化学療法の治療効果予測因子として、アディポカイン関連遺伝子についての機能性SNP解析を行ったところ、アディポカインシグナルは有用なバイオマーカーになりうる可能性はあるものの、人種やBMI値の影響を受けることが明らかになった。これらの研究に関する総説を報告した (Miyamoto Y et al. Clin Cancer Res 2016)
- ⑥ Icahn School of Medicine at Mount Sinai：中川茂樹医師及び東孝暁医師は、アルコール性肝疾患、NAFLD/NASHといった肝代謝異常から発症する肝細胞癌の発生を予測するgene signatureを検討、およびその癌発症の代謝メカニズムを解明することによる発癌予防薬のスクリーニングを行った。その成果は、国際一流誌であるCancer Cell(IF 23.2)に掲載された。

3. 今後の展望について

これまでの実施状況を踏まえて、事業実施期間終了後の展望について記入して下さい。

① 自己資金、若しくは他の競争的資金等による海外派遣・招へいの機会を含む若手研究者の研鑽・育成の事業の継続（又はその見込み）状況

東孝暁研究員は自己資金にて、原田和人研究員、小澄敬祐研究員はともに2017年度日本学術振興会 特別研究員として、それぞれ、Icahn School of Medicine at Mount Sinai、The University of Texas MD Anderson Cancer Center、Dana-Farber Cancer Instituteで国際共同研究を継続している。

国際共同研究加速基金に採択され、助教がThe University of Texas MD Anderson Cancer Centerへ、自己資金にてNorris Comprehensive Cancer Centerへ非常勤診療医師、Dana-Farber Cancer Instituteへ大学院生（2018年3月修了見込み）が渡航し、共同研究は継続する予定である。

また、Shengjing Hospital of China Medical UniversityのGao Feng研究員は、自己資金で駐日期間を延長し、研究を継続しており、Tan教授及びGao Feng研究員の紹介もあり、2017年8月よりShengjing Hospital of China Medical Universityから1名研究者の受入を行った。

② 本事業の相手側を含む海外の研究機関との研究ネットワークの継続・拡大（又はその見込み・将来構想）状況（組織において本事業で支援した若手研究者に期待する役割も含めて）

今後更に高い水準の研究を遂行するには、本事業において形成された国際研究ネットワークをいかに継続させるかが重要と思われる。国際共著論文やTOP10%補正論文数を増加させるべく、現在もそれぞれの研究施設に研究員を派遣し、研究の継続を行っている。

派遣機関と受け入れ機関との交流を定期的に行う予定である。数名の研究者が互いに施設を見学し、研究内容を交換することで共同研究を推進する。また、海外の研究者を日本に招聘する補助を充実させる。

③ 本事業で支援した若手研究者の研究人材としての将来性について

若手研究者は、帰国後はそれぞれ熊本大学に在籍し、本事業において形成された国際研究ネットワークを継続すべく、後進の研究指導を行いながら研究を継続している。それぞれが優れた研究成果をあげ、その研究成果は、外科腫瘍学分野の一流誌に掲載されており、国際的にも高く評価されている。今後は、日本のみならず世界のこの研究分野をリードしていく人材になると期待している。

資料1 実施体制

① 日本側研究グループ事業実施体制

フリガナ 担当研究者氏名	所属機関	所属部局	職名 (身分)	専門分野	備考
主担当研究者 馬場 秀夫	熊本大学	大学院生命科学研究部 消化器外科学	教授	消化器癌	
担当研究者 馬場 祥史	熊本大学	大学院生命科学研究部 消化器外科学	講師	消化器癌	
若手研究者 美馬 浩介	熊本大学	医学部附属病院 消化器外科	特任助教	胆膵	
石本 崇胤	熊本大学	大学院生命科学研究部 消化器外科学	特任講師	胃	
中川 茂樹	熊本大学	医学部附属病院 消化器外科	特任助教	肝臓	(H27.4.1追加)
原田 和人	熊本大学	医学部附属病院 消化器外科	非常勤診療医師	食道	
宮本 裕士	熊本大学	医学部附属病院 消化器外科	助教	大腸	
小澄 敬祐	熊本大学	医学教育部 消化器外科学	研究員	食道	(H27.4.1追加)
東 孝暁	熊本大学	医学教育部 消化器外科学	研究員	肝臓	(H27.4.1追加)
計9名					

② 相手側となる海外の研究グループ（海外の連携機関）

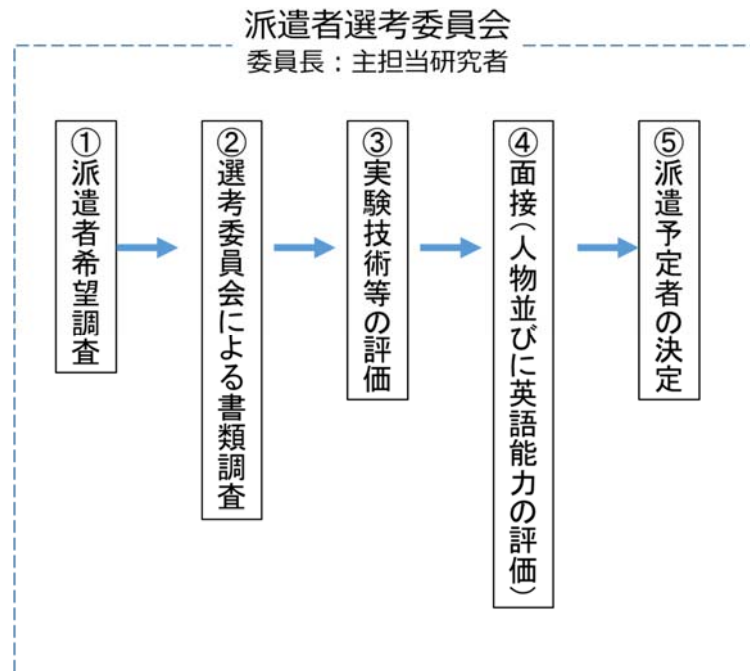
研究機関名	相手側研究者氏名 (招へいした研究者は※印を表示)	職名 (身分)	備考	派遣した 若手研究者氏名
Dana-Farber Cancer Institute Dept. of Medical Oncology	Shuji Ogino	Professor		美馬 浩介 小澄 敬祐
MD Anderson cancer center Department of Gastrointestinal (GI) Medical Oncology	Jaffer A. Ajani (※)	Professor		原田 和人
Duke university for Institute for Genome Sciences & Policy	Patrick Tan	Professor		石本 崇胤
University of Southern California, Norris Comprehensive	Heinz-Josef Lenz	Professor		宮本 裕士

<p>Cancer Center</p> <p>Shengjing Hospital of China Medical University</p> <p>Icahn School of Medicine at Mount Sinai</p> <p style="text-align: right;">計 6機関</p>	<p>Tan Xiaodong (※)</p> <p>Xianbo Zhang (※)</p> <p>Lei Zhou (※)</p> <p>Gao Feng (※)</p> <p>Yujin Hoshida (※)</p>	<p>Professor</p> <p>Associate professor</p> <p>Resident</p> <p>lecturer</p> <p>Professor</p>	<p>(H27.4.1追加)</p>	<p>中川 茂樹 東 孝暁</p>
---	--	--	--------------------	-----------------------

資料2 双方向の人的交流にかかる資料

(1) 若手研究者の選抜方針・基準、選抜方法の概要

- 1) 語学力の評価：派遣先において効果的で実質的な共同研究や情報交換・発信ができる十分な語学力を有している。例えば、海外での研究、生活に支障のない語学力について、海外への留学・派遣の経験、英会話授業の受講歴、あるいは TOEFL, TOEIC のスコアなどにより判定する。
 - 2) 研究能力の評価：申請書に提案された研究計画を実施する実績と研究能力を有している。研究能力については、派遣先における研究活動に関連する英文原著論文を公表している、あるいは、国際学会における発表実績があることなどにより評価する。
 - 3) 派遣先との協力体制の評価：派遣先での共同研究に十分な成果が見込める。すなわち、派遣先の研究者との学術交流実績、あるいは、派遣先研究グループとの将来的な共同研究の展開に向けた十分な交流実績を基に提案されている。
 - 4) 海外での研究活動の評価：申請者の語学(英会話)能力、研究実施能力(研究技能)に加えて、海外での研究活動の提案内容の妥当性、適切性などについて詳しく吟味する。必要に応じて申請者に直接ヒアリングを実施し、質疑応答などにより研究計画の実効効率などを慎重に評価する。
 - 5) 派遣に関わる事務手続の評価：渡航・海外滞在上の手続きに支障がないか確認する。
- 以上の評価方針に沿って、具体的な選考要領を策定し当該プログラム推進に貢献できる優れた派遣者を選定する。(前提条件として、派遣者は特任助教以上の職を有するものとする。)若手研究者の海外研究活動の組織的支援事業を通じて、若手研究者のグローバルなキャリアアップを図り、帰国後は一定期間、本学において本研究を継続するように促す。派遣者選定にあつては、帰国後に本学で研究を継続する意志の有無も重視する。



(2) 派遣及び招へいの支援体制の概要

(日本側からの派遣者及び連携機関からの招へい者に対して組織としてどのようなバックアップ体制をとったかについて記載してください。)

【派遣者に対する支援体制】

定期的に主研究者である馬場 秀夫、担当研究である馬場 祥史がメール、Skype 等で連絡を取り、研究面及び生活面における助言を行った。また、年に1回、主担当者が連携機関を実際に訪問し、研究の進捗状況や生活状況について直接確認を行い、連携研究者を含め、改善点等について話し合いを行った。

【招へい者に対する支援体制】

招へい者に関しては、在留資格認定証明書発行等の入国手続きの支援、日本滞在中のマンションの手配の支援を行った。また滞在中、大学院生をチューターとしてつけることで、生活面及び研究面双方での支援を行うことが出来た。

(3) 若手研究者の海外派遣計画及び研究者の招へい計画の見直し(増減)状況とその理由

【派遣計画】

応募時には5名(助教1名、特任助教4名)を派遣予定であったが、特任助教のうち、今村裕(派遣者④)が他機関へ就職したことに伴い、派遣者の変更を行った。

また、H27年度より Icahn School of Medicine at Mount Sinai を連携機関として追加し、2名を派遣したため、最終的な派遣人数は7名となった。

【招へい計画】

当初2名の研究者を招へい予定であったが、相手先機関の申し出により、招へい研究者を追加、また、研究打ち合わせの必要性及び国際シンポジウムにて講演をしていただくため、連携機関代表者を招へいすることにした。最終的な招へい研究者人数は6名となった。

当初計画より招へい研究者が増えたことで、多面的な視点から研究結果に関する評価を行うことができた。

また、様々なポストの研究者を招へいし、交流ができたことで海外で研究行うということに関して、大学院生らの中で明確なイメージをつかむことが出来たと考える。

(4) 若手研究者が果たした役割にかかる成果の概要

① 派遣された若手研究者の成果

(資料4に記載するような研究成果の発信状況等だけではなく、国際共同研究における役割を含め、将来的に当該研究領域において中核的な役割を担う活躍が見込まれるか等の観点も含めて記載してください。)

それぞれの研究施設において担当箇所を実施するだけでなく、各施設にて行われている研究にも自ら興味を持ち、参画することが出来た。本プログラムの終了とともに共同研究

を終わらせるのではなく、原田和人研究員、小澄敬祐研究員とともに2017年度日本学術振興会 特別研究員へ応募、採択をされ、現在も The University of Texas MD Anderson Cancer Center、Dana-Farber Cancer Institute にて国際共同研究を継続している。東孝暁研究員は自己資金にて国際共同研究を継続している。

既に帰国した研究者は、熊本大学にて研究を継続しており、本プログラムによって形成されたネットワークを今後も強化していく予定である。

また、本プログラムにて派遣された若手研究者以外にも国際共同研究加速基金に採択され、助教が The University of Texas MD Anderson Cancer Center へ、自己資金にて Norris Comprehensive Cancer Center へ非常勤診療医師、Dana-Farber Cancer Institute へ大学院生（2018年3月修了見込み）が渡航し、各海外施設間でのネットワークも強化していきながら、日本側研究グループの優位性を向上させていきたいと考えている。

② 派遣・招へいした機関・組織の成果

（機関等として組織的に若手研究者や招へい研究者を支援する枠組みが構築されたか、機関等の研究者の評価において、海外での研究実績を重視するシステムが構築されたか、また本事業による派遣・招へいが今後も維持・継続されるか等の観点も含めて記載してください。）

本学はスーパーグローバル大学創成支援事業（タイプB）に採択されており、グローバル人材育成・支援体制の整備・拡充を適宜進めている。本構想調書において、「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」等の各種海外派遣制度を人材育成の重要なシステムとして位置づけている。

今後も、これらの事業の実施を通して体制の整備を進めていく。また、その他の支援例としては、本学の独自事業である「若手国際共同研究スタートアップ事業」を継続して実施しており、若手研究者の海外派遣を促進している（平成28年度は長・短期あわせて6件支援）。また、本学で研究を行う外国人研究者に対しては、国際関連部署において各種支援（ビザ関連、日常生活のサポート等）を行っている。

(5) 若手研究者の派遣実績の詳細【氏名のみ非公表】 ※派遣者毎に作成すること。

派遣者①：特任助教

<p>(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)</p> <p>食生活やライフスタイル、がん代謝、腫瘍免疫、腸内細菌を包括的に解析するための技術開発を目指す。</p> <p>パラフィン包埋ブロックを用いたメタボローム解析の信頼性についての基礎的検討を行った。パラフィン包埋ブロックを用いた大腸癌組織中のメタボローム解析の妥当性を検討するため、大腸癌 10 例のパラフィン包埋ブロックと凍結組織からがん組織を採取し、Metabolon 社にメタボローム解析を依頼した。さらに、大腸癌における癌代謝関連分子の発現を免疫染色により評価するために、Nurses' Health Study、Health Professionals Follow-up Study において発生した大腸癌症例からホルマリン固定パラフィン包埋組織を集め、Tissue microarray の構築を進めた。</p> <p>米国における 2 つの大規模前向きコホート研究 Nurses' Health Study (12 万人以上の健康女性を 35 年追跡) と Health Professionals Follow-up Study (5 万人以上の健康男性を 25 年追跡) において発生した 1000 例以上の大腸癌ホルマリン固定パラフィン包埋組織から DNA を抽出し、quantitative PCR (qPCR) により腫瘍内における Fusobacterium nucleatum の存在量を評価し、癌組織中の T 細胞数、予後、腫瘍発生部位との関連を解析した。</p> <p>(具体的な成果)</p> <p>1069 例のヒト大腸癌組織中、134 例(13%)で Fusobacterium nucleatum が quantitative PCR により検出された。多変量解析において、大腸癌組織中の Fusobacterium nucleatum が多い症例は大腸癌診断後の予後不良と有意に関連していた(P for trend = 0.020; Mima K et al. Gut 2016 in press)。大腸癌組織中の Fusobacterium nucleatum と T 細胞数が解析可能であった 598 例において、大腸癌組織中の Fusobacterium nucleatum の存在量と CD3 陽性細胞数に負の関連性を認めた(P for trend = 0.006; Mima K et al. JAMA Oncol 2015)。大腸癌組織中の Fusobacterium nucleatum が多い症例の割合が直腸から盲腸にかけて増加した(P for trend < 0.0001; Mima K et al. Mod Pathol 投稿中)。</p> <p>パラフィン包埋ブロックを用いた大腸癌組織中のメタボローム解析の妥当性について現在解析中である。また Nurses' Health Study、Health Professionals Follow-up Study において発生した大腸癌症例からホルマリン固定パラフィン包埋組織を集め、Tissue microarray の構築を進めてきた。今後、大腸癌細胞における Lysine specific demethylase (LSD1)、NF-E2-related factor 2 (Nrf2) などがん代謝関連分子の発現を免疫染色により評価する予定である。</p>				
派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
米国、Dana-Farber Cancer Institute Dept. of Medical Oncology, Shuji Ogino	172 日	335 日	0 日	507 日

派遣者②：・特任講師

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

Duke-NUS Medical School Singapore において胃癌間質細胞を用いた網羅的ゲノム解析をおこない、得られたデータを基盤として胃癌進展のバイオマーカー検索および浸潤・転移に関わる候補遺伝子の機能解析をおこなった。

(具体的な成果)

RNA シークエンシングの結果、diffuse-type 胃癌由来の CAFs では TGF-β 下流遺伝子群が NFs に比べて著明に亢進し癌細胞の浸潤をサポートしていることを明らかにした。間質における TGF-β signaling を制御する遺伝子を同定し、この遺伝子の発現が特定の炎症性サイトカインによって引き起こされる事を見出した。更に7つの独立したコホート研究から計 546 症例を用いた予後解析により、これらの炎症性サイトカインの高発現が予後不良に繋がることが分かった。この結果から炎症は発癌過程だけでなく腫瘍間質内シグナルの活性化を介して癌進展を引き起こすことが明らかになった (Ishimoto T et al. Gastroenterology, in press)。今後、これらの知見に基づいて腫瘍間質が胃癌細胞自体の特性、とくに癌幹細胞性に与える影響について検討を行なっていく予定である。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
シンガポール、Duke-NUS Graduate Medical School Singapore、Patrick Tan	173 日	363 日	153 日	689 日

派遣者③：非常勤診療医師

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

食道癌、胃癌臨床検体を用いて、癌代謝、抗癌剤感受性に強く関与する遺伝子の発現解析、mutation 解析、液体クロマトグラフィー質量分析法を用いた解析を行う。特に胃癌研究においては予後不良である腹膜播種の転移メカニズムおよび治療ターゲットの解明を目的とする。食道癌研究においては術前放射線化学療法への感受性に関連する Molecular ターゲットを解明することを目的とする。臨床検体を用いた網羅的解析、橋渡し研究により、個別化治療の標的遺伝子の同定し食道癌、胃癌の新たなバイオマーカー、新規治療法の開発を目指す。

(具体的な成果)

- 1 腹水を伴う胃癌患者より、腹水を採取し腹水細胞を分離した。分離した細胞より、DNA、RNA、タンパクを採取し、それぞれを Exon Seaquence, RNA Seaquence, 液体クロマトグラフィー質量分析法による網羅的解析を行った。腹水細胞をマウスに移植することで PDX モデルを作製することにも成功した。液体クロマトグラフィー質量分析の結果によると、代謝酵素の一つでがん幹細胞との関係が報告されている ALDH1 が腹水細胞に増加していることを明らかにされた。また、ゲノムの特徴により腹水癌細胞がいくつかのサブタイプに分類される可能性が示唆された。現在、ゲノムデータおよびタンパク質発現の詳細な解析を行っている段階である。
- 2 食道腺癌に対しては、術前放射線療法が行われるが、その感受性は癌により様々である。癌診断のツールの一つで癌糖代謝の指標となる PET-CT による SUV 値は放射線化学療法に対する感受性と強く相関することを明らかにした。術前治療開始前に内視鏡で採取された食道腺癌の組織サンプルから DNA, RNA を抽出し、抗癌

剤奏功症例と非奏功症例、PET-SUV 高集積症例(糖代謝亢進)と低集積症例の遺伝子発現の比較を行っている。

DNA のメチル化の指標となる LINE-1 メチル化レベルは様々な腫瘍の病理学的因子と関係がある。食道腺癌の前癌病変であるバレット食道では正常細胞と比較して、LINE-1 のメチル化レベルが低下していることを明らかにした。LINE-1 のメチル化レベルは癌代謝を含め、様々な癌の分子生物学的因子に影響していることが予想される。現在、300 例を超える臨床検体より DNA, RNA を抽出中である。多数例の臨床データと LINE-1 メチル化レベルの関係を明らかにする予定である。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
米 国、 MD Anderson cancer center、 Department of Gastrointestinal (GI) Medical Oncology、 Jaffer A. Ajani	0 日	131 日	365 日	496 日

派遣者⑤：助教

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

大腸癌におけるゲノム薬理学 (pharmacogenomics) の技術を応用し、がん代謝に関わる遺伝子多型などの解析を行うことにより、がん代謝を標的とした創薬またはそのバイオマーカーの開発を目指す。

Bevacizumab は VEGF を標的とするモノクローナル抗体で、血管新生阻害薬として切除不能大腸癌において標準治療として用いられている。これまで、バイオマーカー同定のための様々な試みがなされているが、臨床応用されるほどの結果は未だ得られていない。肥満は欧米諸国共通の問題であり、様々な疾患を引き起こし、肥満による癌死亡リスク上昇も報告されている。肥満が癌に与える影響は、脂肪組織により産生されるアディポカインレベルに左右される。今回、USC Norris Comprehensive Cancer Center において、切除不能大腸癌に対する bevacizumab 併用化学療法の治療効果予測因子として、アディポカイン関連遺伝子についての機能性 SNP 解析を行った。第 III 相臨床試験である FIRE-3 試験の Bevacizumab+FOLFIRI 群 (n=301) を Discovery コホート、同じく第 III 相臨床試験である TRIBE 試験の Bevacizumab+FOLFIRI 群 (n=230) を validation コホート、FIRE-3 試験の Cetuximab+FOLFIRI 群 (n=264) を Control コホートとして解析を行った。7 つのアディポカイン関連遺伝子 (LEP, LEPR, ADIPOQ, ADIPOR1, RETN, TNFa and NAMPT) の 11 つの機能性 SNP を選択した。SNP それぞれについて PCR を施行し、ダイレクトシーケンシング法を用いて解析した。さらに、肥満による影響を考慮するために、サブグループ解析として High BMI 群 (25kg/m² 以上) と Low BMI (25kg/m² 未満) の群別に同様の比較を行った。

(具体的な成果)

FIRE-3 discovery コホートにおいて、LEPR rs1137100 と NAMPT rs61330082 は PFS と有意な関連があることが明らかになった。LEPR rs1137100 G/G アレル (n=24) は A/-アレルと比較して、有意に PFS が短かった。この結果は多変量解析でも同様であった。NAMPT rs6133008 T/T アレル (n=24) は C/-アレルと比較して、PFS が短かく、多変量解析において有意さを認めた。また、RETN rs1862513 は OS と有意な関連を持つことが明らかになった。RETN rs1862513 C/C アレル (n=23) は G/-アレル (n=246) と比較して、有意に

OS が短かった。
 サブグループ解析では high BMI 群において、LEPR rs1137100 と RETN rs1862513 は予後とのより強い関連が認められた。Low BMI 群においてはいずれの SNP においても予後との関連は認めなかった。Bevacizumab を使用していない FIRE-3 control コホートにおいてはいずれの SNP も予後との関連を認めなかった。また、validation コホートとしての TRIBE 試験においては、FIRE-3 で認められた同様な結果は認められなかった。
 今回の結果では、ドイツ人を対象とした FIRE-3 試験において、アディポカインシグナルが Bmab+FOLFIRI 治療の 1 次治療を受けた切除不能大腸癌の予後と関連することが示された。また、これらの結果は BMI 高値の症例でより顕著であった。しかし、イタリア人を対象とした TRIBE 試験で validation を得ることはできなかった。これらの結果より、アディポカインシグナルは有用なバイオマーカーになりうる可能性はあるものの、人種や BMI 値の影響を受けることが示唆された。これらの研究に関する総説を報告した (Miyamoto Y et al. Clin Cancer Res 2016)

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
米 国 、 University of Southern California, Norris Comprehensive Cancer Center, Heinz-Josef Lenz	0 日	283 日	350 日	633 日

派遣者⑥：特任助教

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)
 非アルコール性脂肪肝(炎)から発症した肝細胞癌コホートを用いて、がん代謝経路の遺伝子発現と発癌、予後、及び脂肪肝炎の進行に着目した解析を進める。加えて、がん代謝を標的とした発癌予防薬の効果を治療前後の遺伝子発現を比較することで検証する。肝細胞癌は、C 型肝炎、B 型肝炎、アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪肝(炎)などによる線維化を伴う背景肝より発症する疾患であるが、その発癌・進展に関わるメカニズムは不明な点が多く、根治切除後も再発を繰り返す予後不良な疾患である。近年欧米諸国を中心に肥満やメタボリックシンドロームに伴う非アルコール性脂肪性肝疾患 (Non-Alcoholic fatty liver disease: NAFLD) 及び非アルコール性脂肪肝炎 (Non-alcoholic steatohepatitis; NASH) より発症する肝細胞癌が増加しており、日本においても例外ではない。ウイルス性肝炎に対する治療を初めとした肝細胞癌予防は近年目覚ましい進歩を遂げているが、アルコール性肝炎や NAFLD/NASH といった代謝疾患から発症する肝細胞癌に対する治療や予防法は未だ確立されていない。本研究において、アルコール性肝疾患、NAFLD/NASH といった肝代謝異常から発症する肝細胞癌の発生を予測する gene signature を検討すること、およびその癌発症の代謝メカニズムを解明し、発癌予防薬のスクリーニングを行う事を目的とした。
 方法：我々はこれまでに、C 型肝炎から発症した肝細胞癌に対する遺伝子解析の結果、肝細胞癌根治切除術後の再発・予後を予測する 186 の遺伝子を用いた gene signature を確立した (Hoshida et al. N Engl J Med. 2008)。今回、B 型肝炎、アルコール性肝炎、NAFLD/NASH より発症した肝細胞癌においてこの gene signature の有用性を検討した。

方法：日本にて根治的肝切除術を施行された肝細胞癌症例 223 症例（C 型肝炎 67 症例、B 型肝炎 39 症例、アルコール性肝炎 51 症例、NAFLD/NASH 症例 66 症例）のパラフィン包埋切片より RNA を抽出し、遺伝子発現解析を行った。上述の gene signature 186 遺伝子のうち、上述の C 型肝炎コホートにおいて全生存率に対して Cox score >3.0 である予後不良に関わる 19 遺伝子、及び Cox score <-3.0 である 13 遺伝子を選択し、prognostic gene signature (32-gene signature) とした。Nanostring Technology を用いて 32 遺伝子の発現解析を行った。

(具体的な成果)

Nearest template prediction (NTP)法を用いて 32 遺伝子の発現解析を行い、223 症例を高リスク群 (n=49)、中間リスク群 (n=127)、低リスク群 (n=47) へと分類した。223 症例全てを用いた解析において、中間リスク群、低リスク群は全生存率(低リスク vs. 中間リスク: HR=2.4, p=0.005、低リスク vs. 高リスク: HR=4.5, p<0.0001)、再発率(低リスク vs. 中間リスク: HR=2.2, p=0.001、低リスク vs. 高リスク: HR=4.5, p<0.0001)共に有意に予後不良であった。更に、多変量解析において中間リスク、高リスク群は全生存率(低リスク vs. 中間リスク: HR=2.3, p=0.007、低リスク vs. 高リスク: HR=4.8, p<0.0001)、再発率(低リスク vs. 中間リスク: HR=2.2, p=0.001、低リスク vs. 高リスク: HR=4.8, p<0.0001)に対する独立予後予測因子であった。続いて各背景肝におけるサブグループ解析を行い、各々の背景肝疾患における 32-gene signature の予後予測因子としての有用性を検討した。再発率に対して多変量解析を行ったところ、HCV 肝炎、HBV 肝炎、アルコール性肝炎、NASH 群において 32-gene signature は独立予後予測因子であった (HCV: HR=3.3, p=.014, HBV: HR=8.1, p<0.0001, アルコール性肝炎: HR=22.9, p=0.005, NASH: HR=9.6, p=0.035)。全生存率に対する多変量解析を行い、HCV 肝炎群、HBV 肝炎において高リスク群は独立予後予測因子であった (HCV: HR=3.2, p=0.019, HBV: HR=5.4, p=0.022)。NAFLD 全体群においては有意では無く、NAFLD においては繊維化を介した発癌機構ではなく、その他の機構が関与している事が示唆された。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
米国、MD Anderson cancer center、 Department of Gastrointestinal (GI) Medical Oncology、Jaffer A. Ajani	0 日	355 日	0 日	355 日

派遣者⑦：研究員 _____

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

世界有数の癌研究拠点施設と共同で、消化器癌におけるがん代謝制御に関わるジェネティック・エピジェネティック変化を網羅的に探索し、がん代謝を基盤とした新たな診断・治療法の開発に繋げていくことが目的である。

(具体的な成果)

がん代謝異常は腸内細菌および宿主の腫瘍免疫と複雑な相互作用を有し、更に大腸癌の発癌や進展に重要な役割を果たしている。特に腸内細菌とがん代謝の関係は近年の癌研究のトピックであり、がん代謝を解明するうえで非常に重要となる。マイクロバイオーーム研究が進む中、大腸癌において特に注目すべき微生物が、Fusobacterium nucleatum、

Bifidobacterium genus、Bacteroides fragilis、Escherichia coli である。我々は、過去に Fusobacterium nucleatum が大腸癌の予後不良と強く相関することを報告した。Fusobacterium nucleatum と大腸癌の関連解析をさらに進め、Fusobacterium nucleatum の局在に特徴がある事を明らかにした。つまり、Fusobacterium nucleatum 高発現の大腸癌が直腸から盲腸にかけて増加する事を報告した (Mima K. Clin Transl Gastroenterol 2016)。また、発癌前のライフスタイルとの関連解析を行い、穀物類・食物繊維の多い食事が Fusobacterium nucleatum 陽性大腸癌の発癌を予防する可能性を報告した (Mehta RS. JAMA Oncol 2017)。Bifidobacterium はヨーグルトなどの食品に含まれる微生物で、Melanoma において抗 CD274 (PD-L1) 抗体による抗腫瘍効果を増強させることが in Vivo で示された (Sivan A. Science 2015)。我々はまず大腸癌約 100 例の癌部より DNA を抽出し、DNA に含まれる Bifidobacterium genus および 16s の発現量を qPCR にて測定し、Bifidobacterium genus の Relative rate を算出した。その結果、Bifidobacterium genus 高検出群は KRAS 変異陽性および BRAF 変異陰性と相関する傾向を認めた。我々は更なる解析のために、大腸癌 1200 例を追加抽出し、Bifidobacterium genus を測定した (検出率：約 30%)。Bacteroides fragilis に関しては、特に Enterotoxigenic Bacteroides fragilis (ETBF) が重要で、ETBF に対する Th17 細胞の反応が発癌に繋がる可能性がある。また、Escherichia coli の産生する Colibactin (pks gene) は c-Myc を亢進することで、大腸癌進展に寄与する可能性がある。我々は、ETBF、Non-toxic Bacteroides fragilis、Escherichia coli with pks、Escherichia coli without pks の細菌 DNA を入手、positive control とし、qPCR による ETBF、Escherichia coli with pks 解析方法を確立した。しかし、パラフィン包埋ブロックより抽出した大腸癌癌部 DNA を用いた場合、検出率が大きく低下する事が明らかになった (ETBF 検出率 10%未満、Escherichia coli with pks 検出率 0%)。現在、検出率改善を目指した実験系の再設計を行っている。

オートファジーは自食作用とも言われ、がん代謝を制御している。なかでも SQSTM1 (p62) は近年のオートファジー研究の中で注目を集めるオートファジーマーカーの一つであり、SQSTM1 は発癌およびがん代謝との関連が強く示唆される。我々は、大腸癌約 600 例を対象に、癌部における SQSTM1 の発現レベルを免疫染色によって評価し、様々なリンパ球マーカー (CD3、CD8、CD45RO、FOXP3) との関連解析を行った。そして、SQSTM1 高発現が FOXP3 低下と有意に相関することを報告した (Kosumi K. OncoImmunology 2017)。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
米国、Dana-Farber Cancer Institute Dept. of Medical Oncology, Shuji Ogino	0 日	83 日	365 日	448 日

派遣者⑧：研究員

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)
 Mount Sinai 医科大学の星田研究室では肝細胞癌の発癌リスク因子の同定、および肝細胞癌の抗がん剤感受性に関して様々な研究を行っている。肝細胞癌はC型肝炎、B型肝炎、アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)などによる線維化を伴う背景肝より発症する疾患であるが、その発癌・進展に関わるメカニズムは不明な点が多い。臨床検体を用いたDNAマイクロアレイによる遺伝子解析を行い、発癌リスクや予後不良に関わるバイオマーカーを同定することで、これを用いた肝細胞癌の発癌・予後・治療効果の予測を行い、臨床応用することを目標としている。

(具体的な成果)

Diethylnitrosamine(DEN)肝発癌モデルにおいて、非癌部でEGFRが過剰発現していること、EGFR inhibitorであるErlotinibを投与することで肝細胞癌の発癌抑制効果を示すことを報告してきた(Fuchs BC, Hoshida et al. Hepatology. 2014)。発癌抑制を目指してErlotinibを臨床応用するにあたっては、予防投与による有害事象の出現をいかに防ぐことができるかが大きな問題になってくる。そこで、肝細胞癌の発癌に深く関与しているといわれている肝星細胞をターゲットとしたDrug delivery systemにより、Erlotinibをより選択的に作用させるシステムを構築した。その後にErlotinibによる肝細胞癌の発癌抑制効果を調べ、臨床に繋がる発癌抑制薬剤の探索を行った。正常肝には作用させず、線維化の進行した肝組織(肝星細胞)にのみ薬剤をDeliveryするため、肝の線維化の指標である肝星細胞に特異的に発現しているPlatelet-Derived Growth Factor Receptor (PDGFR)をターゲットとしたDrug delivery systemを構築することを目標とした。活性化した肝星細胞にはPDGFRが特異的に発現していることが分かっているため、PDGFRに特異的に結合する蛋白を膜表面に発現させ、Erlotinibを内部に含有させたNanoparticleを作成した。In vitroでは、PDGFR陽性であるLX2, TWNT4細胞株と陰性であるHepG2細胞株を使用し、Nanoparticleの肝星細胞への特異的な集積を確認した。In vivoでは、Nanoparticle投与による臓器集積性を確認し、肝臓特異的に作用するシステムの構築を行うとともに、Erlotinibによる肝線維化の抑制効果や肝細胞癌発癌抑制効果の確認を行った。DEN肝発癌モデルでは、前癌病変の指標であるGSTP1陽性細胞が高度に出現し、肝細胞癌の指標であるGPC3陽性も散見されていたのに対し、Erlotinibを内部に含有させたNanoparticleを投与したところその発現はほとんど確認できなかった。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
米国、Icahn School of Medicine at Mount Sinai, Yujin Hoshida	0日	0日	325日	325日

(6) 研究者の受入実績の詳細【氏名のみ非公表】 ※招へい者毎に作成すること。

招へい者①: Associate professor _____

(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

招へい者①医師は、膵癌症例のホルマリン固定パラフィン包埋組織より DNA を抽出し、バイサルファイト、LINE-1 増幅、パイロシークエンスによるメチル化レベルの測定を行った。また、消化器外科医局員に対して中国における膵癌治療、これまでの研究成果についての講演を行い、膵癌という病態とそのメカニズムを global な視点で検討する重要性を再確認した。

(具体的な成果)

膵癌 120 例、正常膵 36 例の LINE-1 メチル化レベルを測定することができた。その結果は、癌部と非癌部の LIME-1 メチル化レベルの比較、および LINE-1 メチル化レベルと臨床病理学的因子との関係、予後との関係について解析中であり、学会や論文発表を予定している。

招へい元（機関名、部局名、国名）及び日本側受入研究者（機関名）	受入期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
University, Department of Pancreatic and Thyroidal Surgery, China、馬場秀夫（熊本大学）	14 日	0 日	0 日	14 日

招へい者②の氏名・職名： Resident _____

(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

平成 27 年 6 月から 3 ヶ月間、招へい者①に引継ぎ、当科保有の膵癌データベースより抽出されたがん代謝関連バイオマーカーの機能解析を担当する。

(具体的な成果)

膵癌症例のホルマリン固定パラフィン包埋組織より DNA を抽出し、バイサルファイト、LINE-1 増幅、パイロシークエンスによるメチル化レベルの測定を行った。その結果について、癌部と非癌部の LIME-1 メチル化レベルの比較、および LINE-1 メチル化レベルと臨床病理学的因子との関係、予後との関係を検討し、論文発表を行った。

招へい元（機関名、部局名、国名）及び日本側受入研究者（機関名）	受入期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
Shengjing Hospital of China Medical University, Department of Pancreatic and Thyroidal Surgery, China、馬場秀夫（熊本大学）	0 日	78 日	0 日	78 日

招へい者③： • Assistant Professor _____

(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

連携研究者である Icahn School of Medicine at Mount Sinai の Assistant Professor 招へい者③を招聘し、Icahn School of Medicine at Mount Sinai、熊本大学における研究

進捗状況の確認、今後の研究実施についての打ち合わせを行う。また、平成27年度より連携機関として追加したため、派遣者の受入環境や、事務手続きに係る状況等について不都合な点等なかったかの確認を行う。また、平成28年度派遣予定の派遣者⑧とも直接面談のうえ、平成28年度以降の派遣計画がスムーズに進むよう打ち合わせを行う予定である。

(具体的な成果)

お互いの機関における研究進捗状況の報告を行い、平成28年度の研究計画について打ち合わせを行った。また、平成28年4月より Icahn School of Medicine at Mount Sinai へ派遣者⑧と面談を行い、Icahn School of Medicine at Mount Sinai での研究状況やスケジュールの説明、派遣生活また、英会話能力や実験手技レベルの確認を行うこともできた。

招へい元（機関名、部局名、国名）及び 日本側受入研究者（機関名）	招へい期間			合計
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
Icahn School of Medicine at Mount Sinai、 米国、馬場秀夫（熊本大学）	0日	6日	0日	6日

招へい者④：講師

(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

平成28年9月から約6ヶ月間、招へい者②に引継ぎ、当科保有の膵癌データベースより抽出されたがん代謝関連バイオマーカーの機能解析を担当する。また、膵癌細胞株を用いて、癌代謝関連分子の機能解析を行う。

(具体的な成果)

膵癌症例のホルマリン固定パラフィン包埋組織よりDNAを抽出し、バイサルファイト、LINE-1増幅、パイロシークエンスによるメチル化レベルの測定を行った。その結果について、癌部と非癌部のLINE-1メチル化レベルの比較、およびLINE-1メチル化レベルと臨床病理学的因子との関係、予後との関係を検討した。その成果は、現在腫瘍学のトップジャーナルに投稿中である。また、がん代謝に関連する分子としてLOXに注目し、膵癌細胞株を用いて機能解析を行っている。

招へい元（機関名、部局名、国名）及び日本 側受入研究者（機関名）	受入期間			合計
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
Shengjing Hospital of China Medical University, Department of Pancreatic and Thyroidal Surgery, China、馬場秀夫 (熊本大学)	0日	0日	157日	157日

招へい者⑤：教授

(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

連携研究者である MD Anderson cancer center、Department of Gastrointestinal (GI) Medical Oncology の Professor 招へい者⑤を招聘し、MD Anderson cancer center、熊本大学における研究進捗状況の確認、本プログラム終了後の研究実施についての打ち合わせを行う。また、派遣者の受入環境や、事務手続きに係る状況等について不都合な点等なかったかの確認を行う。

(具体的な成果)

平成 29 年 2 月 8 日から 2 月 12 日に熊本大学へ招へいし、研究の進捗状況、今後の方針などについての discussion を行った。また、2 月 11 日に拠点形成研究 A と共催の国際シンポジウムへ参加し、熊本大学教職員、学生を対象として「胃癌におけるがん代謝の特徴」についてのレクチャーを行った。

招へい元（機関名、部局名、国名）及び日本側受入研究者（機関名）	受入期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
MD Anderson cancer center、Department of Gastrointestinal (GI) Medical Oncology、米国、馬場秀夫（熊本大学）	0 日	0 日	5 日	5 日

招へい者⑥：教授_____

(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

連携研究者である Shengjing Hospital of China Medical University, Department of Pancreatic and Thyroidal Surgery の Professor 招へい者⑥を招聘し、Shengjing Hospital of China Medical University、熊本大学における研究進捗状況の確認、本プログラム終了後の研究実施についての打ち合わせを行う。また、招へい研究者の受入に関する事務手続きに係る状況等について不都合な点等なかったかの確認を行い、招へい研究者である招へい者④医師とも面談、研究活動及び日常生活についての確認をしてもらう。

(具体的な成果)

平成 29 年 2 月 10 日から 2 月 12 日まで熊本大学消化器外科学を訪問し、招へい者④医師の生活状況、研究の進捗状況について確認、今後の研究推進に関する打ち合わせを行った。また、2 月 11 日には拠点形成研究 A と共催の国際シンポジウムへ参加し、熊本大学教職員、学生を対象として「膵癌における浸潤・転移機構の解析」についてのレクチャーを行った。

招へい元（機関名、部局名、国名）及び日本側受入研究者（機関名）	受入期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
Shengjing Hospital of China Medical University, Department of Pancreatic and Thyroidal Surgery, China、馬場秀夫（熊本大学）	0 日	0 日	3 日	3 日

資料3 国際共同研究の計画概要・方法

(1) 実施期間中における研究のスケジュールと実施内容の概要

平成26年度より、Dana-Farber Cancer Institute、Duke-NUS Graduate Medical School Singaporeへ研究者を派遣し、現地での研究を開始、Shengjing Hospital of China Medical Universityより研究者の受入を行った。The University of Texas MD Anderson Cancer Center、Norris Comprehensive Cancer Centerとはメール、スカイプ等を通して、打ち合わせを進めるとともに、そのおかげで、平成27年度より滞りなく、研究者を派遣、現地での研究を開始することができた。

(2) 成果の概要

① Dana-Farber Cancer Instituteとの共同研究の到達目標は、大腸癌におけるがん代謝マーカーの発現と予後、分子的变化との関連を網羅的に解析し、新たながん代謝関連バイオマーカーを確立することであった。美馬研究員は、大腸癌におけるがん代謝、microbiomeに関するバイオマーカーの探索を行った。大腸癌組織中のグラム陰性嫌気性桿菌である *Fusobacterium nucleatum* の存在量を quantitative PCR を用いて評価した。組織中の T 細胞数との関連を解析し、その結果は一流誌である JAMA Oncology 誌に掲載された。また、*Fusobacterium nucleatum* と大腸癌予後との関連については、一流誌である GUT 誌に報告した。また、引き続き小澄研究員が Dana-Farber Cancer Institute での国際共同研究を開始しており、組織中の T 細胞数と p62 発現との関連を Oncoimmunology 誌に報告した。

② Duke-NUS Graduate Medical School Singapore: 胃癌および食道胃接合部癌の切除標本から腫瘍間質に存在する CAFs 及び normal fibroblasts (NFs) 細胞株の樹立をおこなっている。網羅的ゲノム解析として、次世代シーケンサーによる9ペアでのエクソームシーケンシング、11ペアでの RNA シーケンシングをおこなった。ゲノム解析は、Duke-NUS Graduate Medical School Singapore, Cancer and Stem Cell Biology Program にておこない、現在、網羅的解析から得られたデータの中で CAFs に特異的な変化を見出した。現在、その研究成果を消化器病学のトップジャーナルに投稿した。(Ishimoto T et al. Gastroenterology, in press)。

③ Shengjing Hospital of China Medical University: まず、重要なゲノム変化として KRAS 遺伝子変異に着目して解析を開始した。KRAS 変異は膵癌予後に影響を及ぼさないという結果が得られ、本研究結果は Medical Oncology (Med Oncol 2016; 33: 32) に掲載された。現在は、膵癌における LOX のがん代謝における役割に関する研究を遂行しており、興味深い結果が得られている。

④ The University of Texas MD Anderson Cancer Center: 腹水を伴う胃癌患者より、腹水を採取し腹水細胞を分離した。分離した細胞より、DNA、RNA、タンパクを採取し、それぞれを Exon Sequence, RNA Sequence, 液体クロマトグラフィー質量分析法による網羅的解析を行った。腹水細胞をマウスに移植することで PDX モデルを作製することにも成功している。液体クロマトグラフィー質量分析では、代謝酵素の一つでがん幹細胞との関係が報告されている ALDH1 が腹水細胞に増加していることを明らかにされた。

⑤ Norris Comprehensive Cancer Center: 肥満による癌死亡リスク上昇も報告されているが、肥満が癌に与える影響は、脂肪組織により産生されるアディポカインレベルに左

右される。切除不能大腸癌に対する bevacizumab 併用化学療法の治療効果予測因子として、アディポカイン関連遺伝子についての機能性 SNP 解析を行ったところ、アディポカインシグナルは有用なバイオマーカーになりうる可能性はあるものの、人種や BMI 値の影響を受けることが明らかになった。これらの研究に関する総説を報告した(Miyamoto Y et al. Clin Cancer Res 2016)

⑥ Icahn School of Medicine at Mount Sinai: 中川茂樹医師及び東孝暁医師は、アルコール性肝疾患、NAFLD/NASH といった肝代謝異常から発症する肝細胞癌の発生を予測する gene signature を検討、およびその癌発症の代謝メカニズムを解明することによる発癌予防薬のスクリーニングを行った。その成果は、国際一流誌である Cancer Cell(IF 23.2)に掲載された。

(3) 本事業を契機として新たに始まった国際共同研究

(件)

合計	うち、相手先機関以外
5	1

資料4. 共同研究成果の発表状況

①学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文又は著書

	<p>論文名・著書名 等 (以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・査読がある場合、印刷済及び採録決定済のものに限って記載して下さい。査読中・投稿中のものは除きます。 ・本事業の研究成果で、DP(ディスカッション・ペーパー)、Web等の形式で公開されているものなど速報性のあるものも、3件以内で付記することができます。 ・さらに数がある場合は、欄を追加して下さい。 ・著者名について、責任著者に「※」印を付してください。また、主担当研究者には<u>二重下線</u>、担当研究者には<u>下線</u>、派遣した若手研究者には<u>波線</u>、海外の主要連携研究者には<u>斜体・太下線</u>、連携研究者には<u>斜体・破線</u>を付してください。 ・共同研究の相手側となる海外の研究機関との国際共著論文等には、番号の前に「◎」印を、また、それ以外の国際共著論文については番号の前に「○」印を付してください。速報性のあるものについては番号の前に「□」印を付してください。 ・当該論文の被引用状況について特筆すべき状況があれば付記してください。 ・上記のうち、主な発表論文のコピー(A4版)を2件以内で添付し、添付したコピーの表紙等の右上にそれぞれに「事業番号」を記入するとともに、当該論文の番号の前に「★」印を付してください。
★ 1◎	<p>※Ishimoto T, Miyake K, Nandi T, Yashiro M, Onishi N, Huang KK, Joyce LN, Kalpana R, Tay ST, Suzuki Y, Cho BC, Kuroda D, Arima K, Izumi D, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u>, Oki E, Watanabe M, Saya H, Hirakawa K, <u>Baba H</u>, <u>Tan P</u>. Activation of Transforming Growth Factor Beta 1 Signaling in Gastric Cancer-associated Fibroblasts Increases Their Motility, via Expression of Rhomboid 5 Homolog 2, and Ability to Induce Invasiveness of Gastric Cancer Cells. <i>Gastroenterology</i>. 2017 (in press)</p>
2◎	<p>※Kosumi K, Masugi Y, Yang J, Qian Z, Kim S, Li W, Shi Y, da Silva A, Hamada T, Liu L, Gu M, Twombly T, Cao Y, Barbie D, Noshio K, <u>Baba H</u>, Garrett W, Meyerhardt J, Giovannucci E, Chan A, Fuchs C, <u>Ogino S</u>, Nishihara R: Tumor SQSTM1 (p62) expression and T cells in colorectal cancer. <i>OncImmunity</i> (in press) 査読有</p>
3◎	<p>※Mehta RS, Nishihara R, Cao Y, Song M, <u>Mima K</u>, Qian ZR, Nowak JA, <u>Kosumi K</u>, Hamada T, Masugi Y, Bullman S, Drew DA, Kostic AD, Fung TT, Garrett WS, Huttenhower C, Wu K, Meyerhardt JA, Zhang X, Willett WC, Giovannucci EL, Fuchs CS, Chan AT, <u>Ogino S</u>. Association of Dietary Patterns With Risk of Colorectal Cancer Subtypes Classified by Fusobacterium Nucleatum in Tumor Tissue. <i>JAMA Oncol</i>. 2017 in press (published online). 査読有</p>
4◎	<p>※Drew DA, Nishihara R, Lochhead P, Kuchiba A, Qian ZR, <u>Mima K</u>, Noshio K, Wu K, Wang M, Giovannucci E, Fuchs CS, Chan AT, <u>Ogino S</u>. A Prospective Study of Smoking and Risk of Synchronous Colorectal Cancers. <i>Am J Gastroenterol</i>. 2017 in press (published online). 査読有</p>
5◎	<p>※Masugi Y, Nishihara R, Yang J, <u>Mima K (co-first author)</u>, Silva A, Shi Y, Inamura K, Cao Y, Song M, Nowak JA, Liao X, Noshio K, Chan AT, Giannakis M, Bass AJ, Hodi FS, Freeman GJ, Rodig S, Fuchs CS, Qian ZR, <u>Ogino S</u>. Tumour CD274 (PD-L1) expression and T cells in colorectal cancer. <i>Gut</i>. 2016 in press (published online). 査読有</p>
6◎	<p>※Zhou L, <u>Baba Y</u>, Kitano Y, Miyake K, Zhang X, Yamamura K, <u>Kosumi K</u>, Kaida T, Arima K, Taki K, <u>Higashi T</u>, Imai K, Hashimoto D, Yamashita Y, Chikamoto A, Beppu T, <u>Tan X</u>, <u>Baba H</u>: KRAS, BRAF, PIK3CA Mutations, and Patient Prognosis in 126 Pancreatic Cancers: Pyrosequencing Technology and Literature Review. <i>Med Oncol</i> 33(4):32, 2016. 査読有</p>
7◎	<p>※Yang S, Imamura Y, Jenkins R, Canadas I, Kitajima S, Aref A R, Brannon LA, Oki E, Castoreno A, Zhu Z, Thai T, Reibel J, Qian Z, <u>Ogino S</u>, Wong K, <u>Baba H</u>, Kimmelman CA, Magliano M, Barbie DA: Autophagy inhibition dysregulates TBK1 signaling and promotes pancreatic inflammation. <i>Cancer Immunol Res</i> 4(6):520-30, 2016. 査読有</p>
8◎	<p>※Harada K, Kaya MD, Shimodaira Y, Song S, <u>Baba H</u>, <u>Ajani JA</u>: Proteomics approach to identify biomarkers for upper gastrointestinal cancer. <i>Expert Rev Proteomics</i> 13(11), 2016. 査読有</p>
★ 9◎	<p>※Nakagawa S, Wei L, Won MS, <u>Higashi T</u>, Ghoshal S, Kim SR, Bian CB, Yamada S, Sun X, Venkatesh A, Goossens N, Brain G, Gregory LY, Koh A, EL-Abtah M, Ahmad BN, Hoshida H, Erstad JD, Gunasekaran G, Lee Y, Yu ML, Chuang W-L, Dai C-Y, Kobayashi M, Kumada H, Beppu T, <u>Baba H</u>, Mahajan M, Nair V, Lanuti M, Villanueva A, Sangiovanni A, Iavarone M, Colombo M, Llovet MJ, Subramanian A, Tager MA, Friedman SL, Baumert TF, Schwarz ME, Chung RT, Tanabe K, Zhang B, Fuchs CB, <u>Hoshida Y</u>: Molecular liver cancer prevention in cirrhosis by organ transcriptome analysis and lysophosphatidic acid pathway inhibition. <i>Cancer Cell</i> 30(6):879-90, 2016. 査読有</p>

10 ◎	※ <u>Mima K</u> , Nishihara R, Yang J, Dou R, Masugi Y, Shi Y, da Silva A, Cao Y, Song M, Nowak J, Gu M, Li W, Morikawa T, Zhang X, Wu K, <u>Baba H</u> , Giovannucci EL, Meyerhardt JA, Chan AT, Fuchs CS, Qian ZR, <u>Ogino S</u> : MicroRNA MIR21 (miR-21) and PTGS2 Expression in Colorectal Cancer and Patient Survival. <i>Clin Cancer Res</i> 22(15):3841-8, 2016. 査読有
11 ◎	※ <u>Miyamoto Y</u> , Hanna DL, Zhang W, <u>Baba H</u> , <u>Lenz HJ</u> : Molecular Pathways: Cachexia Signaling-A Targeted Approach to Cancer Treatment. <i>Clin Cancer Res</i> 22(16):3999-4004, 2016. 査読有
12 ◎	※ <u>Mima K</u> , Nishihara R, Nowak JA, Kim SA, Song M, Inamura K, Sukawa Y, Masuda A, Yang J, Dou R, Noshō K, <u>Baba H</u> , Giovannucci EL, Bowden M, Loda M, Giannakis M, Bass AJ, Dranoff G, Freeman GJ, Chan AT, Fuchs CS, Qian ZR, <u>Ogino S</u> : MicroRNA MIR21 and T cells in colorectal cancer. <i>Cancer Immunol Res</i> 4(1):33-40, 2016. 査読有
13 ◎	※ <u>Ishimoto T</u> , <u>Baba H</u> , Izumi D, Sugihara H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Tan P</u> : Current perspectives towards the identification of key players in gastric cancer microRNA dysregulation. <i>Int J Cancer</i> 138(6):1337-49, 2016. 査読有
14 ◎	※Izumi D, <u>Ishimoto T</u> , Miyake K, Sugihara H, Eto K, Sawayama H, Yasuda T, Kiyozumi Y, Kaida T, Kurashige J, Imamura Y, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, Takamori H, Araki N, <u>Tan P</u> , <u>Baba H</u> : CXCL12/CXCR4 activation by cancer-associated fibroblasts promotes integrin α 1 clustering and invasiveness in gastric cancer. <i>Int J Cancer</i> 138(5):1207-19, 2016. 査読有
15 ◎	※Kurashige J, Hasegawa T, Niida A, Sugimachi K, Deng N, <u>Mima K</u> , Uchi R, Sawada G, Takahashi Y, Eguchi H, Inomata M, Kitano S, Fukagawa T, Sasako M, Sasaki H, Sasaki S, Mori M, Yanagihara K, <u>Baba H</u> , Miyano S, <u>Tan P</u> , Mimori K: Integrated Molecular Profiling of Human Gastric Cancer Identifies DDR2 as a Potential Regulator of Peritoneal Dissemination. <i>Sci Rep</i> 6(22371), 2016. 査読有
16 ◎	※ <u>Mima K</u> , Nowak AJ, Qian Z, Cao Y, Song M, Masugi Y, Shi Y, da Silva A, Gu M, Li W, Hamada T, Zhang X, Wu K, Meyerhardt J, <u>Baba H</u> , Giovannucci EL, Chan AT, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Nishihara R: Tumor LINE-1 methylation level and colorectal cancer location in relation to patient survival. <i>Oncotarget</i> 7(34):55098-109, 2016. 査読有
17 ◎	※ <u>Mima K</u> , Cao Y, Chan AT, Qian ZR, Nowak JA, Masugi Y, Shi Y, Song M, Da Silva A, Gu M, Li W, Hamada T, <u>Kosumi K</u> , Hanyuda A, Liu L, Kostic AD, Giannakis M, Bullman S, Brennan C, Milner DA, <u>Baba H</u> , Garraway LA, Meyerhardt JA, Garrett WS, Huttenhower C, Meyerson M, Giovannucci EL, Fuchs CS, Nishihara R, <u>Ogino S</u> : Fusobacterium nucleatum in Colorectal Carcinoma Tissue according to Tumor Location. <i>Clin Transl Gastroenterol</i> 3(7):11, 2016. 査読有
18 ◎	※ <u>Miyamoto Y</u> , <u>Lenz H-J</u> , <u>Baba H</u> : A novel antimetabolite: TAS-102 for metastatic colorectal cancer. <i>Expert Rev Clin Pharmacol</i> 9(3):355-65, 2016. 査読有
19 ◎	※Dou R, Nishihara R, Cao Y, Hamada T, <u>Mima K</u> , Masuda A, Masugi Y, Shi Y, Gu M, Li W, da Silva A, Noshō K, Zhang X, Meyerhardt JA, Giovannucci EL, Chan AT, Fuchs CS, Qian ZR, <u>Ogino S</u> . MicroRNA let-7, T Cells, and Patient Survival in Colorectal Cancer. <i>Cancer Immunol Res</i> . 2016;4:927-935. 査読有
20 ◎	※Qian ZR, Li T, Ter-Minassian M, Yang J, Chan JA, Brais LK, Masugi Y, Thiaglingam A, Brooks N, Nishihara R, Bonnemarie M, Masuda A, Inamura K, Kim SA, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Dou R, Lin X, Christiani DC, Schmidlin F, Fuchs CS, Mahmood U, <u>Ogino S</u> , Kulke MH. Association Between Somatostatin Receptor Expression and Clinical Outcomes in Neuroendocrine Tumors. <i>Pancreas</i> . 2016;45:1386-1393. 査読有
21 ◎	※Cao Y, Nishihara R, Qian ZR, Song M, <u>Mima K</u> , Inamura K, Nowak JA, Drew DA, Lochhead P, Noshō K, Morikawa T, Zhang X, Wu K, Wang M, Garrett WS, Giovannucci EL, Fuchs CS, Chan AT, <u>Ogino S</u> . Regular Aspirin Use Associates with Lower Risk of Colorectal Cancers With Low Numbers of Tumor-infiltrating Lymphocytes. <i>Gastroenterology</i> . 2016;151:879-892. 査読有
22 ◎	※Giannakis M, Mu XJ, Shukla SA, Qian ZR, Cohen O, Nishihara R, Bahl S, Cao Y, Amin-Mansour A, Yamauchi M, Sukawa Y, Stewart C, Rosenberg M, <u>Mima K</u> , Inamura K, Noshō K, Nowak JA, Lawrence MS, Giovannucci EL, Chan AT, Ng K, Meyerhardt JA, Van Allen EM, Getz G, Gabriel SB, Lander ES, Wu CJ, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Garraway LA. Genomic Correlates of Immune-Cell Infiltrates in Colorectal Carcinoma. <i>Cell Rep</i> . 2016;15:857-865. 査読有
23 ◎	※Song M, Nishihara R, Cao Y, Chun E, Qian ZR, <u>Mima K</u> , Inamura K, Masugi Y, Nowak JA, Noshō K, Wu K, Wang M, Giovannucci E, Garrett WS, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Chan AT. Marine ω -3 Polyunsaturated Fatty Acid Intake and Risk of Colorectal Cancer Characterized by Tumor-Infiltrating T Cells. <i>JAMA Oncol</i> . 2016;2:1197-1206. 査読有
24 ◎	※Hanyuda A, <u>Ogino S</u> , Rong Qian Z, Nishihara R, Song M, <u>Mima K</u> , Inamura K, Masugi Y, Wu K, Meyerhardt JA, Chan AT, Fuchs CS, Giovannucci EL, Cao Y. Body mass index and risk of colorectal cancer according to tumor lymphocytic infiltrate. <i>Int J Cancer</i> . 2016;139:854-68. 査読有

25 ◎	※Kim SA, Inamura K, Yamauchi M, Nishihara R, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Li T, Yasunari M, Morikawa T, Fitzgerald KC, Fuchs CS, Wu K, Chan AT, Zhang X, <u>Ogino S</u> , Qian ZR. Loss of CDH1 (E-cadherin) expression is associated with infiltrative tumour growth and lymph node metastasis. <i>Br J Cancer</i> . 2016;114:199-206. 査読有
26 ◎	※Inamura K, Song M, Jung S, Nishihara R, Yamauchi M, Lochhead P, Qian ZR, Kim SA, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Masuda A, Imamura Y, Zhang X, Pollak MN, Mantzoros CS, Harris CC, Giovannucci E, Fuchs CS, Cho E, Chan AT, Wu K, <u>Ogino S</u> . Prediagnosis Plasma Adiponectin in Relation to Colorectal Cancer Risk According to KRAS Mutation Status. <i>J Natl Cancer Inst</i> . 2015;108. pii: djv363. doi: 10.1093/jnci/djv363. 査読有
27 ◎	※Hanyuda A, Kim SA, Martinez-Fernandez A, Qian ZR, Yamauchi M, Nishihara R, Morikawa T, Liao X, Inamura K, <u>Mima K</u> , Cao Y, Zhang X, Wu K, Chan AT, Giovannucci EL, Meyerhardt JA, Fuchs CS, Shivdasani RA, <u>Ogino S</u> . Survival Benefit of Exercise Differs by Tumor IRS1 Expression Status in Colorectal Cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> . 2016;23:908-17. 査読有
28 ◎	※McCleary NJ, Sato K, Nishihara R, Inamura K, Morikawa T, Zhang X, Wu K, Yamauchi M, Kim SA, Sukawa Y, <u>Mima K</u> , Qian ZR, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Meyerhardt JA. Prognostic utility of molecular factors by age at diagnosis of colorectal cancer. <i>Clin Cancer Res</i> . 2016;22:1489-98. 査読有
29 ◎	※ <u>Mima K</u> , Nishihara R, Qian ZR, Cao Y, Sukawa Y, Nowak JA, Yang J, Dou R, Masugi Y, Song M, Kostic AD, Giannakis M, Bullman S, Milner DA, <u>Baba H</u> , Giovannucci EL, Garraway LA, Freeman GJ, Dranoff G, Garrett WS, Huttenhower C, Meyerson M, Meyerhardt JA, Chan AT, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> . Fusobacterium nucleatum in colorectal carcinoma tissue and patient prognosis. <i>Gut</i> . 2016;65: 1973-1980. 査読有
30 ◎	※Song M, Nishihara R, Wang M, Chan AT, Qian ZR, Inamura K, Zhang X, Ng K, Kim SA, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Nosho K, Fuchs CS, Giovannucci EL, Wu K, <u>Ogino S</u> . Plasma 25-hydroxyvitamin D and colorectal cancer risk according to tumor immunity status. <i>Gut</i> . 2016;65:296-304. 査読有
31 ◎	※Lu H, Rogowsky J, Yu W, Venkatesh A, Khan N, <u>Nakagawa S</u> , Goossens N, Koh AP, <u>Higashi T</u> , Gunasekaran G, Schwarz ME, Hiotis SP, Xu X, Kinney W, <u>Hoshida Y</u> , Block T, Cuconati A, Du Y. Novel substituted aminothiazoles as potent and selective anti-hepatocellular carcinoma agents. <i>Bioorg Med Chem Lett</i> . 2016 Dec 1;26(23):5819-5824. 査読有
32 ◎	※Bollard J, Miguela V, Ruiz de Galarreta M, Venkatesh A, Bian CB, Roberto MP, Tovar V, Sia D, Molina-Sánchez P, Nguyen CB, <u>Nakagawa S</u> , Llovet JM, <u>Hoshida Y</u> , Lujambio A. Palbociclib (PD-0332991), a selective CDK4/6 inhibitor, restricts tumour growth in preclinical models of hepatocellular carcinoma. <i>Gut</i> . 2016 Nov 14. pii: gutjnl-2016-312268. 査読有
33 ◎	※Goossens N, <u>Hoshida Y</u> , Song WM, Jung M, Morel P, <u>Nakagawa S</u> , Zhang B, Frossard JL, Spahr L, Friedman SL, Negro F, Rubbia-Brandt L, Giostra E. Nonalcoholic Steatohepatitis Is Associated With Increased Mortality in Obese Patients Undergoing Bariatric Surgery. <i>Clin Gastroenterol Hepatol</i> . 2016 Nov;14(11):1619-1628. 査読有
34 ◎	※Tan PS, <u>Nakagawa S</u> (co-first author), Goossens N, Venkatesh A, Huang T, Ward SC, Sun X, Song WM, Koh A, Canasto-Chibuque C, Deshmukh M, Nair V, Mahajan M, Zhang B, Fiel MI, Kobayashi M, Kumada H, <u>Hoshida Y</u> . Clinicopathological indices to predict hepatocellular carcinoma molecular classification. <i>Liver Int</i> . 2016 36(1):108-18. 査読有
35 ◎	※Huang KK, Jang KW, Kim S, Kim HS, Kim SM, Kwon HJ, Kim HR, Yun HJ, Ahn MJ, Park KU, Ramnarayanan K, McPherson JR, Zhang S, Rhee JK, Vettore AL, Das K, <u>Ishimoto T</u> , Kim JH, Koh YW, Kim SH, Choi EC, Teh BT, Rozen SG, Kim TM, <u>Tan P</u> , Cho BC. Exome sequencing reveals recurrent REV3L mutations in cisplatin-resistant squamous cell carcinoma of head and neck. <i>Sci Rep</i> . 2016 21;6:19552. 査読有
36 ◎	※Berger MD, Yang D, Sunakawa Y, Zhang W, Ning Y, Matsusaka S, Okazaki S, <u>Miyamoto Y</u> , Suenaga M, Schirripa M, Lenz AM, Bohanes P, Barzi A, Figueiredo JC, Hanna DL, <u>Lenz HJ</u> . Impact of sex, age, and ethnicity/race on the survival of patients with rectal cancer in the United States from 1988 to 2012. <i>Oncotarget</i> . 2016 16;7(33):53668-53678. 査読有
37 ◎	※ <u>Miyamoto Y</u> , Zhang W. & <u>Lenz HJ</u> . Molecular Landscape and Treatment Options for Patients with Metastatic Colorectal Cancer. <i>Indian J. Surg. Oncol</i> . 2016 査読有
38 ◎	※Matsusaka S, Hanna DL, Cao S, Zhang W, Yang D, Ning Y, Sunakawa Y, Okazaki S, Berger MD, <u>Miyamoto Y</u> , Parekh A, Stintzing S, Loupakis F, <u>Lenz HJ</u> *. Prognostic Impact of IL6 Genetic Variants in Patients with Metastatic Colorectal Cancer Treated with Bevacizumab-Based Chemotherapy. <i>Clin Cancer Res</i> 2016 22, 3218-3226 査読有
39 ◎	※Ning Y, Zhang W, Hanna D.L, Yang D, Okazaki S, Berger M.D., <u>Miyamoto Y</u> , Suenaga M, Schirripa M, El-Khoueiry A, <u>Lenz H.-J</u> . Clinical relevance of EMT and stem-like gene expression in circulating tumor cells of metastatic colorectal cancer patients. <i>Pharmacogenomics J</i> . 2016 9. doi: 10.1038/tpj.2016.62. [Epub ahead of print]

40 ◎	※Mitsukuni S, Schirripa S, Cao S, Zhang W, Yang D, Murgioni S, Rossini D, Marmorino F, Mennitto A, Ning Y, Okazaki S, Berger M.D, <u>Miyamoto Y</u> , Gopez R, Barzi A, Yamaguchi T, Loupakis F, <u>Lenz H.-J.</u> : Genetic variants of DNA repair-related genes predict efficacy of TAS-102 in patients with refractory metastatic colorectal cancer. <i>Ann Oncol</i> . 2017 May 1;28(5):1015-1022. 査読有
41 ○	※Imai K, Benitez C, MA A, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, <u>Baba H</u> , Adam R: Potential of a cure in patients with colorectal liver metastases and concomitant extrahepatic disease. <i>J Surg Oncol</i> (in press). 査読有
42 ○	※Imai K, Allard AM, Benitez CC, Vibert E, Cunha SA, Cherqui D, Castaing D, <u>Baba H</u> , Adam R: Long-term outcomes of radiofrequency ablation combined with hepatectomy compared to hepatectomy alone for colorectal liver metastases. <i>Br J Surg</i> (Doi: 10.1002/bjs.10447, in press) 査読有
43 ○	※Tokunaga R, Imamura Y, Nakamura K, <u>Ishimoto T</u> , <u>Nakagawa S</u> , Miyake K, Nakaji Y, Tsuda Y, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Saeki H, Yoshida N, Oki E, Watanabe M, Oda Y, Bass AJ, Maehara Y, <u>Baba H</u> : Fibroblast growth factor receptor 2 expression, but not its genetic amplification, is associated with tumor growth and worse survival in esophagogastric junction adenocarcinoma. <i>Oncotarget</i> 7(15):19748-61, 2016. 査読有
44 ○	※Okabe H, Kinoshita H, Imai K, <u>Nakagawa S</u> , <u>Higashi T</u> , Arima K, Uchiyama H, Ikegami T, Harimoto N, Itoh S, Ishiko T, Yoshizumi T, Beppu T, Monga SP, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Diverse basis of β -catenin activation in human hepatocellular carcinoma: Implications in biology and prognosis. <i>PLOS ONE</i> 11(4):e0152695, 2016. 査読有
45 ○	※Okabe H, Yang J, Sylakowski K, Yovchev M, Miyagawa Y, Nagarajan S, Chikina M, Oertel M, <u>Baba H</u> , Singh Monga S, Nejak-Browen K: Wnt signaling regulates hepatobiliary repair following cholestatic liver injury in mice. <i>Hepatology</i> 64(5):1652-1666, 2016. 査読有
46 ○	※Adam R, Imai K, Castro Benitez C, Allard MA, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, <u>Baba H</u> , Castaing D: Outcome after associating liver partition and portal vein ligation for staged hepatectomy and conventional two-stage hepatectomy for colorectal liver metastases. <i>Br J Surg</i> 103(11):1521-9, 2016. 査読有
47 ○	※Imai K, Allard M-A, Castro Benitez C, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, <u>Baba H</u> , Adam R: Nomogram for prediction of prognosis in patients with initially unresectable colorectal liver metastases. <i>Br J Surg</i> 103(5):590-599, 2016. 査読有
48 ○	※Imai K, Allard M-A, Benitez CC, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, <u>Baba H</u> , Adam R: Early recurrence after hepatectomy for colorectal liver metastases: What optimal definition and what predictive factors? <i>Oncologist</i> 21(7):887-94, 2016. 査読有
49	※Chikamoto A, Hashimoto D, Uchihara T, Sakamoto K, Taki K, Kuroki H, Sakata K, Hayashi H, Nitta H, Imai K, Beppu T, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Portal vein embolization through the round ligament of the liver. <i>Hepato-Gastroenterol</i> (in press) 査読有
50	※Takeyama H, Hashimoto D, Ikeda K, Chikamoto A, Hayashi H, Beppu T, Suzuki M, <u>Baba H</u> : Comparison of KRAS status of resected lung metastasis and primary pancreatic cancer. <i>Hepato-Gastroenterol</i> (in press) 査読有
51	※Akagi J, <u>Baba H</u> , Sekine T, Ogawa K: CD57-related CD8+ T lymphocytes are highly associated with the efficacy of immunotherapy using activated autologous lymphocytes. (in press) 査読有
52	※Miyata T, Yamashita Y, Yamao T, Umezaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Yamamura K, Arima K, Kaida T, <u>Nakagawa S</u> , Imai K, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Asato T, Mikami Y, Aishima S, <u>Baba H</u> : Hepatocellular carcinoma developed with Angiomyolipoma. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> (in press) 査読有
53	※Yamamura K, <u>Baba Y</u> , Miyake K, Nakamura K, Shigaki H, <u>Mima K</u> , Kurashige J, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, Sakamoto Y, Yamashita Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Fusobacterium nucleatum in gastroenterological cancers: Measuring method using quantitative real-time PCR and literature review. <i>Oncol Lett</i> (in press) 査読有
54	※Yoshida N, Eto K, <u>Baba Y</u> , Hiyoshi Y, Watanabe M, Kurashige J, Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Baba H</u> : Short-term outcomes after esophagectomy for esophageal cancer patients with a history of gastrectomy. <i>Hepato-Gastroenterol</i> (in press) 査読有
55	※Arima K, Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Nitta H, <u>Higashi T</u> , Kaida T, Yamamura K, Kitano Y, Komohara Y, Yamashita Y, Beppu T, Takeya M, <u>Baba H</u> : Neutrophil-to-lymphocyte ratio predicts metachronous liver metastasis of pancreatic neuroendocrine tumors. <i>Int J Clin Oncol</i> (in press). 査読有
56	※Yamashita Y, Tsujita E, Chikamoto A, Imai K, Kaida T, Yamao T, Umezaki N, <u>Nakagawa S</u> , Hashimoto D, <u>Baba H</u> : Linear stapling device with pre-attached bioabsorbable polyglycolic acid felt reduces postoperative pancreatic fistula after distal pancreatectomy. <i>Anticancer Res</i> (in press). 査読有

57	※Hayashi H, Kuroki H, <u>Higashi T</u> , Takeyama H, Yokoyama N, Okabe H, Nitta H, Beppu T, Takamori H, <u>Baba H</u> : TSP-1 expression may be implicated in liver atrophic mechanism due to obstructed portal venous flow. <i>Hepatol Res</i> (Doi: 10.1111/hepr.12792, in press) 査読有
58	※Tokunaga R, Sakamoto Y, <u>Nakagawa S</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : The utility of tumor markers combination, including serum P53 antibody, in colorectal cancer treatment. <i>Surg Today</i> (Doi: 10.1007/s00595-016-1464-8, in press) 査読有
59	※Hayashi H, Kuroki H, <u>Higashi T</u> , Takeyama H, Yokoyama N, Okabe H, Nitta H, Beppu T, Takamori H, <u>Baba H</u> : Thrombospondin-1 expression may be implicated in liver atrophic mechanism due to obstructed portal venous flow. <i>Hepatol Res</i> (Doi: 10.1111/hepr.12792, in press) 査読有
60	※ <u>Baba Y</u> , Yoshida N, Kinoshita K, Iwatsuki M, Yamashita Y, Chikamoto A, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Clinical and prognostic features of patients with esophageal cancer and multiple primary cancers: a retrospective single institution study. <i>Ann Surg</i> (Doi: 10.1097/SLA.0000000000002118, in press) 査読有
61	※Tamura K, Aiba K, Saeki T, Nakanishi Y, Kamura T, <u>Baba H</u> , Yoshida K, Yamamoto N, Kitagawa Y, Maehara Y, Shimokawa M, Hirata K, Kitajima M: Breakthrough chemotherapy-induced nausea and vomiting: report of a nationwide survey by the CINV Study Group of Japan. <i>Int J Clin Oncol</i> (Doi: 10.1007/s10147-016-1069-7, in press) 査読有
62	※Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Morikatsu Y, Taki K, Arima K, Imai K, Tamura Y, Ikeda O, Ishiko T, Uchiyama H, Ikegami T, Harimoto N, Itoh S, Yamashita Y, Yoshizumi T, Beppu T, Yamashita Y, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Shape and enhancement characteristics of pancreatic neuroendocrine tumor on preoperative contrast-enhanced computed tomography may be prognostic indicators. <i>Ann Surg Oncol</i> (Doi: 10.1245/s10434-016-5630-4, in press) 査読有
63	※Kumai Y, Yoshida N, Kamenosono Y, Matsubara K, Samejima Y, <u>Baba H</u> , Yumoto E: Effects of chin-down maneuver on the parameters of swallowing function following esophagectomy with three-field lymphadenectomy examined by videofluoroscopy. <i>Arch Phys Med Rehabil</i> (Doi: 10.1016/j.apmr.2016.11.005, in press) 査読有
64	※Kaida T, Nitta H, Kitano Y, Yamamura K, Arima K, <u>Higashi T</u> , Taki K, <u>Nakagawa S</u> , Okabe H, Hayashi H, Imai K, Hashimoto D, Yamashita Y, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : Preoperative platelet-to-lymphocyte ratio can predict recurrence beyond the Milan criteria after hepatectomy for patients with hepatocellular carcinoma. <i>Hepatol Res</i> (Doi: 10.1111/hepr.12835, in press) 査読有
65	※Kuramoto M, Ikeshima S, Yamamoto K, Morita K, Uchihara T, Itouyama R, Yoshimatsu S, Shimada S, <u>Baba H</u> : The intentional oblique transection double stapling technique in anterior resection for rectal cancer. <i>Surg Today</i> (Doi: 10.1007/s00595-016-1382-9, in press) 査読有
66	※Nakamura K, Yoshida N, <u>Baba Y</u> , <u>Kosumi K</u> , Uchihara T, Kiyozumi Y, Ohuchi M, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, Sakamoto Y, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Elevated preoperative neutrophil-to-lymphocytes ratio predicts poor prognosis after esophagectomy in T1 esophageal cancer. <i>Int J Clin Oncol</i> (Doi: 10.1007/s10147-017-1090-5, in press) 査読有
67	※Taki K, Daisuke H, <u>Nakagawa S</u> , Ozaki N, Tomiyasu S, Ohmuraya M, Arima K, <u>Higashi T</u> , Sakamoto K, Sakata K, Okabe H, Nitta H, Hayashi H, Chikamoto A, Beppu T, Takamori H, Hirota M, <u>Baba H</u> : Significance of lymph node metastasis in pancreatic neuroendocrine tumor. <i>Surg Today</i> (Doi: 10.1007/s00595-017-1485-y, in press) 査読有
68	※Beppu T, Imai K, Okuda K, Eguchi S, Kitahara K, Taniai N, Ueno S, Shirabe K, Ohta M, Kondo K, Nanashima A, Noritomi T, Shiraishi M, Takami Y, Okamoto K, Kikuchi K, <u>Baba H</u> , Fujioka H: Anterior Approach for Right Hepatectomy with Hanging Maneuver for Hepatocellular Carcinoma: A Multi-Institutional Propensity Score-Matching Study <i>J Hepatobiliary Pancreat Sci</i> (Doi: 10.1002/jhbp.431, in press) 査読有
69	※Yoshida N, <u>Harada K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Kosumi K</u> , Iwatsuki M, Kinoshita K, Nakamura K, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Karashima R, <u>Mima K</u> , Sawayama H, Ohuchi M, Chikamoto A, Imamura Y, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Preoperative controlling nutritional status (CONUT) is useful to estimate the prognosis after esophagectomy for esophageal cancer. <i>Langenbeck Archiv Surg</i> (Doi: 10.1007/s00423-017-1553-1, in press) 査読有
70	※Chikamoto A, Inoue R, Komohara Y, Sakamaki K, Hashimoto D, Shiraishi S, Takamori H, Yamashita Y, Yoshida N, Yamanaka T, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Preoperative high maximum standardized uptake value in association with glucose transporter 1 predicts poor prognosis in pancreatic cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> 2017 Jul;24(7):2040-2046. 査読有
71	※Tokunaga R, Sakamoto Y, <u>Nakagawa S</u> , Izumi D, <u>Kosumi K</u> , Taki K, <u>Higashi T</u> , Miyata T, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Comparison of systemic inflammatory and nutritional scores in colorectal cancer patients who underwent potentially curative resection. <i>Int J Clin Oncol</i> (Doi: 10.1007/s10147-017-1102-5, in press) 査読有

72	※Maehara Y, Shirabe K, Kohnoe S, Emi Y, Oki E, Kakeji Y, <u>Baba H</u> , Ikeda M, Kobayashi M, Takayama T, Natsugoe S, Haraguchi M, Yoshida K, Terashima M, Sasako M, Yamaue H, Kokudo N, Uesaka K, Uemoto S, Kosuge T, Sawa Y, Shimada M, Doki Y, Yamamoto M, Taketomi A, Takeuchi M, Akazawa K, Yamanaka T, Shimokawa M: Impact of intra-abdominal absorbable sutures on surgical site infection in gastrointestinal and hepato-biliary-pancreatic surgery. <i>Surg Today</i> (Doi: 10.1007/s00595-017-1480-3.) 査読有
73	※ <u>Harada K</u> , Mizrak Kaya D, Shimodaira Y, Song S, <u>Baba H</u> , Ajani JA: Translating genomic profiling to gastrointestinal cancer treatment. <i>Future Oncol</i> (Doi: 10.2217/fon-2016-0422, in press) 査読有
74	※ <u>Baba Y</u> , Saeki H, Nakamura Y, Oki E, Shigaki H, Yoshida N, Watanabe M, Maehara Y, <u>Baba H</u> : Review of chemotherapeutic approaches for operable and inoperable esophageal squamous cell carcinoma. <i>Dis Esophagus</i> 30(2):1-7, 2017. 査読有
75	※ <u>Baba H</u> , Yamada Y, Takahari D, Matsumoto H, Yoshida K, Nakamura M, Yoshida M, Iwamoto S, Shimada K, Komatsu Y, Sasaki Y, Satoh T, Takahashi K, Mishima H, Muro K, Watanabe M, Sakata Y, Morita S, Shimada Y, Sugihara K: S-1 and oxaliplatin (SOX) plus bevacizumab versus mFOLFOX6 plus bevacizumab as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer: updated overall survival analyses of the open-label, non-inferiority, randomized phase 3: SOFT study. <i>ESMO Open</i> (Doi: DOI: 10.1136/esmooopen-2016-000135 in press), 2017. 査読有
76	※Yamashita Y, Imai K, Tsujita E, Kaida T, Yamao Y, Umezaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Yamamura K, Arima K, Miyata T, <u>Nakagawa S</u> , Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Selective venous occlusions for reducing blood loss during right anterior sectionectomy of the liver for hepatocellular carcinoma. <i>J Am Coll Surg</i> 224(2):e5-9, 2017. 査読有
77	※Hiyoshi Y, Yoshida N, Watanabe M, Kurashige J, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Baba H</u> : The presence of serum p53 antibody predicts the pathological tumor response to neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, cisplatin and fluorouracil (DCF) in esophageal squamous cell carcinoma. <i>World J Surg</i> 2017(41):480-6, 2017. 査読有
78	※ <u>Baba Y</u> , <u>Baba H</u> , Yamamoto S, Shimada H, Shibata T, Miyazaki T, Yoshikawa T, Nakajima Y, Tsuji Y, Shimokawa M, Kitagawa Y, Aiba K: Chemotherapy-induced nausea and vomiting is less controlled at delayed phase in patients with esophageal cancer: a prospective registration study by the CINV Study Group of Japan. <i>Dis Esophagus</i> 2017(30):1-7, 2017. 査読有
79	※Kitano Y, Iwatsuki M, Kurashige J, Kuroda D, <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Haga Y, <u>Baba H</u> : Estimation of physiologic ability and surgical stress (E-PASS) versus modified E-PASS for prediction of postoperative complications in elderly patients who undergo gastrectomy for gastric cancer. <i>Int J Clin Oncol</i> 2017(22):80-7, 2017. 査読有
80	※Nitta H, <u>Nakagawa S</u> , Kaida T, Arima K, <u>Higashi T</u> , Taki K, Okabe H, Hayashi H, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : Pre-treatment double- or triple-positive tumor markers are predictive of a poor outcome for patients undergoing radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma. <i>Surg Today</i> 2017(47):375-84, 2017. 査読有
81	※Tokunaga R, Sakamoto Y, <u>Nakagawa S</u> , Ohuchi M, Izumi D, <u>Kosumi K</u> , Taki K, <u>Higashi T</u> , <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Oki E, Watanabe M, <u>Baba H</u> : CONUT: a novel independent predictive score for colorectal cancer patients undergoing potentially curative resection. <i>Int J Colorectal Dis</i> 32(1):99-106, 2017. 査読有
82	※Yagi T, Hashimoto D, Taki K, Yamamura K, Chikamoto A, Ohmuraya M, Beppu T, <u>Baba H</u> : Surgery for metastatic tumors of the pancreas. <i>Surg Case Rep</i> 2017(3):31, 2017. 査読有
83	※Kitano Y, Kuramoto M, Masuda T, Kuroda D, Yamamoto K, Ikeshima S, Iyama K-I, Shimada S, <u>Baba H</u> : Ascending colon cancer with synchronous external iliac and inguinal lymph node metastases but without regional lymph node metastasis: a case report and brief literature review. <i>Surg Case Rep</i> 2017(3):32, 2017. 査読有
84	※Yamamura S, Oda S, Imuta M, Utsunomiya D, Yoshida M, Namimoto T, Yuki H, Kidoh M, Funama Y, <u>Baba H</u> , Yamashita Y: Reducing the radiation dose for CT colonography: Effect of low tube voltage and iterative reconstruction. <i>Acad Radiol</i> 23(2):155-62, 2016. 査読有
85	※Chikamoto A, Kaida T, Arima K, <u>Higashi T</u> , Taki K, Ida S, Okabe H, Nitta H, Hayashi H, Hashimoto D, Watanabe M, Beppu T, <u>Baba H</u> : Heat injury to the inferior vena cava by bipolar tissue sealer. <i>Surg Endosc</i> 30(4):1519-22, 2016. 査読有
86	※Taki K, Ohmuraya M, Tanji E, Komatsu H, Hashimoto D, Semba K, Araki K, Kawaguchi Y, <u>Baba H</u> , Furukawa T: GNAS ^{R201H} and Kras ^{G12D} cooperate to promote murine pancreatic tumorigenesis recapitulating human intraductal papillary mucinous neoplasm. <i>Oncogene</i> 35(18):2407-12, 2016. 査読有
87	※Arima K, Hashimoto D, Okabe H, Inoue R, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Taki K, Nitta H, Hayashi H, Chikamoto A, Beppu T, <u>Baba H</u> : Intraoperative blood loss is not a predictor of prognosis for pancreatic cancer. <i>Surg Today</i> 46(7):792-7, 2016. 査読有

88	※Oki E, Tokunaga S, Emi Y, Kusumoto T, Yamamoto M, Fukuzawa K, Takahashi I, Ishigami S, Tsuji A, Higashi H, Nakamura T, Saeki H, Shirabe K, Kakeji Y, Sakai K, <u>Baba H</u> , Nishimaki T, Natsugoe S, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer: Surgical treatment of liver metastasis of gastric cancer: a retrospective multicenter cohort study (KSCC1302). <i>Gastric Cancer</i> 19(3):968-76, 2016. 査読有
89	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Hiyoshi Y, Shigaki H, Kurashige J, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Iwatsuki M, <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , Sugihara H, <u>Harada K</u> , Tokunaga R, Izumi D, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Duration of smoking cessation and postoperative morbidity after esophagectomy for esophageal cancer - How long should patients stop smoking before surgery? <i>World J Surg</i> 40(1):142-7, 2016. 査読有
90	※Takatsuki M, Tokunaga S, Uchida S, Sakoda M, Shirabe K, Beppu T, Emi Y, Oki E, Ueno S, Eguchi S, Akagi Y, Ogata Y, <u>Baba H</u> , Natsugoe S, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer: Evaluation of resectability after neoadjuvant chemotherapy for primary non-resectable colorectal liver metastases: A multicenter study. <i>Eur J Surg Oncol</i> 42(2):184-9, 2016. 査読有
91	※Ueno M, Okusaka T, Omuro Y, Isayama H, Fukutomi A, Ikeda M, Mizuno N, Fukuzawa K, Furukawa M, Iguchi H, Sugimori K, Furuse J, Shimada K, Ioka T, Nakamori S, <u>Baba H</u> , Komatsu Y, Takeuchi M, Hyodo I, Boku N: A randomized phase II study of S-1 plus oral leucovorin versus S-1 monotherapy in patients with gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer <i>Ann Oncol</i> 27(3):502-8, 2016. 査読有
92	※ <u>Harada K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , Shigaki H, <u>Kosumi K</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : The role of microRNA in esophageal squamous cell carcinoma. <i>J Gastroenterol</i> 51(6):520-30, 2016. 査読有
93	※ <u>Baba Y</u> , Yoshida N, Shigaki H, Iwatsuki M, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Prognostic impact of postoperative complications in 502 patients with surgically resected esophageal squamous cell carcinoma: A retrospective single institution study. <i>Ann Surg</i> 264(2):305-11, 2016. 査読有
94	※Sugita H, Oda E, Hirota M, Ishikawa S, Tomiyasu S, Tanaka H, Arita T, Yagi Y, <u>Baba H</u> : Significance of lymphadenectomy with splenectomy in radical surgery for advanced (pT3/pT4) remnant gastric cancer. <i>Surgery</i> 159(4):1082-9, 2016. 査読有
95	※Oki E, Murata A, Yoshida K, Maeda K, Ikejiri K, Munemoto Y, Sasaki K, Matsuda C, Kotake M, Suenaga T, Matsuda H, Emi Y, Kakeji Y, <u>Baba H</u> , Hamada C, Saji S, Maehara Y: A Randomized Phase III Trial Comparing S-1 Versus UFT as Adjuvant Chemotherapy for Stage II/III Rectal Cancer (JFMC35-C1: ACTS-RC). <i>Ann Oncol</i> 27(7):1266-72, 2016. 査読有
96	※Uemura N, Kurashige J, <u>Kosumi K</u> , Iwatsuki M, Yamashita K, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Honda Y, <u>Baba H</u> : Early gastric cancer metastasizing to the rectum, possibly via a hematogenous route: a case report and review of literature. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):58, 2016. 査読有
97	※Arima K, Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Tsuji A, Yamamura K, Kitano Y, Inoue R, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Taki K, Imai K, Komohara Y, Beppu T, Takeya M, <u>Baba H</u> : The diagnostic role of the neutrophil-to-lymphocyte ratio in predicting pancreatic ductal adenocarcinoma in patients with pancreatic diseases. <i>Int J Clin Oncol</i> 21(5):940-5, 2016. 査読有
98	※ <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , Kurashige J, Iwatsuki M, Sakamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Epigenetic field cancerization in gastrointestinal cancers. <i>Cancer Lett</i> 375(2):360-6, 2016. 査読有
99	※Sakamoto Y, Tokunaga R, <u>Miyamoto Y</u> , Ohuchi M, Nakamura K, <u>Kosumi K</u> , <u>Harada K</u> , Shigaki H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Retroileal colorectal anastomosis after extended left colectomy: application for laparoscopic surgery. <i>Surg Today</i> 46(12):1476-8, 2016. 査読有
100	※Uchihara T, Imamura Y, Iwagami S, Kajihara I, Kanemaru H, Karashima R, Ida S, <u>Ishimoto T</u> , <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, Iyama K, Ihn H, <u>Baba H</u> : Small bowel perforation due to indistinguishable metastasis of angiosarcoma: case report and brief literature review. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):42, 2016. 査読有
101	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Shigaki H, <u>Harada K</u> , Iwatsuki M, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Kurashige J, <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Risk factors of early recurrence within 6 months after esophagectomy following neoadjuvant chemotherapy for resectable advanced esophageal squamous cell carcinoma. <i>Int J Clin Oncol</i> 2016(21):1071-8, 2016. 査読有
102	※Beppu T, Okabe H, Okuda K, Eguchi S, Kitahara K, Taniai N, Ueno S, Shirabe K, Ohta M, Kondo K, Nanashima A, Noritomi T, Okamoto K, Kikuchi K, <u>Baba H</u> , Fujioka H: Portal Vein Embolization Followed by Right-Side Hemihepatectomy for Hepatocellular Carcinoma Patients: A Japanese Multi-Institutional Study. <i>J Am Coll Surg</i> 222(6):1138-1148 e2, 2016. 査読有
103	※Sato T, Hayakawa K, Tomita N, Noda M, Kamikonya N, Watanabe T, Kato D, Sakai Y, Hiraoka M, Shimada M, Ikushima H, <u>Baba H</u> , Oya N, Oya M, Nemoto-Murofushi K, Takeuchi M, Watanabe M: A multicenter phase I study of preoperative chemoradiotherapy with S-1 and irinotecan for locally advanced lower rectal cancer (SAMRAI-1). <i>Radiother Oncol</i> 120(2):222-7, 2016. 査読有

104	※Takahashi T, Emi Y, Oki E, Kobayashi K, Tsuji A, Shimokawa M, Tanaka T, Akagi Y, Ogata Y, <u>Baba H</u> , Yoshida K, Natsugoe S, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical C: Multicenter phase II study of combination therapy with cetuximab and S-1 in patients with KRAS exon 2 wild-type unresectable colorectal cancer previously treated with irinotecan, oxaliplatin, and fluoropyrimidines (KSCC 0901 study). <i>Cancer Chemother Pharmacol</i> 78(3):585-93, 2016. 査読有
105	※Yamashita K, <u>Baba Y</u> , Kurashige J, Iwatsuki M, Imai K, Hashimoto D, Sakamoto Y, Chikamoto A, Yoshida N, Beppu T, <u>Baba H</u> : Co-occurrence of liver metastasis of gastrointestinal stromal tumor and hepatocellular carcinoma. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):1-3, 2016. 査読有
106	※Yamamura K, <u>Baba Y</u> , <u>Nakagawa S</u> , <u>Mima K</u> , Miyake K, Nakamura K, Sawayama H, Kinoshita K, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, Sakamoto Y, Yamashita Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Human microbiome <i>Fusobacterium nucleatum</i> in esophageal cancer tissue is associated with prognosis. <i>Clin Cancer Res</i> 22(22), 2016. 査読有
107	※Akiyama T, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Tokunaga R, <u>Kosumi K</u> , Shigaki H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Cancer-related multiple brain infarctions caused by Trousseau syndrome in a patient with metastatic colon cancer: a case report. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):91, 2016. 査読有
108	※ <u>Baba H</u> : Acknowledgement to reviewers. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):13, 2016. 査読有
109	※Okabe H, Yoshizumi T, Ikegami T, Uchiyama H, Harimoto N, Itoh S, Kimura K, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Salvage splenic artery embolization for saving failing living donor graft due to portal overflow. <i>Transplant Proc</i> 48(9):3171-3, 2016. 査読有
110	※Kaida T, Nitta H, Kitano Y, Yamamura K, Arima K, Izumi D, <u>Higashi T</u> , Kurashige J, Imai K, Hayashi H, Iwatsuki M, <u>Ishimoto T</u> , Hashimoto D, Yamashita Y, Chikamoto A, Imamura T, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : C5a receptor (CD88) promotes motility and invasiveness of gastric cancer by activating RhoA. <i>Oncotarget</i> 7(51):84798-809, 2016. 査読有
111	※Yoshida N, Imamura Y, <u>Baba Y</u> , <u>Baba H</u> : Pathogenesis of Acute Gastroesophageal Reflux Disease might be Changing. <i>Transl Cancer Res</i> 2016(5):645-7, 2016. 査読有
112	※Taki K, Hashimoto D, Ozaki N, Tomiyasu S, Yamamura K, Kitano Y, Arima K, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Imai K, Chikamoto A, Beppu T, Takamori H, Hirota M, <u>Baba H</u> : Significance of lymph node metastasis in pancreatic neuroendocrine tumor. <i>Pancreatol</i> 16(4):S1-192, 2016. 査読有
113	※Hashimoto D, Arima K, Chikamoto A, Taki K, Inoue R, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Imai K, Beppu T, <u>Baba H</u> : Limited resection of the duodenum for non-ampullary duodenal tumors, with review of the literature. <i>Am Surg</i> 82(11):1126-32, 2016. 査読有
114	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Shigaki H, Shiraishi S, <u>Harada K</u> , Watanabe M, Iwatsuki M, Kurashige J, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Effect of Esophagus Position on Surgical Difficulty and Postoperative Morbidities after Thoracoscopic Esophagectomy. <i>Semin Thorac Cardiovasc Surg</i> 28(1):172-9, 2016. 査読有
115	※Hironaka S, Sugimoto N, Yamaguchi K, Moriwaki T, Komatsu Y, Nishina T, Tsuji A, Nakajima TE, Gotoh M, Machida N, Bando H, Esaki T, Emi Y, Sekikawa T, Matsumoto S, Takeuchi M, Boku N, <u>Baba H</u> , Hyodo I: S-1 plus leucovorin versus S-1 plus leucovorin and oxaliplatin versus S-1 plus cisplatin in patients with advanced gastric cancer: a randomised, multicentre, open-label, phase 2 trial. <i>Lancet Oncol</i> 17(1):99-108, 2016. 査読有
116	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , Sakamoto A, <u>Ishimoto T</u> , <u>Harada K</u> , Nakamura K, Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Oki E, Watanabe M, Hino S, Nakao M, <u>Baba H</u> : Lysine-specific demethylase-1 contributes to malignant behavior by regulation of invasive activity and metabolic shift in esophageal cancer. <i>Int J Cancer</i> 138(2):428-39, 2016. 査読有
117	※Sakata K, Araki K, Nakano H, Nishina T, Komazawa-Sakon S, Murai S, Lee G, Hashimoto D, Suzuki C, Uchiyama Y, Notohara K, Gukovskaya A, Gukovsky I, Yamashita K, <u>Baba H</u> , Ohmuraya M: Novel method to rescue a lethal phenotype through integration of target gene onto the X-chromosome. <i>Sci Rep</i> 15(6):37200, 2016. 査読有
118	※Nakamura K, <u>Baba Y</u> , <u>Kosumi K</u> , <u>Harada K</u> , Shigaki H, Miyake K, Kurashige J, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, Yoshida N, Oki E, Watanabe M, Nakao M, <u>Baba H</u> : UHRF1 regulates global DNA hypomethylation and is associated with poor prognosis in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Oncotarget</i> 7(36):57821-31, 2016. 査読有

119	※Izumi D, Yoshida N, Watanabe M, Shiraishi S, <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Taki K, <u>Higashi T</u> , <u>Harada K</u> , Miyata T, Ida S, Imamura Y, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Tumor/normal esophagus ratio in ¹⁸ F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for response and prognosis stratification after neoadjuvant chemotherapy for esophageal squamous cell carcinoma. <i>J Gastroenterol</i> 51(8):788-95, 2016. 査読有
120	※Imamura Y, Oki E, Ohgaki K, Nakashima Y, Ando K, Tsutsumi S, Tsurumaru D, Saeki H, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Real-time accurate identification of tumor site using a mobile X-ray image-intensifier system during laparoscopic gastrectomy. <i>J Am Coll Surg</i> 222(2):e1-7, 2016. 査読有
121	※Tokunaga R, Sakamoto Y, <u>Nakagawa S</u> , Miyake K, Izumi D, <u>Kosumi K</u> , Taki K, <u>Higashi T</u> , Imamura Y, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Oki E, Watanabe M, <u>Baba H</u> : The prognostic significance of histone lysine demethylase JMJD3/KDM6B in colorectal cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> 23(2):678-85, 2016. 査読有
122	※Nomoto D, Hashimoto D, Motohara T, Chikamoto A, Nitta H, Beppu T, Katabuchi H, <u>Baba H</u> : Rapid growing cystic ovarian metastasis from pancreatic cancer. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> 31(4):707, 2016. 査読有
123	※Kaida T, <u>Higashi T</u> , Kitano Y, Yamamura K, Arima K, Taki K, Imai K, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Namimoto T, Nakahara O, Beppu T, <u>Baba H</u> : Degenerative hepatic hemangioma mimicking biliary cystadenocarcinoma. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> 31(8):1385, 2016. 査読有
124	※ <u>Harada K</u> , <u>Baba Y</u> , Shigaki H, <u>Ishimoto T</u> , Miyake K, <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Izumi D, Ohuchi M, Nakamura K, Kiyozumi Y, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Prognostic and clinical impact of PIK3CA mutation in gastric cancer: pyrosequencing technology and literature review. <i>BMC Cancer</i> 2016(16):400, 2016. 査読有
125	※Hashimoto D, Arima K, Yokoyama N, Chikamoto A, Taki K, Inoue R, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Nitta H, Ohmuraya M, Hirota M, Beppu T, <u>Baba H</u> : Heterogeneity of KRAS Mutations in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. <i>Pancreas</i> 45(8):1111-4, 2016. 査読有
126	※Eto K, Yoshida N, Iwatsuki M, Kurashige J, Ida S, <u>Ishimoto T</u> , <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Watanabe M, <u>Baba H</u> : Surgical Apgar Score Predicted Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer. <i>World J Surg</i> 40(5):1145-51, 2016. 査読有
127	※Hiyoshi Y, Yoshida N, Watanabe M, Kurashige J, Karashima R, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , <u>Baba H</u> : Late recurrence after radical resection of esophageal cancer. <i>World J Surg</i> 40(4):913-20, 2016. 査読有
128	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Shigaki H, <u>Harada K</u> , Iwatsuki M, Kurashige J, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Imamura Y, Ida S, Hiyoshi Y, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Preoperative nutritional assessment by controlling nutritional status (CONUT) is useful to estimate postoperative morbidity after esophagectomy for esophageal cancer. <i>World J Surg</i> 40(8):1910-7, 2016. 査読有
129	※ <u>Higashi T</u> , Hayashi H, Kitano Y, Yamamura K, Kaida T, Arima K, Taki K, <u>Nakagawa S</u> , Okabe H, Nitta H, Imai K, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, <u>Baba H</u> : Statin attenuates cell proliferative ability via TAZ (WWTR1) in hepatocellular carcinoma. <i>Med Oncol</i> 33(11):123, 2016. 査読有
130	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Harada K</u> , Nakamura K, Ohuchi M, Kiyozumi Y, Izumi D, Tokunaga R, Taki K, <u>Higashi T</u> , Miyata T, Shigaki H, Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Oki E, Watanabe M, <u>Baba H</u> : APOBEC3B is an enzymatic source of molecular alterations in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Med Oncol</i> 33(3):26, 2016. 査読有
131	※Nitta H, Shimose T, Emi Y, Imamura T, Ohnishi K, Kusumoto T, Yamamoto M, Fukuzawa K, Takahashi I, Higashi H, Tsuji A, Akagi Y, Oki E, Maehara Y, <u>Baba H</u> , Kyushu Study Group of Clinical Cancer ancillary s: Expression of the anaphylatoxin C5a receptor in gastric cancer: implications for vascular invasion and patient outcomes. <i>Med Oncol</i> 33(11):118, 2016. 査読有
132	※Masuda T, Kuramoto M, Tanimoto H, Yamamoto K, Ikeshima S, Kitano Y, Kuroda D, Shimada S, <u>Baba H</u> : Intraoperative baseline oxygen consumption as a prognostic factor in emergency open abdominal surgery. <i>J Crit Care</i> 1(32):42-7, 2016. 査読有
133	※Hashimoto D, Chikamoto A, Taki K, Arima K, Yamashita Y, Ohmuraya M, Hirota M, <u>Baba H</u> : Residual Total Pancreatectomy: Short- and Long-Term Outcomes. <i>Pancreatology</i> 16(4):646-51, 2016. 査読有
134	※Masuda T, Beppu T, Okabe H, Nitta H, Imai K, Hayashi H, Chikamoto A, Yamamoto K, Ikeshima S, Kuramoto M, Shimada S, <u>Baba H</u> : Predictive factors of pathological vascular invasion in hepatocellular carcinoma within 3 cm and 3 nodules without radiological vascular invasion. <i>Hepatol Res</i> 46(10):985-91, 2016. 査読有
135	※Hashimoto D, Chikamoto A, Arima K, Taki K, Inoue R, Imai K, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Unused sterile instruments for closure prevents wound surgical site infection after pancreatic surgery. <i>J Surg Res</i> 205(1):38-42, 2016. 査読有

136	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , Ozaki N, Akiyama T, <u>Harada K</u> , Shigaki H, Imamura Y, Iwatsuki M, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Transnasal inner drainage: an option for managing anastomotic leakage after esophagectomy. <i>Langenbecks Arch Surg</i> 401(6):903-908, 2016. 査読有
137	※ <u>Harada K</u> , Ida S, <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Izumi D, Ohuchi M, Nakamura K, Kiyozumi Y, Imamura Y, Iwatsuki M, Iwagami S, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Prognostic and clinical impact of sarcopenia in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Dis Esophagus</i> 29(6):627-33, 2016. 査読有
138	※ <u>Harada K</u> , Mine S, Yamada K, Shigaki H, Oya S, <u>Baba H</u> , Watanabe M: Long-term outcome of esophagectomy for primary malignant melanoma of the esophagus: A single-institute retrospective analysis. <i>Dis Esophagus</i> 29(4):314-9, 2016. 査読有
139	※Okumura H, Mori N, Tanaka T, Morita M, Toh Y, Saeki H, Maehara Y, Nakamura K, Honda H, Yoshida N, <u>Baba H</u> , Natsugoe S: Clinical features and treatment of patients with esophageal cancer and a history of gastrectomy: a multicenter, questionnaire survey in Kyushu, Japan. <i>Dis Esophagus</i> 2016(29):1135-43, 2016. 査読有
140	※Sawayama H, Miyanari N, Morita K, Matsumoto K, Mizumoto T, Kubota T, Haga Y, <u>Baba H</u> : Surgical management of partial dentures in the cervicothoracic esophagus. <i>Esophagus</i> 13(3):270-275, 2016. 査読有
141	※Karashima R, Kimura M, Taura N, Shimokawa Y, Nishimura T, <u>Baba H</u> : Total extraperitoneal approach for incarcerated obturator hernia repair. <i>Hernia</i> 20(3):479-82, 2016. 査読有
142	※ <u>Miyamoto X</u> , Sakamoto Y, Ohuchi M, Tokunaga R, Shigaki H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Orbital apex syndrome caused by invasive aspergillosis as an adverse effect of systemic chemotherapy for metastatic colorectal cancer: a Case Report. <i>Anticancer Res</i> 36(2):821-3, 2016. 査読有
143	※Nitta H, <u>Baba H</u> , Sugimori K, Furuse J, Ohkawa S, Yamamoto K, Minami H, Shimokawa M, Wakabayashi GO, Aiba K, CINV Study Group of Japan.: Chemotherapy-induced Nausea and Vomiting in Patients with Hepatobiliary and Pancreatic Cancer Treated with Chemotherapy: A Prospective Observational Study by the CINV Study Group of Japan. <i>Anticancer Res</i> 36(4):1929-35, 2016. 査読有
144	※Yamashita Y, Wang H, Kurihara T, Tsujita E, Nishie A, Imai K, Hashimoto D, Chikamoto A, Aishima S, <u>Baba H</u> : Clinical significances of preoperative classification of intrahepatic cholangiocarcinoma: different characteristics of perihilar vs. peripheral ICC. <i>Anticancer Res</i> 36(6):6563-70, 2016. 査読有
145	※Okabe H, Hayashi H, <u>Nakagawa S</u> , Imai K, Nitta H, Arima K, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : Inducible factors for cancer-associated fibroblasts in liver cancer versus myofibroblasts in inflammatory liver disease. <i>Histol Histopath</i> 31(2):141-8, 2016. 査読有
146	※ <u>Higashi T</u> , Hayashi H, Taki K, Sakamoto K, Kuroki H, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, <u>Baba H</u> : Sarcopenia, but not visceral fat amount, is a risk factor of postoperative complications after major hepatectomy. <i>Int J Clin Oncol</i> 21(2):310-19, 2016. 査読有
147	※Masuda T, Kuramoto M, Shimada S, Ikeshima S, Yamamoto K, Nakamura K, Yoshimatsu S, Urata M, <u>Baba H</u> : The effect of extensive intraoperative peritoneal lavage therapy (EIPL) on stage III B + C and cytology-positive gastric cancer patients. <i>Int J Clin Oncol</i> 1(2):289-94, 2016. 査読有
148	※ <u>Miyamoto Y</u> , Tsuji A, Tanioka H, Maekawa S, Kawanaka H, Kitazono M, Oki E, Emi Y, Murakami H, Ogata Y, Saeki H, Shimokawa M, Natsugoe S, Akagi Y, <u>Baba H</u> , Maehara Y: S-1 and irinotecan plus bevacizumab as second-line chemotherapy for patients with oxaliplatin-refractory metastatic colorectal cancer: A multicenter phase II study in Japan (KSCC1102). <i>Int J Clin Oncol</i> 21(4):705-12, 2016. 査読有
149	※Ogata Y, Shimokawa M, Tanaka T, Emi Y, Oki E, Saeki H, Sadanaga N, Kusumoto T, Touyama T, Kimura M, <u>Baba H</u> , Akagi Y, Shirouzu K, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer: A prospective study of XELOX plus bevacizumab as first-line therapy in Japanese patients with metastatic colorectal cancer (KSCC 0902). <i>Int J Clin Oncol</i> 21(2):335-43, 2016. 査読有
150	※Yoshida N, Tamaoki Y, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Iwatsuki M, Shono T, Miyamoto H, Imuta M, Kurashige J, Sawayama H, Tokunaga R, Watanabe M, Sasaki Y, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Incidence and risk factors of synchronous colorectal cancer in patients with esophageal cancer: an analysis of 480 consecutive colonoscopies before surgery. <i>Int J Clin Oncol</i> (Doi: 10.1007/s10147-016-1015-8, in press), 2016. 査読有
151	※Shimizu K, Takamori H, <u>Baba H</u> : Usefulness of surgical closure following intraoperative endoscopic additional stenting of duodenal perforation. <i>Int J Surg Case Rep</i> 25(21-23), 2016.
152	※Hashimoto D, Chikamoto A, Harimoto N, Ikegami T, Uchiyama H, Yoshizumi T, <u>Baba H</u> , Maehara Y: A comparative study on the complications of conventional and end-to-side inserting pancreatojejunostomy after pancreaticoduodenectomy. <i>Surg Today</i> 2017(47):238-44, 2016. 査読有

153	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Harada K</u> , Nakamura K, Ohuchi M, Kiyozumi Y, Izumi D, Tokunaga R, Taki K, <u>Higashi T</u> , Miyata T, Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Neutrophil/lymphocyte ratio predicts the prognosis in esophageal squamous cell carcinoma patients. <i>Surg Today</i> 46(4):405-13, 2016. 査読有
154	※ <u>Miyamoto Y</u> , Akiyama T, Sakamoto Y, Tokunaga R, Ohuchi M, Shigaki H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Omental flap after pelvic exenteration for pelvic cancer. <i>Surg Today</i> 46(12):1471-5, 2016. 査読有
155	※Sakamoto Y, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Tokunaga R, Ohuchi M, Kiyozumi Y, Nakamura K, <u>Kosumi K</u> , Izumi D, <u>Harada K</u> , Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Cryptogenic repetitive severe colitis after ileostomy closure. <i>Int Canc Conf J</i> 5(2):104-6, 2016. 査読有
156	※ <u>Higashi T</u> , Hayashi H, Takeyama H, Arima K, Taki K, Takamori H, <u>Baba H</u> : Evaluation of patients with hepatic portal venous gas who can be treated with conservative therapy. <i>Acute Medicine & Surgery</i> 3(1):16-20, 2016. 査読有
157	※Hirose K, Okabe H, Yoshizumi T, Uchiyama H, Ikegami T, Harimoto N, Itoh S, Kimura K, <u>Baba H</u> , Maehara Y: A case report of bacteremia manifesting as an overwhelming postsplenectomy infection due to <i>Streptococcus pneumoniae</i> post vaccination. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):48, 2016. 査読有
158	※Kuroda D, Hayashi H, Nitta H, Imai K, Abe S, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : Successful treatment for sorafenib-induced liver dysfunction: a report of case with liver biopsy. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):4, 2016. 査読有
159	※Okabe H, Chikamoto A, Maruno M, Hashimoto D, Imai K, Taki K, Arima K, Ishiko T, Uchiyama H, Ikegami T, Harimoto N, Itoh S, Yoshizumi T, Beppu T, <u>Baba H</u> , Maehara Y: A long survivor with local relapse of hilar cholangiocarcinoma after R1 surgery treated with chemoradiotherapy: a case report and literature review. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):69, 2016. 査読有
160	※Yamashita Y, Ikegami T, Uchiyama H, Tsujita E, Itoh S, Harimoto N, Soejima Y, Taketomi A, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Inquiries about biomarkers of acute liver failure in patients who underwent living donor liver transplantation using a protein chip array. <i>Fukuoka Igaku Zasshi</i> 107(131-5), 2016. 査読有
161	※ <u>Miyamoto Y</u> , Beppu T, Sakamoto Y, Imai K, Hayashi H, Nitta H, Ishiko T, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Simultaneous laparoscopic resection of primary tumor and liver metastases for colorectal cancer: Surgical technique and short-term outcome. <i>Hepato-Gastroenterol</i> 2015 Jun;62(140):846-52. 査読有
162	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Watanabe M, Ida S, <u>Ishimoto T</u> , Karashima R, Iwagami S, Imamura Y, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Baba H</u> : An original scoring system for predicting postoperative morbidity after esophagectomy for esophageal cancer. <i>Surg Today</i> 45(3):346-54, 2015. 査読有
163	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Watanabe M, Hiyoshi Y, <u>Ishimoto T</u> , Iwagami S, Kurashige J, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Baba H</u> : Triangulating stapling technique covered with the pedicled omental flap for esophagogastric anastomosis: A safe anastomosis with fewer complications. <i>J Am Coll Surg</i> 220(2):e13-6, 2015. 査読有
164	※Yoshida M, Beppu T, Shiraishi S, Tsuda N, Sakamoto F, Okabe H, Hayashi H, <u>Baba H</u> , Yamashita Y: ^{99m} Tc-GSA SPECT/CT fused images for assessment of hepatic function and hepatectomy planning. <i>Ann Transl Med</i> 3(2):17, 2015. 査読有
165	※Yasui H, Muro K, Shimada Y, Tsuji A, Sameshima S, <u>Baba H</u> , Satoh T, Denda T, Ina K, Nishina T, Yamaguchi K, Esaki T, Tokunaga S, Kuwano H, Boku N, Komatsu Y, Watanabe M, Hyodo I, Morita S, Sugihara K: A phase 3 non-inferiority study of 5-FU/l-leucovorin/irinotecan (FOLFIRI) versus irinotecan/S-1 (IRIS) as second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer: updated results of the FIRIS study. <i>J Cancer Res Clin Oncol</i> 141(1):153-60, 2015. 査読有
166	※Uetake H, Yasuno M, Ishiguro M, Kameoka S, Shimada Y, Takahashi K, Watanabe T, Muro K, <u>Baba H</u> , Yamamoto J, Mizunuma N, Tamagawa H, Mochizuki I, Kinugasa Y, Kikuchi T, Sugihara K: A multicenter phase II trial of mFOLFOX6 plus bevacizumab to treat liver-only metastases of colorectal cancer that are unsuitable for upfront resection (TRICC0808). <i>Ann Surg Oncol</i> 22(3):908-15, 2015. 査読有
167	※Shimizu K, Hashimoto D, Abe S, Chikamoto A, <u>Baba H</u> : Pancreas-preserving partial duodenectomy of the distal region for large duodenal adenoma: Report of a case. <i>Surg Today</i> 45(3):390-3, 2015. 査読有
168	※Sakamoto Y, Karashima R, Ida S, Imamura Y, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Diagnostic laparoscopic biopsy for intraabdominal tumors. <i>Surg Today</i> 45(3):394-6, 2015. 査読有

169	※Sakamoto K, Beppu T, Hayashi H, <u>Nakagawa S</u> , Okabe H, Nitta H, Imai K, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Kikuchi K, <u>Baba H</u> : Antiviral therapy and long-term outcome for hepatitis B virus-related hepatocellular carcinoma after curative liver resection in a Japanese cohort. <i>Anticancer Res</i> 35(3):1647-55, 2015. 査読有
170	※Nitta H, Beppu T, Itoyama A, <u>Higashi T</u> , Sakamoto K, <u>Nakagawa S</u> , <u>Mima K</u> , Okabe H, Imai K, Hayashi H, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Poor outcomes after hepatectomy in patients with ascites infected by methicillin-resistant staphylococci. <i>J Hepatobiliary Pancreat Sci</i> 22(2):166-76, 2015. 査読有
171	※Morita K, Haga Y, Miyanari N, Sawayama H, Matsumoto K, Mizumoto T, Kubota T, <u>Baba H</u> : A case of an omphalomesenteric duct remnant in an adult treated with laparoscopic surgery. <i>Int J Surg Case Rep</i> 8:179-81, 2015. 査読有
173	※ <u>Miyamoto Y</u> , Watanabe M, <u>Ishimoto T</u> , <u>Baba Y</u> , Iwagami S, Sakamoto Y, Yoshida N, Masuguchi S, Ihn H, <u>Baba H</u> : Fascia lata onlay patch for repairing infected incisional hernias. <i>Surg Today</i> 45(1):121-4, 2015. 査読有
174	※Kurashige J, <u>Mima K</u> , Sawada G, Takahashi Y, Eguchi H, Sugimachi K, Mori M, Yanagihara K, Yashiro M, Hirakawa K, <u>Baba H</u> , Mimori K: Epigenetic modulation and repression of miR-200b by cancer-associated fibroblasts contribute to cancer invasion and peritoneal dissemination in gastric cancer. <i>Carcinogenesis</i> 36(1):133-41, 2015. 査読有
175	※ <u>Kosumi K</u> , Takamori H, Hashimoto D, Tanaka H, Abe S, Nakahara O, Horino K, <u>Baba H</u> : Mucinous cystic neoplasm of the pancreas activated during pregnancy. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):13, 2015. 査読有
176	※Iwatsuki M, Tanaka H, Shimizu K, Ogawa K, Yamamura K, Ozaki N, Sugiyama S, Ogata K, Doi K, <u>Baba H</u> , Takamori H: Simultaneous total laparoscopic curative resection for synchronous gastric, cecal and rectal cancer: Report of a case. <i>Int J Surg Case Rep</i> 6:129-32, 2015. 査読有
177	※Iwatsuki M, Takamori H, Eto K, Shimizu K, Ogawa K, Yamamura K, Ozaki N, Tanaka H, Sugiyama S, Ogata K, Doi K, Kamio T, <u>Baba H</u> : Repeated recurrence of a gastric gastrointestinal stromal tumor on the chest wall after initial curative resection: Report of a case. <i>Int J Surg Case Rep</i> 6:36-9, 2015. 査読有
178	※Hiyoshi Y, Morita M, Kawano H, Otsu H, Ando K, Ito S, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Saeki H, Oki E, Ikeda T, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Clinical significance of surgical resection for the recurrence of esophageal cancer after radical esophagectomy. <i>Ann Surg Oncol</i> 22(1):240-6, 2015. 査読有
179	※ <u>Higashi T</u> , Hashimoto D, Hayashi H, Nitta H, Chikamoto A, Beppu T, <u>Baba H</u> : Reactive lymphoid hyperplasia of the liver requires differential diagnosis of hepatocellular carcinoma. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):31, 2015. 査読有
180	※Hayashi H, Beppu T, Okabe H, Kuroki H, <u>Nakagawa S</u> , Imai K, Nitta H, Chikamoto A, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Functional assessment versus conventional volumetric assessment in the prediction of operative outcomes after major hepatectomy. <i>Surgery</i> 157(1):20-6, 2015. 査読有
181	※Hashimoto D, Chikamoto A, Sakata K, <u>Nakagawa S</u> , Hayashi H, Ohmuraya M, Hirota M, Yoshida N, Beppu T, <u>Baba H</u> : Staging laparoscopy leads to rapid induction of chemotherapy for unresectable pancreaticobiliary cancers. <i>Asian J Endosc Surg</i> 8(1):59-62, 2015. 査読有
182	※Beppu T, Sakamoto Y, Hayashi H, <u>Baba H</u> : Perioperative chemotherapy and hepatic resection for resectable colorectal liver metastases. <i>Hepatobiliary Surg Nutr</i> 4(1):72-5, 2015. 査読有
183	※Beppu T, Hayashi H, Okabe H, Imai K, Nitta H, Masuda T, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Kikuchi K, <u>Baba H</u> : Hybrid-including endoscopic versus open hepatic resection for patients with hepatocellular carcinoma meeting the Milan criteria: A propensity case-matched analysis. <i>Anticancer Res</i> 35(3):1583-90, 2015. 査読有
184	※ <u>Baba H</u> : Introduction of Surgical Case Reports: The second official journal of the Japanese Surgical Society. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):2, 2015. 査読有
185	※Arima K, Hashimoto D, Takata N, Doi Y, Yoshinaka I, <u>Harada K</u> , <u>Baba H</u> : Acute gastric volvulus in a patient with trisomy 21. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):5, 2015. 査読有
186	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Oda E, <u>Kosumi K</u> , <u>Ishimoto T</u> , Watanabe M, Hiyoshi Y, Iwagami S, Kurashige J, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Sugihara H, Eto K, <u>Harada K</u> , <u>Baba H</u> : Reconstruction using a pedunculated gastric tube with duodenal transection after esophagectomy and pharyngolaryngectomy. <i>Ann Surg Oncol</i> 22(13):4352, 2015. 査読有

187	※Yamashita K, Hashimoto D, Itoyama R, Okabe H, Chikamoto A, Beppu T, Baba H : Accessory right hepatic artery branched from gastroduodenal artery. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):90, 2015. 査読有
188	※Yamao T, Hayashi H, Higashi T , Takeyama H, Kaida T, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, Baba H : Colon cancer metastasis mimicking intraductal papillary neoplasm of the extra-hepatic bile duct. <i>Int J Surg Case Rep</i> 10:91-3, 2015. 査読有
189	※Umezaki N, Ishimoto T , Koba I, Nakaya T, Mawatari M, Kuramoto K, Izumi D, Sakamoto Y, Miyamoto Y , Yoshida N, Watanabe M, Inoue Y, Ihn H, Baba H : Anorectal malignant melanoma with extensive intraepithelial extension: Report of a case. <i>Int Canc Conf J</i> 4(4):245-8, 2015. 査読有
190	※Uchihara T, Yamashita Y-I, Hualin W, Takeishi K, Itoh S, Harimoto N, Yoshizumi T, Aishima S, Shirabe K, Baba H , Maehara Y: Recurrence 11 years after complete response to gemcitabine, 5-Fluorouracil, and Cisplatin chemotherapy followed by radiotherapy in a patient with advanced pancreatic cancer: A case report. <i>Anticancer Res</i> 35(5):2867-71, 2015. 査読有
191	※Toyoshima K, Hayashi A, Kashiwagi M, Hayashi N, Iwatsuki M, Ishimoto T , Baba Y , Baba H , Ohta Y: Analysis of circulating tumor cells derived from advanced gastric cancer. <i>Int J Cancer</i> 137(4):991-8, 2015. 査読有
192	※Tokunaga R, Sakamoto Y, Nakagawa S , Miyamoto Y , Yoshida N, Oki E, Watanabe M, Baba H : Prognostic nutritional index predicts severe complications, recurrence, and poor prognosis in patients with colorectal cancer undergoing primary tumor resection. <i>Dis Colon Rectum</i> 58(11):1048-57, 2015. 査読有
193	※Tokunaga R, Imamura Y, Nakamura K, Uchihara T, Ishimoto T , Nakagawa S , Iwatsuki M, Baba Y , Sakamoto Y, Miyamoto Y , Yoshida N, Oyama S, Shono T, Naoe H, Saeki H, Oki E, Watanabe M, Sasaki Y, Maehara Y, Baba H : Carbohydrate antigen 19-9 is a useful prognostic marker in esophagogastric junction adenocarcinoma. <i>Cancer Med</i> 4(11):1659-66, 2015. 査読有
194	※Tamura K, Aiba K, Saeki T, Nakanishi Y, Kamura T, Baba H , Yoshida K, Yamamoto N, Kitagawa Y, Maehara Y, Shimokawa M, Hirata K, Kitajima M, Cinv Study Group of Japan: Testing the effectiveness of antiemetic guidelines: Results of a prospective registry by the CINV Study Group of Japan. <i>Int J Clin Oncol</i> 20(5):855-65, 2015. 査読有
195	※Tamaoki Y, Beppu T, Sakamoto Y, Imai K, Hayashi H, Nitta H, Hashimoto D, Miyamoto Y , Tsuruta Y, Chikamoto A, Baba H : A 5-year recurrence-free survivor with over ten colorectal liver metastases undergoing FOLFOX plus bevacizumab followed by two-stage hepatectomy. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):111, 2015. 査読有
196	※Takahara T, Wakabayashi G, Beppu T, Aihara A, Hasegawa K, Gotohda N, Hatano E, Tanahashi Y, Mizuguchi T, Kamiyama T, Ikeda T, Tanaka S, Taniai N, Baba H , Tanabe M, Kokudo N, Konishi M, Uemoto S, Sugioka A, Hirata K, Taketomi A, Maehara Y, Kubo S, Uchida E, Miyata H, Nakamura M, Kaneko H, Yamaue H, Miyazaki M, Takada T: Long-term and perioperative outcomes of laparoscopic versus open liver resection for hepatocellular carcinoma with propensity score matching: A multi-institutional Japanese study. <i>J Hepatobiliary Pancreat Sci</i> 22(10):721-7, 2015. 査読有
197	※Sugihara H, Ishimoto T , Yasuda T, Izumi D, Eto K, Sawayama H, Miyake K, Kurashige J, Imamura Y, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Baba Y , Sakamoto Y, Miyamoto Y , Yoshida N, Watanabe M, Takamori H, Baba H : Cancer-associated fibroblast-derived CXCL12 causes tumor progression in adenocarcinoma of the esophagogastric junction. <i>Med Oncol</i> 32(6):618, 2015. 査読有
198	※Sugihara H, Ishimoto T , Miyake K, Izumi D, Baba Y , Yoshida N, Watanabe M, Baba H : Noncoding RNA Expression Aberration Is Associated with Cancer Progression and Is a Potential Biomarker in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. <i>Int J Mol Sci</i> 16(11):27824-34, 2015. 査読有
199	※Shimada S, Kuramoto M, Marutsuka T, Ikeshima S, Yamamoto K, Baba H : Can the peritoneal recurrence be prevented after curative surgery? <i>Edorium J Surg</i> 2:9-11, 2015. 査読有
200	※Shigaki H, Baba Y , Harada K , Yoshida N, Watanabe M, Baba H : Epigenetic changes in gastrointestinal cancers. <i>J Cancer Metastasis Treat</i> 1(3):113-22, 2015. 査読有
201	※Sawayama H, Miyanari N, Baba H : Cancer metabolism in gastrointestinal cancer. <i>J Cancer Metastasis Treat</i> 1(3):172-82, 2015. 査読有

202	※Sakata K, Hashimoto D, Taki K, Nakahara O, Ohmuraya M, Chikamoto A, Beppu T, Baba H : Successful surgical internal drainage of postoperative pancreatic pseudocyst through pancreaticojejunostomy with distal pancreatectomy: A case report <i>Surg Case Rep</i> 1(1):54, 2015. 査読有
203	※Sakamoto Y, Miyamoto Y , Beppu T, Nitta H, Imai K, Hayashi H, Baba Y , Yoshida N, Chikamoto A, Baba H : Post-chemotherapeutic CEA and CA19-9 are prognostic factors in patients with colorectal liver metastases treated with hepatic resection after oxaliplatin-based chemotherapy. <i>Anticancer Res</i> 35(4):2359-68, 2015. 査読有
204	※Sakamoto K, Imai K, Higashi T , Taki K, Nakagawa S , Okabe H, Nitta H, Hayashi H, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, Baba H : Significance of P-cadherin overexpression and possible mechanism of its regulation in intrahepatic cholangiocarcinoma and pancreatic cancer. <i>Cancer Sci</i> 106(9):1153-62, 2015. 査読有
205	※Saeki H, Watanabe M, Mine S, Shigaki H, Oya S, Ishiyama A, Tsuchida T, Fujisaki J, Baba H , Maehara Y, Sano T: Esophagectomy for superficial esophageal cancer after non-curative endoscopic resection. <i>J Gastroenterol</i> 50(4):406-13, 2015. 査読有
206	※Sadahiro S, Tsuchiya T, Sasaki K, Kondo K, Katsumata K, Nishimura G, Kakeji Y, Baba H , Sato S, Koda K, Yamaguchi Y, Morita T, Matsuoka J, Usuki H, Hamada C, Kodaira S: Randomized phase III trial of treatment duration for oral uracil and tegafur plus leucovorin as adjuvant chemotherapy for patients with stage IIB/III colon cancer: final results of JFMC33-0502. <i>Ann Oncol</i> 26(11):2274-80, 2015. 査読有
207	※Sadahiro S, Morita S, Sasaki K, Sakamoto K, Ohge H, Takahashi T, Tsuchiya T, Sato T, Kondo K, Ogata Y, Masuko H, Baba H , Maeda K, Hamada M, Itabashi M, Nishimura G, Takahashi K, Ikeda M, Taguri M, Kodaira S: Treatment rationale and study design for clinical trial on the efficacy of UFT/LV for stage II colorectal cancer with risk factors for recurrence (JFMC46-1201). <i>Clin Colorectal Canc</i> 14(4):277-80, 2015. 査読有
208	※Oki E, Emi Y, Miyamoto Y , Kabashima A, Higashi H, Ogata Y, Ikebe M, Saeki H, Tokunaga S, Shirabe K, Beppu T, Uchida S, Takatsuki M, Sakoda M, Eguchi S, Akagi Y, Kakeji Y, Baba H , Natsugoe S, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer: Erratum to: Phase II Trial of S-1 and Oxaliplatin Plus Cetuximab for Colorectal Cancer Patients with Initially Unresectable or Not Optimally Resectable Liver Metastases (KSCC1002). <i>Ann Surg Oncol</i> 22(Suppl 3):1617, 2015. 査読有
209	※Oki E, Emi Y, Miyamoto Y , Kabashima A, Higashi H, Ogata Y, Ikebe M, Saeki H, Tokunaga S, Shirabe K, Beppu T, Uchida S, Takatsuki M, Sakoda M, Eguchi S, Akagi Y, Kakeji Y, Baba H , Natsugoe S, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer: Phase II trial of S-1 and oxaliplatin plus cetuximab for colorectal cancer patients with initially unresectable or not optimally resectable liver metastases (KSCC1002). <i>Ann Surg Oncol</i> 22(Suppl 3):1067-74, 2015. 査読有
210	※Oki E, Emi Y, Kojima H, Higashijima J, Kato T, Miyake Y, Kon M, Ogata Y, Takahashi K, Ishida H, Saeki H, Sakaguchi Y, Yamanaka T, Kono T, Tomita N, Baba H , Shirabe K, Kakeji Y, Maehara Y: Preventive effect of Goshajinkigan on peripheral neurotoxicity of FOLFOX therapy (GENIUS trial): A placebo-controlled, double-blind, randomized phase III study. <i>Int J Clin Oncol</i> 20(4):767-75, 2015. 査読有
211	※Okadome K, Hayashi H, Higashi T , Takeyama H, Sakamoto K, Kuroki H, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, Baba H : Intra-aortic balloon pump-assisted major hepatectomy in a case with coronary disease. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):112, 2015. 査読有
212	※Okabe H, Mima K , Saito S, Hayashi H, Imai K, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, Baba H : Epithelial-mesenchymal transition in gastroenterological cancer. <i>J Cancer Metastasis Treat</i> 1(3):183-9, 2015. 査読有
213	※Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Hayashi H, Nitta H, Taki K, Higashi T , Arima K, Ishiko T, Beppu T, Baba H : Hepatobiliary and Pancreatic: Skin metastases from cholangiocarcinoma mimicking herpes zoster. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> 30(9):1337, 2015. 査読有
214	※Ohkawa S, Okusaka T, Isayama H, Fukutomi A, Yamaguchi K, Ikeda M, Funakoshi A, Nagase M, Hamamoto Y, Nakamori S, Tsuchiya Y, Baba H , Ishii H, Omuro Y, Sho M, Matsumoto S, Yamada N, Yanagimoto H, Unno M, Ichikawa Y, Takahashi S, Watanabe G, Wakabayashi G, Egawa N, Tsuda M, Hosotani R, Hamada C, Hyodo I: Randomised phase II trial of S-1 plus oxaliplatin vs S-1 in patients with gemcitabine-refractory pancreatic cancer. <i>Br J Cancer</i> 112(9):1428-34, 2015. 査読有

215	※Oda E, Hashimoto D, Shiomi Y, Ohnishi K, Hayashi H, Chikamoto A, Takeya M, Baba H : A case of occult intrahepatic cholangiocarcinoma diagnosed by autopsy. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):101, 2015. 査読有
216	※Nakamura M, Yamada Y, Muro K, Takahashi K, Baba H , Sasaki Y, Komatsu Y, Satoh T, Mishima H, Watanabe M, Sakata Y, Morita S, Shimada Y, Sugihara K: The SOFT trial: A Phase III study of the dihydropyrimidine dehydrogenase inhibitory fluoropyrimidine S-1 and oxaliplatin (SOX) plus bevacizumab as first-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer. <i>Future Oncol</i> 11(10):1471-8, 2015. 査読有
217	※Nakamura K, Beppu T, Hayashi H, Okabe H, Imai K, Nitta H, Chikamoto A, Ishiko T, Sasaki M, Baba H : Recurrence-free survival of a hepatocellular carcinoma patient with tumor thrombosis of the inferior vena cava after treatment with sorafenib and hepatic resection. <i>Int Surg</i> 100(5):908-14, 2015. 査読有
218	※Nakahara O, Oshima S, Baba H : Cardiopulmonary arrest during the Nuss procedure: A case report and review of the literature. <i>Acute Medicine & Surgery</i> 2(4):250-2, 2015. 査読有
219	※Nakagoe T, Miyata H, Gotoh M, Anazawa T, Baba H , Kimura W, Tomita N, Shimada M, Kitagawa Y, Sugihara K, Mori M: Erratum to: Surgical risk model for acute diffuse peritonitis based on a Japanese nationwide database: an initial report on the surgical and 30-day mortality. <i>Surg Today</i> 45(10):1244, 2015. 査読有
220	※Nakagoe T, Miyata H, Gotoh M, Anazawa T, Baba H , Kimura W, Tomita N, Shimada M, Kitagawa Y, Sugihara K, Mori M: Surgical risk model for acute diffuse peritonitis based on a Japanese nationwide database: An initial report on the surgical and 30-day mortality. <i>Surg Today</i> 45(10):1233-43, 2015. 査読有
221	※ Nakagawa S , Hayashi H, Nitta H, Okabe H, Sakamoto K, Higashi T , Kuroki H, Imai K, Hashimoto D, Sakamoto Y, Chikamoto A, Beppu T, Baba H : Scoring system based on tumor markers and Child-Pugh classification for HCC patients who underwent liver resection. <i>Anticancer Res</i> 35(4):2157-63, 2015. 査読有
222	※Murata A, Baba Y , Ishimoto T , Miyake K, Kosumi K , Harada K , Kurashige J, Iwagami S, Sakamoto Y, Miyamoto Y , Yoshida N, Yamamoto M, Oda S, Watanabe M, Nakao M, Baba H : TET family proteins and 5-hydroxymethylcytosine in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Oncotarget</i> 6(27):23372-82, 2015. 査読有
223	※ Miyamoto Y , Hayashi N, Sakamoto Y, Ohuchi M, Tokunaga R, Kurashige J, Hiyoshi Y, Baba Y , Iwagami S, Yoshida N, Yoshida M, Baba H : Predictors of long-term survival in patients with stage IV colorectal cancer with multi-organ metastases: A single-center retrospective analysis. <i>Int J Clin Oncol</i> 20(6):1140-6, 2015. 査読有
224	※ Miyamoto Y , Baba Y , Sakamoto Y, Ohuchi M, Tokunaga R, Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwagami S, Yoshida N, Yoshida M, Watanabe M, Baba H : Sarcopenia is a negative prognostic factor after curative resection of colorectal cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> 22(8):2663-8, 2015. 査読有
225	※ Miyamoto Y , Baba Y , Sakamoto Y, Ohuchi M, Tokunaga R, Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwagami S, Yoshida N, Watanabe M, Baba H : Negative impact of skeletal muscle loss after systemic chemotherapy in patients with unresectable colorectal cancer. <i>PLOS ONE</i> 10(6):e0129742, 2015. 査読有
226	※Masuda T, Beppu T, Doi K, Miyata T, Nakagawa S , Okabe H, Hayashi H, Ishiko T, Iyama K-I, Baba H : Repeated hepatic resections and radio-frequency ablations may improve the survival of adult undifferentiated embryonal sarcoma of the liver: Report of two cases. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):55, 2015. 査読有
227	※Kuroki H, Hayashi H, Nakagawa S , Sakamoto K, Higashi T , Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, Baba H : Effect of LSKL peptide on thrombospondin 1-mediated transforming growth factor beta signal activation and liver regeneration after hepatectomy in an experimental model. <i>Br J Surg</i> 102(7):813-25, 2015. 査読有
228	※Kurita N, Miyata H, Gotoh M, Shimada M, Imura S, Kimura W, Tomita N, Baba H , Kitagawa Y, Sugihara K, Mori M: Risk model for distal gastrectomy when treating gastric cancer on the basis of data from 33,917 Japanese patients collected using a nationwide web-based data entry system. <i>Ann Surg</i> 262(2):295-303, 2015. 査読有
229	※Kuramoto K, Beppu T, Namimoto T, Hayashi H, Imai K, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Iyama K-I, Ikeda O, Yamashita Y, Baba H : Hepatic angiomyolipoma with special attention to radiologic imaging. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):38, 2015. 査読有

230	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Harada K</u> , Miyake K, Izumi D, Tokunaga R, Murata A, Eto K, Sugihara H, Shigaki H, Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, Komohara Y, Takeya M, <u>Baba H</u> : Relationship between LINE-1 hypomethylation and Helicobacter pylori infection in gastric mucosae. <i>Med Oncol</i> 32(4):117, 2015. 査読有
231	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Harada K</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Perioperative Blood Transfusion, Age at Surgery, and Prognosis in a Database of 526 Upper Gastrointestinal Cancers. <i>Dig Surg</i> 32(6):445-53, 2015. 査読有
232	※Koga Y, <u>Baba Y</u> , Karashima R, Iwagami S, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Yoshida N, <u>Baba H</u> : Breast cancer recurrence in esophagus, stomach, and liver, 15 years following primary surgery: Report of a case. <i>Int Canc Conf J</i> 4(3):172-5, 2015. 査読有
233	※Koga Y, <u>Baba Y</u> , <u>Harada K</u> , <u>Kosumi K</u> , Shigaki H, Kurashige J, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Yoshida N, <u>Baba H</u> : Multiple skeletal muscle metastases from poorly differentiated gastric adenocarcinoma. <i>Surg Case Rep</i> 1(1):105, 2015. 査読有
234	※Karashima R, Watanabe M, Imamura Y, Ida S, <u>Baba Y</u> , Iwagami S, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Yoshida N, <u>Baba H</u> : Erratum to: Advantages of FDG-PET/CT over CT alone in the preoperative assessment of lymph node metastasis in patients with esophageal cancer. <i>Surg Today</i> 45(4):478, 2015. 査読有
235	※Karashima R, Watanabe M, Imamura Y, Ida S, <u>Baba Y</u> , Iwagami S, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Yoshida N, <u>Baba H</u> : Advantages of FDG-PET/CT over CT alone in the preoperative assessment of lymph node metastasis in patients with esophageal cancer. <i>Surg Today</i> 45(4):471-7, 2015. 査読有
236	※Izumi D, Toyama E, Shigaki H, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Hayashi N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Laparoscopic excision of an adult retroperitoneal cystic lymphangioma coexisting with an esophageal hiatus hernia. <i>Clin J Gastroenterol</i> 8(3):130-3, 2015. 査読有
237	※Izumi D, <u>Ishimoto T</u> , Yoshida N, Nakamura K, <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Sugihara H, Sawayama H, Karashima R, Imamura Y, Ida S, Hiyoshi Y, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Watanabe M, <u>Baba H</u> : A clinicopathological analysis of primary mucosal malignant melanoma. <i>Surg Today</i> 45(7):886-91, 2015. 査読有
238	※Izumi D, <u>Ishimoto T</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Baba H</u> : Molecular insights into colorectal cancer stem cell regulation by environmental factors. <i>J Cancer Metastasis Treat</i> 1(3):156-62, 2015. 査読有
239	※Iwatsuki M, Kurashige J, <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : The clinical significance of circulating tumor cells in gastrointestinal cancer. <i>J Cancer Metastasis Treat</i> 1(3):130-7, 2015. 査読有
240	※Iwamoto S, Takahashi T, Tamagawa H, Nakamura M, Munemoto Y, Kato T, Hata T, Denda T, Morita Y, Inukai M, Kunieda K, Nagata N, Kurachi K, Ina K, Oshiro T, Shimoyama T, <u>Baba H</u> , Oba K, Sakamoto J, Mishima H: FOLFIRI plus bevacizumab as second-line therapy in patients with metastatic colorectal cancer after first-line bevacizumab plus oxaliplatin-based therapy: The randomized phase III EAGLE study dagger. <i>Ann Oncol</i> 26(7):1427-33, 2015. 査読有
241	※ <u>Ishimoto T</u> , Izumi D, Watanabe M, Yoshida N, Hidaka K, Miyake K, Sugihara H, Sawayama H, Imamura Y, Iwatsuki M, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Horlad H, Komohara Y, Takeya M, <u>Baba H</u> : Chronic inflammation with Helicobacter pylori infection is implicated in CD44 overexpression through miR-328 suppression in the gastric mucosa. <i>J Gastroenterol</i> 50(7):751-7, 2015. 査読有
242	※Inoue S, Ikeda O, Nakasone Y, Beppu T, Masuda T, Yokoyama K, Utsunomiya D, <u>Baba H</u> , Yamashita Y: Percutaneous transhepatic portal embolization using foam ethanalamine oleate and carbon dioxide (CO2): A pilot study. <i>Acta Radiol</i> 56(11):1361-7, 2015. 査読有
243	※Imamura Y, Tokunaga R, Nakamura K, <u>Baba H</u> , Watanabe M: Overview of genetic and epigenetic alterations in the pathogenesis of esophagogastric junctional adenocarcinoma and esophageal adenocarcinoma: Recent findings by next generation sequencing. <i>J Cancer Metastasis Treat</i> 1(3):123-9, 2015. 査読有
244	※Imai K, Benitez CC, Allard M-A, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, <u>Baba H</u> , Adam R: Failure to achieve a two-stage hepatectomy for colorectal liver metastases: How to prevent it? <i>Ann Surg</i> 262(5):775-9, 2015. 査読有
245	※Ida S, Watanabe M, Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Umezaki N, <u>Harada K</u> , Karashima R, Imamura Y, Iwagami S, <u>Baba H</u> : Sarcopenia is a predictor of postoperative respiratory complications in patients with esophageal cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> 22(13):4432-7, 2015. 査読有

246	※Ida S, Watanabe M, Baba H : Chronic inflammation and gastrointestinal cancer. <i>J Cancer Metastasis Treat</i> 1(3):138-43, 2015. 査読有
247	※Ida S, Ozaki N, Araki K, Hirashima K, Zaitzu Y, Taki K, Sakamoto Y, Miyamoto Y , Oki E, Morita M, Watanabe M, Maehara Y, Yamamura K-i, Baba H , Ohmuraya M: SPINK1 status in colorectal cancer, impact on proliferation, and role in colitis-associated cancer. <i>Mol Cancer Res</i> 13(7):1130-8, 2015. 査読有
248	※ Higashi T , Hayashi H, Kaida T, Arima K, Takeyama H, Taki K, Izumi D, Tokunaga R, Kosumi K , Nakagawa S , Okabe H, Imai K, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, Baba H : Prognostic impact of visceral fat amount and branched-chain amino acids (BCAA) in hepatocellular carcinoma. <i>Ann Surg Oncol</i> 22(Suppl 3):1041-7, 2015. 査読有
249	※ Higashi T , Hayashi H, Ishimoto T , Takeyama H, Kaida T, Arima K, Taki K, Sakamoto K, Kuroki H, Okabe H, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, Baba H : miR-9-3p plays a tumour-suppressor role by targeting TAZ (WWTR1) in hepatocellular carcinoma cells. <i>Br J Cancer</i> 113(2):252-8, 2015. 査読有
250	※Hayashi H, Higashi T , Yokoyama N, Kaida T, Sakamoto K, Fukushima Y, Ishimoto T , Kuroki H, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Oki E, Beppu T, Baba H : An imbalance in TAZ and YAP expression in hepatocellular carcinoma confers cancer stem cell-like behaviors contributing to disease progression. <i>Cancer Res</i> 75(22):4985-97, 2015. 査読有
251	※Hayashi H, Beppu T, Sakamoto Y, Miyamoto Y , Yokoyama N, Higashi T , Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Baba H : Prognostic value of Ki-67 expression in conversion therapy for colorectal liver-limited metastases. <i>Am J Cancer Res</i> 5(3):1225-33, 2015. 査読有
252	※Hashimoto D, Chikamoto A, Ohmuraya M, Abe S, Nakagawa S , Beppu T, Takamori H, Hirota M, Baba H : Impact of postoperative weight loss on survival after resection for pancreatic cancer. <i>J Parenter Enter Nutr</i> 39(5):598-603, 2015. 査読有
253	※Hashimoto D, Chikamoto A, Miyanari N, Ohara C, Kuramoto M, Horino K, Ohshima H, Baba H : Recombinant soluble thrombomodulin for postoperative disseminated intravascular coagulation. <i>J Surg Res</i> 197(2):405-11, 2015. 査読有
254	※ Harada K , Baba Y , Ishimoto T , Kosumi K , Tokunaga R, Izumi D, Ohuchi M, Nakamura K, Kiyozumi Y, Kurashige J, Iwagami S, Miyamoto Y , Sakamoto Y, Yoshida N, Oki E, Watanabe M, Baba H : Suppressor microRNA-145 is epigenetically regulated by promoter hypermethylation in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Anticancer Res</i> 35(9):4617-24, 2015. 査読有
255	※ Harada K , Baba Y , Ishimoto T , Kosumi K , Tokunaga R, Izumi D, Ida S, Imamura Y, Iwagami S, Miyamoto Y , Sakamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, Baba H : Low visceral fat content is associated with poor prognosis in a database of 507 upper gastrointestinal cancers. <i>Ann Surg Oncol</i> 22(12):3946-53, 2015. 査読有
256	※ Harada K , Baba Y , Ishimoto T , Chikamoto A, Kosumi K , Hayashi H, Nitta H, Hashimoto D, Beppu T, Baba H : LINE-1 methylation level and patient prognosis in a database of 208 hepatocellular carcinomas. <i>Ann Surg Oncol</i> 22(4):1280-7, 2015. 査読有
257	※Eto K, Iwatsuki M, Watanabe M, Ishimoto T , Ida S, Imamura Y, Iwagami S, Baba Y , Sakamoto Y, Miyamoto Y , Yoshida N, Baba H : The sensitivity of gastric cancer to trastuzumab is regulated by the miR-223/FBXW7 pathway. <i>Int J Cancer</i> 136(7):1537-45, 2015. 査読有
258	※Doi K, Beppu T, Ishiko T, Chikamoto A, Hayashi H, Imai K, Nitta H, Baba Y , Masuda T, Okabe K, Kuramoto M, Kudo K, Ogata K, Ohchi T, Takamori H, Kikuchi K, Baba H : Endoscopic radiofrequency ablation in elderly patients with hepatocellular carcinoma. <i>Anticancer Res</i> 35(5):3033-40, 2015. 査読有
259	※Daitoku N, Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Hayashi H, Nitta H, Taki K, Higashi T , Arima K, Kaida T, Ishiko T, Beppu T, Baba H : Hepatobiliary and Pancreatic: Replaced common hepatic artery on left gastric artery: a rare anomaly and implication for pancreaticoduodenectomy. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> 30(12):1695, 2015. 査読有
260	※Beppu T, Wakabayashi G, Hasegawa K, Gotohda N, Mizuguchi T, Takahashi Y, Hirokawa F, Taniai N, Watanabe M, Katou M, Nagano H, Honda G, Baba H , Kokudo N, Konishi M, Hirata K, Yamamoto M, Uchiyama K, Uchida E, Kusachi S, Kubota K, Mori M, Takahashi K, Kikuchi K, Miyata H, Takahara T, Nakamura M, Kaneko H, Yamaue H, Miyazaki M, Takada T: Long-term and perioperative outcomes of laparoscopic versus open liver resection for colorectal liver metastases with propensity score matching: A multi-institutional Japanese study. <i>J Hepatobiliary Pancreat Sci</i> 22(10):711-20, 2015. 査読有

261	※Beppu T, Nitta H, Hayashi H, Imai K, Okabe H, <u>Nakagawa S</u> , Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Yoshida M, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Effect of branched-chain amino acid supplementation on functional liver regeneration in patients undergoing portal vein embolization and sequential hepatectomy: A randomized controlled trial. <i>J Gastroenterol</i> 50(12):1197-205, 2015. 査読有
262	※ <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Harada K</u> , <u>Kosumi K</u> , Murata A, Miyake K, Hiyoshi Y, Kurashige J, Iwatsuki M, Iwagami S, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Yoshida N, Oki E, Iyama K, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Molecular characteristics of basaloid squamous cell carcinoma of the esophagus: Analysis of KRAS, BRAF, and PIK3CA mutations and LINE-1 methylation. <i>Ann Surg Oncol</i> 22(11):3659-65, 2015. 査読有
263	※ <u>Baba Y</u> , Akiyama T, <u>Kosumi K</u> , <u>Harada K</u> , Shigaki H, Iwatsuki M, Sakamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Esophageal bypass using a Y-shaped gastric tube for advanced esophageal cancer: Transabdominal placement of the decompression tube. <i>J Am Coll Surg</i> 221(5):e87-90, 2015. 査読有
264	※ <u>Baba H</u> , <u>Baba Y</u> , Uemoto S, Yoshida K, Saiura A, Watanabe M, Maehara Y, Oki E, Ikeda Y, Matsuda H, Yamamoto M, Shimada M, Taketomi A, Unno M, Sugihara K, Ogata Y, Eguchi S, Kitano S, Shirouzu K, Saiki Y, Takamori H, Mori M, Hirata T, Wakabayashi G, Kokudo N: Changes in expression levels of ERCC1, DPYD, and VEGFA mRNA after first-line chemotherapy of metastatic colorectal cancer: results of a multicenter study. <i>Oncotarget</i> 6(32):34004-13, 2015. 査読有
265	※Arima K, Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Kuroki H, Taki K, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Nitta H, Komohara Y, Beppu T, Takeya M, <u>Baba H</u> : The neutrophil-to-lymphocyte ratio predicts malignant potential in intraductal papillary mucinous neoplasms. <i>J Gastrointest Surg</i> 19(12):2171-7, 2015. 査読有
266	※Arima K, Chikamoto A, Hashimoto D, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Taki K, Takeyama H, Okabe H, Nitta H, Hayashi H, Beppu T, <u>Baba H</u> : Hepatology: Hepatocellular carcinoma with duodenal metastasis. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> 30(7):1115, 2015. 査読有
267	※Oki E, Emi Y, <u>Miyamoto Y</u> , Kabashima A, Higashi H, Ogata Y, Ikebe M, Saeki H, Tokunaga S, Shirabe K, Beppu T, Uchida S, Takatsuki M, Sakoda M, Eguchi S, Akagi Y, Kakeji Y, <u>Baba H</u> , Natsugoe S, Maehara Y: Phase II Trial of S-1 and Oxaliplatin Plus Cetuximab for Colorectal Cancer Patients with Initially Unresectable or Not Optimally Resectable Liver Metastases (KSCC1002). <i>Ann Surg Oncol</i> 22 Suppl 3:1067-1074, 2015. 査読有
○ 268	Sato H※, Taketomi Y, Ushida A, Isogai Y, Kojima T, Hirabayashi T, Miki Y, Yamamoto K, Nishito Y, Kobayashi T, Ikeda K, Taguchi R, Hara S, Ida S, <u>Miyamoto Y</u> , Watanabe M, <u>Baba H</u> , Miyata K, Oike Y, Gelb MH, Murakami M: The Adipocyte-Inducible Secreted Phospholipases PLA2G5 and PLA2G2E Play Distinct Roles in Obesity. <i>Cell Metab</i> 20(1):119-32, 2014.
◎ 269	Zhu Z※, Aref AR, Cohoon TJ, Barbie TU, <u>Imamura Y</u> , Yang S, Moody SE, Shen RR, Schinzel AC, Thai TC, Reibel JB, Tamayo P, Godfrey JT, Qian ZR, Page AN, Maciag K, Chan EM, Silkworth W, Labowsky MT, Rozhansky L, Mesirov JP, Gillanders WE, <u>Ogino S</u> , Hacohen N, Gaudet S, Eck MJ, Engelman JA, Corcoran RB, Wong KK, Hahn WC, Barbie DA: Inhibition of KRAS-driven tumorigenicity by interruption of an autocrine cytokine circuit. <i>Cancer Discov</i> 4(4):452-65, 2014.
◎ 270	Inamura K※, Yamauchi M, Nishihara R, Lochhead P, Qian ZR, Kuchiba A, Kim SA, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Jung S, Zhang X, Wu K, Cho E, Chan AT, Meyerhardt JA, Harris CC, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> : Tumor LINE-1 Methylation Level and Microsatellite Instability in Relation to Colorectal Cancer Prognosis. <i>J Natl Cancer Inst</i> 106(9):dju195, 2014.
◎ 271	Barbie TU※, Alexe G, Aref AR, Li S, Zhu Z, Zhang X, <u>Imamura Y</u> , Thai TC, Huang Y, Bowden M, Herndon J, Cohoon TJ, Fleming T, Tamayo P, Mesirov JP, <u>Ogino S</u> , Wong KK, Ellis MJ, Hahn WC, Barbie DA, Gillanders WE: Targeting an IKBKE cytokine network impairs triple-negative breast cancer growth. <i>J Clin Invest</i> 124(12):5411-23, 2014.
○ 272	Shahjalal HM※, Shiraki N, Sakano D, Kikawa K, Ogaki S, <u>Baba H</u> , Kume K, Kume S: Generation of insulin-producing beta-like cells from human iPS cells in a defined and completely xeno-free culture system. <i>J Mol Cell Biol</i> 6(5):394-408, 2014.
273	Kimura W※, Miyata H, Gotoh M, Hirai I, Kenjo A, Kitagawa Y, Shimada M, <u>Baba H</u> , Tomita N, Nakagoe T, Sugihara K, Mori M: A pancreaticoduodenectomy risk model derived from 8575 cases from a national single-race population (Japanese) using a web-based data entry system: the 30-day and in-hospital mortality rates for pancreaticoduodenectomy. <i>Ann Surg</i> 259(4):773-80, 2014.
274	Takeuchi H※, Miyata H, Gotoh M, Kitagawa Y, <u>Baba H</u> , Kimura W, Tomita N, Nakagoe T, Shimada M, Sugihara K, Mori M: A risk model for esophagectomy using data of 5354 patients included in a Japanese nationwide web-based database. <i>Ann Surg</i> 260(2):259-66, 2014.
275	<u>Ishimoto T</u> ※, Sawayama H, Sugihara H, <u>Baba H</u> : Interaction between gastric cancer stem cells and the tumor microenvironment. <i>J Gastroenterol</i> 49(7):1111-20, 2014.

276	Watanabe M※, Miyata H, Gotoh M, <u>Baba H</u> , Kimura W, Tomita N, Nakagoe T, Shimada M, Kitagawa Y, Sugihara K, Mori M: Total Gastrectomy Risk Model: Data From 20,011 Japanese Patients in a Nationwide Internet-Based Database. <i>Ann Surg</i> 260(6):1034-9, 2014.
◎ 277	Nishihara R※, Wang M, Qian ZR, <u>Baba Y</u> , Yamauchi M, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Kim SA, Inamura K, Zhang X, Wu K, Giovannucci EL, Chan AT, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Schernhammer ES: Alcohol, one-carbon nutrient intake, and risk of colorectal cancer according to tumor methylation level of IGF2 differentially methylated region. <i>Am J Clin Nutr</i> 100(6):1479-88, 2014.
◎ 278	<u>Imamura Y</u> ※, Lochhead P, Yamauchi M, Kuchiba A, Qian ZR, Liao X, Nishihara R, Jung S, Wu K, Nosho K, Wang YE, Peng S, Bass AJ, Haigis KM, Meyerhardt JA, Chan AT, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> : Analyses of clinicopathological, molecular, and prognostic associations of KRAS codon 61 and codon 146 mutations in colorectal cancer: cohort study and literature review. <i>Mol Cancer</i> 13(1):135, 2014.
279	<u>Ishimoto T</u> ※, Sugihara H, Watanabe M, Sawayama H, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Okabe H, Hidaka K, Yokoyama N, Miyake K, Yoshikawa M, Nagano O, Komohara Y, Takeya M, Saya H, <u>Baba H</u> : Macrophage-derived reactive oxygen species suppress miR-328 targeting CD44 in cancer cells and promote redox adaptation. <i>Carcinogenesis</i> 35(5):1003-11, 2014.
280	Ito M※, Mitsuhashi K, Igarashi H, Nosho K, Naito T, Yoshii S, Takahashi H, Fujita M, Sukawa Y, Yamamoto E, Takahashi T, Adachi Y, Nojima M, Sasaki Y, Tokino T, <u>Baba Y</u> , Maruyama R, Suzuki H, Imai K, Yamamoto H, Shinomura Y: MicroRNA-31 expression in relation to BRAF mutation, CpG island methylation and colorectal continuum in serrated lesions. <i>Int J Cancer</i> 135(11):2507-15, 2014.
281	Ishikawa S※, Hayashi H, Kinoshita K, Abe M, Kuroki H, Tokunaga R, Tomiyasu S, Tanaka H, Sugita H, Arita T, Yagi Y, Watanabe M, Hirota M, <u>Baba H</u> : Statins inhibit tumor progression via an enhancer of zeste homolog 2-mediated epigenetic alteration in colorectal cancer. <i>Int J Cancer</i> 135(11):2528-36, 2014.
282	Oki E※, Tsuda Y, Saeki H, Ando K, <u>Imamura Y</u> , Nakashima Y, Ohgaki K, Morita M, Ikeda T, Maehara Y: Book-Binding Technique for Billroth I Anastomosis During Totally Laparoscopic Distal Gastrectomy. <i>J Am Coll Surg</i> 219(6):e69-73, 2014.
◎ 283	Jung S※, Qian ZR, Yamauchi M, Bertrand KA, Fitzgerald KC, Inamura K, Kim SA, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Zhang X, Wang M, Smith-Warner SA, Wu K, Fuchs CS, Chan AT, Giovannucci EL, Ng K, Cho E, <u>Ogino S</u> , Nishihara R: Predicted 25(OH)D score and colorectal cancer risk according to vitamin D receptor expression. <i>Cancer Epidemiol Biomarkers Prev</i> 23(8):1628-37, 2014.
284	Hirashima K※, Watanabe M, Shigaki H, <u>Imamura Y</u> , Ida S, Iwatsuki M, <u>Ishimoto T</u> , Iwagami S, <u>Baba Y</u> , <u>Baba H</u> : Prognostic significance of the modified Glasgow prognostic score in elderly patients with gastric cancer. <i>J Gastroenterol</i> 49(6):1040-6, 2014.
285	Kobayashi H※, Miyata H, Gotoh M, <u>Baba H</u> , Kimura W, Kitagawa Y, Nakagoe T, Shimada M, Tomita N, Sugihara K, Mori M: Risk model for right hemicolectomy based on 19,070 Japanese patients in the National Clinical Database. <i>J Gastroenterol</i> 49(6):1047-55, 2014.
286	Beppu T※, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Imai K, Nitta H, Hayashi H, Chikamoto A, Watanabe M, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Chemotherapy and targeted therapy for patients with initially unresectable colorectal liver metastases, focusing on conversion hepatectomy and long-term survival. <i>Ann Surg Oncol</i> 21 (Suppl 3):S405-13, 2014.
287	Ida S※, Morita M, Hiyoshi Y, Ikeda K, Ando K, Kimura Y, Saeki H, Oki E, Kusumoto T, Yoshida S, Nakashima T, Watanabe M, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Surgical resection of hypopharynx and cervical esophageal cancer with a history of esophagectomy for thoracic esophageal cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> 21(4):1175-81, 2014.
288	Ida S※, Watanabe M, Karashima R, <u>Imamura Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Baba Y</u> , Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Changes in Body Composition Secondary to Neoadjuvant Chemotherapy for Advanced Esophageal Cancer are Related to the Occurrence of Postoperative Complications After Esophagectomy. <i>Ann Surg Oncol</i> 21(11):3675-9, 2014.
289	Imai K※, Beppu T, Yamao T, Okabe H, Hayashi H, Nitta H, Hashimoto D, <u>Mima K</u> , Nakagawa S, Sakamoto K, Chikamoto A, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Clinicopathological and prognostic significance of preoperative serum zinc status in patients with hepatocellular carcinoma after initial hepatectomy. <i>Ann Surg Oncol</i> 21(12):3817-26, 2014.
◎ 290	Li T※, Liao X, Lochhead P, Morikawa T, Yamauchi M, Nishihara R, Inamura K, Kim SA, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Kuchiba A, <u>Imamura Y</u> , <u>Baba Y</u> , Shima K, Meyerhardt JA, Chan AT, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Qian ZR: SMO Expression in Colorectal Cancer: Associations with Clinical, Pathological, and Molecular Features. <i>Ann Surg Oncol</i> 21(13):4164-73, 2014.
291	Murata A※, <u>Baba Y</u> , Watanabe M, Shigaki H, Miyake K, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, Iwagami S, Yoshida N, Oki E, Morita M, Nakao M, <u>Baba H</u> : IGF2 DMR0 methylation, loss of imprinting, and patient prognosis in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Ann Surg Oncol</i> 21(4):1166-74, 2014.
292	Oki E※, Emi Y, Kusumoto T, Sakaguchi Y, Yamamoto M, Sadanaga N, Shimokawa M, Yamanaka T, Saeki H, Morita M, Takahashi I, Hirabayashi N, Sakai K, Orita H, Aishima S, Kakeji Y, Yamaguchi K, Yoshida K, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Phase II Study of Docetaxel and S-1 (DS) as Neoadjuvant Chemotherapy for Clinical Stage III Resectable Gastric Cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> 21(7):2340-6, 2014.

293	Sawayama H※, <u>Ishimoto T</u> , Watanabe M, Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Sugihara H, Izumi D, Kurashige J, <u>Baba H</u> : High expression of glucose transporter 1 on primary lesions of esophageal squamous cell carcinoma is associated with hematogenous recurrence. <i>Ann Surg Oncol</i> 21(5):1756-62, 2014.
294	Watanabe M※, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, <u>Ishimoto T</u> , Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, <u>Baba H</u> : Outcomes of Preoperative Chemotherapy with Docetaxel, Cisplatin, and 5-Fluorouracil Followed by Esophagectomy in Patients with Resectable Node-Positive Esophageal Cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> 21(9):2838-44, 2014.
295	Masuda T※, Shirabe K, Ikegami T, Harimoto N, Yoshizumi T, Soejima Y, Uchiyama H, Ikeda T, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Sarcopenia is a prognostic factor in living donor liver transplantation. <i>Liver Transpl</i> 20(4):401-7, 2014.
296	Itoyama R※, Hashimoto D, Chikamoto A, Hayashi H, Beppu T, <u>Baba H</u> : Hepatobiliary and Pancreatic: Sigmoidal mesenteric lymph node metastasis from pancreatic cancer. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> 29(12):1953, 2014.
297	Kuroki H※, Hayashi H, Okabe H, Hashimoto D, Takamori H, Nakahara O, Nakagawa S, Fukushima Y, Chikamoto A, Beppu T, Hirota M, Iyama K, <u>Baba H</u> : EZH2 Is Associated with Malignant Behavior in Pancreatic IPMN via p27Kip1 Downregulation. <i>PLOS ONE</i> 9(8):e100904, 2014.
298	Horiguchi H※, Endo M, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Odagiri H, Masuda T, Kadomatsu T, Tanoue H, Motokawa I, Terada K, Morioka MS, Manabe I, <u>Baba H</u> , Oike Y: Angiopoietin-like protein 2 renders colorectal cancer cells resistant to chemotherapy by activating spleen tyrosine kinase-phosphoinositide 3-kinase-dependent anti-apoptotic signaling. <i>Cancer Sci</i> 105(12):1550-9, 2014.
○ 299	Okabe H※, Delgado E, Lee JM, Yang J, Kinoshita H, Hayashi H, Tsung A, Behari J, Beppu T, <u>Baba H</u> , Monga SP: Role of leukocyte cell-derived chemotaxin 2 as a biomarker in hepatocellular carcinoma. <i>PLOS ONE</i> 9(6):e98817, 2014.
300	Matsubara N※, Miyata H, Gotoh M, Tomita N, <u>Baba H</u> , Kimura W, Nakagoe T, Simada M, Kitagawa Y, Sugihara K, Mori M: Mortality after common rectal surgery in Japan: a study on low anterior resection from a newly established nationwide large-scale clinical database. <i>Dis Colon Rectum</i> 57(9):1075-81, 2014.
301	<u>Miyamoto Y</u> ※, Sakamoto Y, Yoshida N, <u>Baba H</u> : Efficacy of S-1 in colorectal cancer. <i>Expert Opin Pharmacother</i> 15(12):1761-70, 2014.
302	Imai K※, Emi Y, Iyama KI, Beppu T, Ogata Y, Kakeji Y, Samura H, Oki E, Akagi Y, Maehara Y, <u>Baba H</u> , study KSGoCCa: Splenic volume may be a useful indicator of the protective effect of bevacizumab against oxaliplatin-induced hepatic sinusoidal obstruction syndrome. <i>Eur J Surg Oncol</i> 40(5):559-66, 2014.
303	Sawayama H※, <u>Ishimoto T</u> , Sugihara H, Miyanari N, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Baba Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Clinical impact of the Warburg effect in gastrointestinal cancer (Review). <i>Int J Oncol</i> 45(4):1345-54, 2014.
304	Masuda T※, Kuramoto M, Shimada S, Ikeshima S, Yamamoto K, Nakamura K, <u>Baba H</u> : Splanchnicectomy for pancreatic cancer pain. <i>BioMed Res Int</i> 2014:941726, 2014.
◎ 305	Naito T※, Noshō K, Ito M, Igarashi H, Mitsuhashi K, Yoshii S, Aoki H, Nomura M, Sukawa Y, Yamamoto E, Adachi Y, Takahashi H, Hosokawa M, Fujita M, Takenouchi T, Maruyama R, Suzuki H, <u>Baba Y</u> , Imai K, Yamamoto H, <u>Ogino S</u> , Shinomura Y: IGF2 differentially methylated region hypomethylation in relation to pathological and molecular features of serrated lesions. <i>World J Gastroenterol</i> 20(29):10050-61, 2014.
306	Imai K※, Beppu T, Chikamoto A, <u>Mima K</u> , Okabe H, Hayashi H, Nitta H, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Salvage treatment for local recurrence of hepatocellular carcinoma after local ablation therapy. <i>Hepatol Res</i> 44(14):E335-45, 2014.
307	Nakagawa S※, Beppu T, Okabe H, Sakamoto K, Kuroki H, <u>Mima K</u> , Nitta H, Imai K, Hayashi H, Sakamoto Y, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Triple positive tumor markers predict recurrence and survival in early stage hepatocellular carcinoma. <i>Hepatol Res</i> 44(9):964-74, 2014.
308	Nitta H※, Murakami Y, Wada Y, Eto M, <u>Baba H</u> , Imamura T: Cancer cells release anaphylatoxin C5a from C5 by serine protease to enhance invasiveness. <i>Oncol Rep</i> 32(4):1715-9, 2014.
309	Ikuta Y※, Takamori H, Sakamoto Y, Hashimoto D, Chikamoto A, Kuroki H, Sakata K, Sakamoto K, Hayashi H, Imai K, Nitta H, Hirota M, Kanemitsu K, Beppu T, <u>Baba H</u> : The modified Glasgow Prognostic Score (mGPS) is a good predictor of indication for palliative bypass surgery in patients with unresectable pancreatic and biliary cancers. <i>Int J Clin Oncol</i> 19(4):629-33, 2014.
310	Okabe H※, Beppu T, Chikamoto A, Hayashi H, Yoshida M, Masuda T, Imai K, <u>Mima K</u> , Nakagawa S, Kuroki H, Nitta H, Ishiko T, Hashimoto D, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Remnant liver volume-based predictors of postoperative liver dysfunction after hepatectomy: analysis of 625 consecutive patients from a single institution. <i>Int J Clin Oncol</i> 19(4):614-21, 2014.
311	Sawayama H※, Kanemitsu K, Okuma T, Inoue K, Yamamoto K, <u>Baba H</u> : Safety of polypropylene mesh for incarcerated groin and obturator hernias: a retrospective study of 110 patients. <i>Hernia</i> 18(3):399-406, 2014.

312	Watanabe M※, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, <u>Ishimoto T</u> , Sakaguchi H, Kawasuji M, <u>Baba H</u> : Modified gastric pull-up reconstructions following pharyngolaryngectomy with total esophagectomy. <i>Dis Esophagus</i> 27(3):255-61, 2014.
313	Yoshida N※, Watanabe M, <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Karashima R, <u>Baba H</u> : Influence of preoperative docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil on the incidence of complications after esophagectomy for resectable advanced esophageal cancer. <i>Dis Esophagus</i> 27(4):374-9, 2014.
314	Ikeda O※, Nakasone Y, Yokoyama K, Inoue S, Takamori H, <u>Baba H</u> , Yamashita Y: Successful treatment of mesenteric varices by retrograde transvenous obliteration by the delivery of N-butyl-2-cyanoacrylate via an abdominal wall vein. <i>Cardiovasc Intervent Radiol</i> 37(2):533-6, 2014.
315	Nagai Y※, Beppu T, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Hayashi H, Nitta H, Imai K, Masuda T, Okabe H, Hirashima K, <u>Imamura Y</u> , <u>Baba Y</u> , Chikamoto A, <u>Baba H</u> : Carcinoembryonic Antigen Half-life Is an Early Predictor of Therapeutic Effects in Induction Chemotherapy for Liver Metastases from Colorectal Cancer. <i>Anticancer Res</i> 34(10):5529-35, 2014.
316	Beppu T※, Emi Y, Tokunaga S, Oki E, Shirabe K, Ueno S, Kuramoto M, Kabashima A, Takahashi I, Samura H, Eguchi S, Akagi Y, Natsugoe S, Ogata Y, Kakeji Y, <u>Baba H</u> , Maehara Y, Kyushu Study Group Of Clinical Cancer: Liver Resectability of Advanced Liver-limited Colorectal Liver Metastases Following mFOLFOX6 with Bevacizumab (KSCC0802 Study). <i>Anticancer Res</i> 34(11):6655-62, 2014.
317	Yoshida M※, Shiraishi S, Sakamoto F, Beppu T, Utsunomiya D, Okabe H, Tomiguchi S, <u>Baba H</u> , Yamashita Y: Assessment of hepatic functional regeneration after hepatectomy using Tc-GSA SPECT/CT fused imaging. <i>Ann Nucl Med</i> 28(8):780-8, 2014.
318	Okabe H※, Beppu T, Hayashi H, <u>Mima K</u> , Nakagawa S, Kuroki H, Imai K, Nitta H, Masuda T, Hashimoto D, Chikamoto A, Watanabe M, Ishiko T, Yoshida M, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Rank classification based on the combination of indocyanine green retention rate at 15 min and (99m)Tc-DTPA-galactosyl human serum albumin scintigraphy predicts the safety of hepatic resection. <i>Nucl Med Commun</i> 35(5):478-83, 2014.
319	Itoyama A※, Hashimoto D, Tsutsumi H, Chikamoto A, Beppu T, Sasaki Y, <u>Baba H</u> : Hemorrhage from the pancreatic cut end into the jejunum after binding pancreaticojejunostomy: report of a case. <i>Surg Today</i> 44(9):1754-6, 2014.
320	Arima K※, Watanabe M, Iwatsuki M, Ida S, <u>Ishimoto T</u> , Nagai Y, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Baba H</u> : Volvulus of an ileal pouch-rectal anastomosis after subtotal colectomy for ulcerative colitis: report of a case. <i>Surg Today</i> 44(12):2382-4, 2014.
321	<u>Baba Y</u> ※, Murata A, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Clinical implications of the LINE-1 methylation levels in patients with gastrointestinal cancer. <i>Surg Today</i> 44(10):1807-16, 2014.
322	Hashimoto D※, Chikamoto A, Ohmuraya M, Hirota M, <u>Baba H</u> : Pancreaticodigestive anastomosis and the postoperative management strategies to prevent postoperative pancreatic fistula formation after pancreaticoduodenectomy. <i>Surg Today</i> 44(7):1207-13, 2014.
323	Hashimoto D※, Chikamoto A, Ohmuraya M, Sakata K, Miyake K, Kuroki H, Watanabe M, Beppu T, Hirota M, <u>Baba H</u> : Pancreatic cancer in the remnant pancreas following primary pancreatic resection. <i>Surg Today</i> 44(7):1313-20, 2014.
324	Hirashima K※, Uchino R, Kume S, Iyama K, Honda Y, Asato T, <u>Baba H</u> : Intra-abdominal mucinous adenocarcinoma of urachal origin: report of a case. <i>Surg Today</i> 44(6):1156-60, 2014.
325	Ida S※, Watanabe M, Yamao T, <u>Ishimoto T</u> , Nagai Y, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Baba H</u> : False-positive ¹⁸ F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography (FDG-PET) findings of bone metastasis from esophagogastric cancer: report of two cases. <i>Surg Today</i> 44(11):2191-4, 2014.
326	<u>Miyamoto Y</u> ※, Ishii T, Tashiro J, Satoh T, Watanabe M, <u>Baba H</u> , Yamaguchi S: Effects of obesity on the outcome of laparoscopic surgery for colorectal cancer. <i>Surg Today</i> 44(7):1293-9, 2014.
327	<u>Miyamoto Y</u> ※, Watanabe M, Sakamoto Y, Shigaki H, Murata A, Sugihara H, Eto K, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Iwagami S, Yoshida N, <u>Baba H</u> : Evaluation of the necessity of primary tumor resection for synchronous metastatic colorectal cancer. <i>Surg Today</i> 44(12):2287-92, 2014.
328	Suzuki M※, Ikeda K, Shiraishi K, Eguchi A, Mori T, Yoshimoto K, Shibata H, Ito T, <u>Baba Y</u> , <u>Baba H</u> : Aberrant methylation and silencing of expression in non-small cell lung cancer. <i>Oncol Lett</i> 8(3):1025-30, 2014.
329	Tsukamoto M※, Hashimoto D, Chikamoto A, Abe S, Ohmuraya M, <u>Baba H</u> : Clinical features and management of pancreatic solid pseudopapillary tumor. <i>Am Surg</i> 80(12):1212-5, 2014.
330	<u>Baba Y</u> ※, Watanabe M, Yoshida N, Kawanaka K, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Radiofrequency ablation for pulmonary metastases from gastrointestinal cancers. <i>Ann Thorac Cardiovasc Surg</i> 20(2):99-105, 2014.

331	Hiyoshi Y※, Oki E, Zaito Y, Ando K, Ito S, Saeki H, Morita M, Yamamoto H, <u>Baba H</u> , Maehara Y: IgG4-related disease of the ileocecal region mimicking malignancy: A case report. <i>Int J Surg Case Rep</i> 5(10):669-72, 2014.
332	Ozaki N※, Hashimoto D, Ikuta Y, Chikamoto A, Takamori H, <u>Baba H</u> : Definitive diagnosis of a duplicate gallbladder can only be made intraoperatively: report of a case. <i>Clin J Gastroenterol</i> 7(4):338-41, 2014.
333	Hayashi H※, Higashi T, Takeyama H, Sakamoto K, Kuroki H, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, <u>Baba H</u> : Tumor Shrinkage in Response to Vitamin K2 in Hepatocellular Carcinoma with Multiple Lung Metastases: A Case Report. <i>AJCC Rep</i> 2(2):20140548, 6 pages, 2014.
334	Beppu T※, Nitta H, Tsukamoto M, Imai K, Hayashi H, Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Percutaneous radiofrequency ablation-assisted laparoscopic hepatectomy. <i>Asian J Endosc Surg</i> 7(2):188-92, 2014.
335	Ida S※, Oki E, Ando K, Kimura Y, Yamashita Y, Saeki H, Ikegami T, Yoshizumi T, Watanabe M, Morita M, Shirabe K, Kusumoto T, Ikeda T, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Pure laparoscopic right-sided hepatectomy in the semi-prone position for synchronous colorectal cancer with liver metastases. <i>Asian J Endosc Surg</i> 7(2):133-7, 2014.
336	Toihata T※, Hashimoto D, Hayashi H, Chikamoto A, Beppu T, <u>Baba H</u> : Intraoperative gastrojejunoscopy-assisted fistulojejunostomy for postoperative pancreatic fistula. <i>Asian J Endosc Surg</i> 7(4):311-3, 2014.
337	Komori H※, Beppu T, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Hayashi H, Imai K, Nitta H, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Irinotecan Plus S-1 Followed by Hepatectomy for a Patient with Initially Unresectable Colorectal Liver Metastases, Who Showed Severe Drug Rash with Oxaliplatin Plus 5-FU and Leucovorin (FOLFOX). <i>Case Rep Gastrointest Med</i> 2014(2014):Article ID 906759, 4 pages, 2014.
338	<u>Ishimoto T</u> ※, <u>Baba H</u> : Targeting cancer stem cells in gastric cancer <i>Gastrointestinal Cancer: Targets and Therapy</i> 2014(4):123-9, 2014.
339	Watanabe M※, Mine S, Yamada K, Shigaki H, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, Kajiyama K, Yamamoto N, Sano T, <u>Baba H</u> : Outcomes of lymphadenectomy for lymph node recurrence after esophagectomy or definitive chemoradiotherapy for squamous cell carcinoma of the esophagus. <i>Gen Thorac Cardiovasc Surg</i> 62(11):685-92, 2014.
340	Beppu T※, Sakamoto Y, Imai K, Hayashi H, Nitta H, <u>Miyamoto Y</u> , Chikamoto A, Watanabe M, <u>Baba H</u> : A patient with colorectal liver metastases with para-aortic regional lymph node metastases who survived for 7 years. <i>Int Canc Conf J</i> 3(3):153-7, 2014.
341	Ikuta Y※, Chikamoto A, Hayashida S, Hashimoto D, Eto T, Beppu T, Asonuma K, Inomata Y, <u>Baba H</u> : Cancer of the head of the pancreas treated with pancreaticoduodenectomy with reconstruction of the replaced common hepatic artery. <i>Int Canc Conf J</i> 3(4):264-7, 2014.
342	Kaida T※, Chikamoto A, Kiyozumi Y, Nitta H, Imai K, Nakahara O, Ikuta Y, Doi K, Ishiko T, Takamori H, Beppu T, <u>Baba H</u> : Neuroendocrine tumor in the Glissonian pedicle of the hepatic hilum. <i>Int Canc Conf J</i> 3(2):72-6, 2014.
343	Nakamura K※, Watanabe M, Nagai Y, <u>Imamura Y</u> , Iwagami S, Iwatsuki M, <u>Ishimoto T</u> , <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Baba H</u> : Cervical intramedullary spinal cord metastasis from esophageal cancer. <i>Int Canc Conf J</i> 3(3):161-4, 2014.
344	Sakamoto Y※, Nakagawa S, Abe S, Hashimoto D, Chikamoto A, Watanabe M, Beppu T, <u>Baba H</u> : Widespread portal venous thrombosis in a patient with pancreatic cancer. <i>Int Canc Conf J</i> 3(4):237-41, 2014.
345	<u>Baba Y</u> ※, Watanabe M, Yoshida N, <u>Baba H</u> : Neoadjuvant treatment for esophageal squamous cell carcinoma. <i>World J Gastrointest Oncol</i> 6(5):121-8, 2014.

②学会等における発表

N	<p>発表題名 等</p> <p>(発表題名、発表者名、発表した学会等の名称、開催場所、口頭発表・ポスター発表の別、審査の有無、発表年月(西暦)について記入してください。)</p> <p>(以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。)</p> <p>・発表者名は参加研究者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること。共同発表者がいる場合は、全ての発表者名を記載し、主たる発表者名は「※」印を付して下さい。発表者名について主担当研究者には二重下線、担当研究者には下線、派遣した若手研究者には波線、海外の主要連携研究者には斜体・太下線、連携研究者には斜体・破線を付して下さい。</p> <p>・口頭・ポスターの別、発表者決定のための審査の有無を区分して記載して下さい。</p> <p>・さらに数がある場合は、欄を追加して下さい。</p> <p>・共同研究の相手側となる海外の研究機関の研究者との国際共同発表には、番号の前に「◎」印を、また、それ以外の国際共同発表については番号の前に○印を付して下さい。</p>
◎1	<p>第116回日本外科学会定期学術集会 2016年4月14日 リーガロイヤルホテル大阪 「網羅的ゲノム解析に基づいた胃癌 Cancer Associated Fibroblasts (CAFs) の特性解明」口頭発表 審査有</p> <p>※<u>石本崇胤</u>、三宅慧輔、八代正和、泉大輔、志垣博信、藏重淳二、岩槻政晃、<u>馬場祥史</u>、坂本快郎、宮本裕土、吉田直矢、平川弘聖、<u>Tan Patrick</u>、<u>馬場秀夫</u></p>
2	<p>第116回日本外科学会定期学術集会 2016年4月16日 リーガロイヤルホテル大阪 「食道胃接合部癌腺癌において pN2/3 および Siewert type1 は予後不良因子である」口頭発表(ワークショップ) 審査有</p> <p>※今村裕、中村健一、徳永竜馬、黒河内喬範、岡村明彦、江藤弘二郎、日吉幸晴、井田智、西田康二郎、沖 栄次、吉田直矢、峯真司、佐野武、前原喜彦、<u>馬場秀夫</u>、渡辺雅</p>
○3	<p>第116回日本外科学会定期学術集会 2016年4月16日 大阪国際会議場 「両葉多発大腸癌肝転移に対する ALPPS 手術 vs Two-stage hepatectomy : Early report of oncological outcomes」口頭発表 審査有</p> <p>※Imai K, Carlos Castro Benitez, Marc-Antoine Allard, Eric Vibert, Antonio Sa Cunha, Daniel Cherqui, Denis Castaing, Bappu T, <u>Baba H</u>, Rene Adam</p>
○4	<p>第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2016年6月2日 大阪国際会議場 「切除不能大腸癌肝転移に対する conversion chemotherapy と肝切除後の予後予測プログラム」ポスター 審査有</p> <p>※Imai K, Allard Marc-Antoine, Castro Benitez Carlos, Vibert Eric, Sa Cunha Antonio, Cherqui Daniel, Castaing Denis, Bismuth Henri, Ymashita Y, Bappu T, <u>Baba H</u>, Adam Rene</p>
◎5	<p>ASCO 2016 2016年6月6日 McCormich Place 「A randomized, double-blind, placebo-controlled phase II study of prophylactic dexamethasone (dex) therapy for fatigue and malaise due to regorafenib in patient (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC): (KSCC1402/HGCSG1402)」ポスター 審査有</p> <p>※<u>Miyamoto Y</u>, Stintzing S, Loupakis F, Wu Z, Shu C, Yan N, Okazaki S, Martin D. B, Suenaga M, Schirripa M, Matsusaka S, Dongyun Y, Jordan DW, Roel G, Diana L. H, Afsaneh B, <u>Baba H</u>, Volker H, <u>Heinz-Josef Lenz</u></p>
○6	<p>ASCO 2016 2016年6月3~7日 紙面発表 「Colorectal liver metastases with concomitant extrahepatic disease: Is there a hope of cure?」 審査有</p> <p>※Imai K, Carlos Castro Benitez, Marc Antoine Allard, Eric Vibert, Antonio Sa Cunha, Daniel Cherqui, Denis Castaing, Henri Bismuth, Hideo Baba, Rene Adam</p>
○7	<p>EAES 2016 2016年6月18日 RAI Amsterdam 「LAPAROSCOPIC VERSUS OPEN LIVER RESECTION FOR HEPATOCELLULAR CARCINOMA WITH PROPENSITY-SCORE MATCHING ANALYSIS: A MULTI-INSTITUTIONAL JAPANESE STUDY」口頭発表 審査有</p>
◎8	<p>第71回日本消化器外科学会総会 2016年7月14日 アスティとくしま 「Cancer Associated Fibroblasts ゲノム解析に基づいた diffuse type 胃癌浸潤を制御する新規遺伝子の同定」ポスター 審査有</p> <p>※<u>石本崇胤</u>、三宅慧輔、八代正和、泉大輔、有馬浩太、<u>馬場祥史</u>、渡辺雅之、平川弘聖、<u>Tan Patrick</u>、<u>馬場秀夫</u></p>
○9	<p>第71回日本消化器外科学会総会 2016年7月15日 アスティとくしま 「両葉多発の高度進行大腸癌肝転移に対する Two-stage hepatectomy と ALPPS 手術」口頭発表(パネルディスカッション) 審査有</p> <p>※今井克憲、Carlos Castro Benitez、Marc-antoine Allard、Cuhna Antonio Sa、Daniel Cherqui、Denis Castaing、山下洋市、別府 透、<u>馬場秀夫</u>、Rene Adam</p>

○10	IASGO 2016 2016年9月9日 Sheraton Grande Walkerhill (韓国) 「Colorectal Liver Metastases with Concomitant Extrahepatic Disease: Is There a Hope of Cure?」口頭発表 審査有 ※Imai K, Benitez C, Marc A, Eric V, Antonio C, Daniel C, Denis C, Henri H, Yamashita Y, <u>Baba H</u> , Rene A
○11	第35回 Microwave Surgery 研究会 2016年9月16日 メルパルク熊本 「大腸癌多発肝転移に対する肝切除+ラジオ波凝固療法：肝切除単独との比較」口頭発表 審査有 ※今井克憲、Allard Marc-Antoine、Castro Benitez Carlos Castro Benitez、Vibert Eric、Castaing Denis、Adam René、山下洋市、 <u>馬場秀夫</u>
◎12	第75回日本癌学会学術総会 2016年10月7日 パシフィコ横浜(神奈川県) 「Cancer Associated Fibroblasts (CAFs)ゲノム解析に基づいた胃癌浸潤を制御する新規遺伝子の同定」口頭発表 審査有 ※ <u>石本崇胤</u> 、三宅慧輔、八代正和、有馬浩太、泉大輔、澤山浩、岩槻政晃、 <u>馬場祥史</u> 、坂本快郎、吉田直矢、平川弘聖、 <u>馬場秀夫</u> 、 <u>Tan Patrick</u>
○13	JDDW2016 2016年11月10日 神戸コンベンションセンター 「大腸癌肝転移に対する肝切除術後再発：早期再発の定義および予測因子」ポスター 審査有 ※今井克憲、M.-A. Allard、C. B. Castro、E. Vibert、A. S. Cunha、D. Cherqui、D. Castaing、H. Bismuth、 <u>馬場秀夫</u> 、R. Adam
○14	第78回日本臨床外科学会総会 2016年11月24日 グランドプリンスホテル新高輪(東京都) 「大腸癌両葉多発肝転移に対する Two-stage hepatectomy : 治療成績と予後規定因子」口頭発表(パネルディスカッション) 審査有 ※今井克憲、Castro Benitez Carlos、Allard Marc-Antoine、Vibert Eric、Sa Cunha Antonio、Cherqui Daniel、Castaing Denis、Bismuth Henri、山下洋市、 <u>馬場秀夫</u> 、Adam Rene
◎15	ESMO-ASIA 2016 2016年12月17日 Suntec Singapore Convention Exhibition Centre(シンガポール) 「Identification of the novel molecules mediating gastric cancer invasion based on genomic analysis of cancer-associated fibroblasts」ポスター 審査有 ※ <u>Ishimoto T</u> 、Miyake K、Nandi T、Yashiro M、Huang K、Arima K、Izumi D、 <u>Baba Y</u> 、 <u>Baba H</u> 、 <u>Tan P</u>
◎16	ESMO-ASIA 2016 2016年12月17日 Suntec Singapore Convention Exhibition Centre(シンガポール) 「MicroRNA MIR21, T cells, and PTGS2 expression in Colorectal Cancer」ポスターディスカッション 審査有 ※ <u>Mima K</u> 、Nishihara R、Qian Z、 <u>Baba H</u> 、 <u>Ogino S</u>
◎17	第89回日本胃癌学会総会 2017年3月9日 広島国際会議場(広島県) 「腫瘍間質ゲノム解析に基づいた胃癌浸潤を制御する新規分子機構の解明」口頭発表 審査有 ※ <u>石本崇胤</u> 、三宅慧輔、八代正和、江藤二男、有馬浩太、泉大輔、岩槻政晃、 <u>馬場祥史</u> 、渡邊雅之、平川弘聖、 <u>Tan Patrick</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
◎18	第50回制癌剤適応研究会 2017年3月17日 ホテルクレメント徳島(徳島県) 「腫瘍間質に依存する diffuse type 胃癌浸潤の新しい分子機構の解明」口頭発表(シンポジウム) 審査有 ※ <u>石本崇胤</u> 、三宅慧輔、八代正和、江藤二男、有馬浩太、泉大輔、岩槻政晃、 <u>馬場祥史</u> 、吉田直矢、渡邊雅之、 <u>Patrick Tan</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
◎19	第114回日本外科学会定期学術集会 2014年4月4日 国立京都国際会館(京都府) 「大腸癌における KRAS codon 12, 13, 61, 146 変異の臨床病理分子学的特徴」ポスター 審査有 ※今村 裕、 <u>Shuji Ogino</u> 、Charles S Fuchs、 <u>馬場秀夫</u>
20	第70回日本食道学会学術集会 2016年7月5日 ザ・プリンスパークタワー東京 「Siewert type I - II 食道胃接合部腺癌における郭清効果 index の検討」口頭発表(ワークショップ) 審査有 ※今村 裕、 <u>峯真司</u> 、 <u>沖英次</u> 、 <u>山本学</u> 、 <u>比企直樹</u> 、 <u>森田勝</u> 、 <u>佐野武</u> 、 <u>前原喜彦</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、 <u>渡邊雅之</u>

21	第71回日本消化器外科学会総会 2016年7月14日 アスティとくしま 「食道胃接合部腺癌の臨床病理学的特徴と治療成績の検討」ポスター 審査有 ※今村 裕、峯 真司、沖 英次、山本 学、比企直樹、森田勝、佐野武、前原喜彦、馬場秀夫、渡邊雅之
22	IASGO 2016 Sendai 2016年8月3日 Seiry Auditorium 「Safety and morbidity of pancreaticoduodenectomy for elder patients.」 口頭発表 審査有 ※ <u>Nakagawa S</u> 、Hashimoto D, Umezaki N, Yamao T, Yamamura K, Arima K, Kaida T, Imai K, Yamashita Y, Chikamoto A, <u>Baba H</u>
23	IASGO 2016 2016年9月8日 Sheraton Grande Walkerhill (韓国) 「Clinical and prognostic significance of esophageal cancer patients with second primary cancers.」ポスター 審査有 ※ <u>Baba Y</u> 、Yoshida N, Yagi T, Nakamura K, Kinoshita K, <u>Mima K</u> , Sawayama H, Iwatsuki M, Sakamoto Y, <u>Baba H</u>
24	IASGO 2016 2016年9月9日 Sheraton Grande Walkerhill(韓国) 「Preoperative serum hyaluronic acid level as a prognostic factor in patients undergoing hepatic resection for hepatocellular carcinoma.」口頭発表 審査有 ※ <u>Mima K</u> 、Yamashita Y, Imai K, Kaida T, Yamao T, Kitano Y, Miyata T, <u>Nakagawa S</u> , Chikamoto A, Ishiko T, <u>Baba H</u>
25	IASGO 2016 2016年9月10日 Sheraton Grande Walkerhill (韓国) 「Safety and morbidity of pancreaticoduodenectomy for elder patients.」口頭発表 審査有 ※ <u>Nakagawa S</u> 、Hashimoto D, Umezaki N, Yamao T, Yamamura K, Arima K, Kaida T, Imai K, Yamashita Y, Chikamoto A, <u>Baba H</u>
26	第27回日本消化器癌発生学会総会 2016年9月15日 城山観光ホテル(鹿児島県) 「食道胃接合部腺癌におけるマイクロサテライト不安定性の検討」口演発表 審査有 ※今村 裕、峯 真司、黒河内喬範、山下公太郎、岡村明彦、沖 英次、比企直樹、前原喜彦、馬場秀夫、佐野武、渡邊雅之
27	第54回日本癌治療学会学術集会 2016年10月20日 パシフィコ横浜(神奈川県) 「Recent advances in treatment for colorectal cancer in Japan」口頭発表(International Session) 審査無 ※ <u>Baba H</u>
28	40th World Congress Secretariat 2016年10月25日 Kyoto International Conference Center 「Tumor LINE-1 methylation level and colorectal cancer location in relation to patient survival」口頭発表 審査無 ※ <u>Mima K</u>
29	ESMO-ASIA 2016 2016年12月17日 Suntec Singapore Convention Exhibition Centre(シンガポール) 「Prognostic characteristics of esophageal cancer patients with multiple primary cancers: a retrospective single institution study」ポスター 審査有 ※ <u>Baba Y</u> 、 <u>Ishimoto T</u> , Kinoshita K, Sawayama H, Iwatsuki M, Sakamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u>
30	第13回日本消化管学会総会学術集会 2017年2月18日 名古屋国際会議場(愛知県) 「消化器癌におけるLINE-1メチル化レベルの予後予測および効果予測バイオマーカーとしての意義」口頭発表(ワークショップ) 審査有 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>美馬浩介</u> 、澤山浩、木下浩一、岩槻政晃、坂本快郎、吉田直矢、 <u>馬場秀夫</u>
31	第89回日本胃癌学会総会 2017年3月8日 広島国際会議場(広島県) 「新ガイドラインにおける外科治療」口頭発表(プレナリーセッション) 審査無 ※ <u>馬場秀夫</u> 、 <u>岩槻政晃</u>
32	第89回日本胃癌学会総会 2017年3月9日 広島国際会議場(広島県) 「食道胃接合部癌におけるマイクロサテライト不安定性の検討」口頭発表 審査有 ※今村 裕、比企直樹、沖 英次、森田 勝、 <u>馬場秀夫</u> 、佐野 武、渡邊雅之
33	第89回日本胃癌学会総会 2017年3月10日 広島国際会議場(広島県) 「胃癌におけるLINE-1メチル化～PROGNOSTIC MARKERとFIELD CANCERIZATION～」口頭発表(ワークショップ) 審査有 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>岩槻政晃</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、坂本快郎、吉田直矢、 <u>馬場秀夫</u>

34	第115回日本外科学会定期学術集会 2015年4月18日 名古屋国際会議場(愛知県)「スタチン内服による肝細胞癌に対する肝切除後再発抑制効果に関する検討」 ※東孝暁、林洋光、武山秀晶、有馬浩太、甲斐田剛圭、高城克暢、坂本慶太、坂田和也、岡部弘尚、新田英利、橋本大輔、近本亮、別府透、 <u>馬場秀夫</u> 審査有
35	AACR Annual Meeting 2015 2015年4月21日 Pennsylvania Convention Center (Philadelphia, USA) Suppressor microRNA-145 is epigenetically regulated by promoter hypermethylation in esophageal squamous cell carcinoma. <u>Kazuto Harada</u> , <u>Yoshifumi Baba</u> , ※ <u>Keisuke Kosumi</u> , Ryuma Tokunaga, Daisuke Izumi Mayuko Ouchi, Kennichi Nakamura, Yuki Kiyozumi, Junji Kurashige, Yukiharu Hiyoshi, Shiro Iwagami, <u>Yuji Miyamoto</u> , Yasuo Sakamoto, Naoya Yoshida, Masayuki Watanabe, <u>Hideo Baba</u> . 審査有
36	AACR Annual Meeting 2015 2015年4月22日 Pennsylvania Convention Center(Philadelphia, USA) The clinical significance of APOBEC3B in esophageal squamous cell carcinoma. ※ <u>Keisuke Kosumi</u> , <u>Yoshifumi Baba</u> , <u>Takatsugu Ishimoto</u> , Kenichi Nakamura, Kazuto Harada, Mayuko Ohuchi, Yuki Kiyozumi, Daisuke Izumi, Ryuma Tokunaga, Junji Kurashige, Ryuichi Karashima, Yukiharu Hiyoshi, Shiro Iwagami, Yasuo Sakamoto, Yuji Miyamoto, Naoya Yoshida, Masayuki Watanabe, <u>Hideo Baba</u> . 審査有
37	AACR Annual Meeting 2015 2015年4月21日 Pennsylvania Convention Center (Philadelphia, USA) miR-9-3p plays a tumor-suppressor role by targeting TAZ (WWTR1) in hepatocellular carcinoma cells. ※ <u>Takaaki Higashi</u> , Hiromitsu Hayashi, Hideaki Takeyama, Takayoshi Kaida, Kota Arima, Katsunobu Taki, Hirohisa Okabe, Hidetoshi Nitta, Daisuke Hashimoto, Akira Chikamoto, Toru Beppu, <u>Hideo Baba</u> . 審査有
38	11th IGCC (International Gastric Cancer Congress) 2015 2015年6月5日 WTC Events Center (Sanpauro) How translational research impact on treatment. ※ <u>Hideo Baba</u> .
39	11th IGCC (International Gastric Cancer Congress) 2015 2015年6月5日 WTC Events Center(Sanpauro) Total gastrectomy risk model. ※ <u>Hideo Baba</u> .
40	第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2015年6月13日 ホテルグランパシフィック LE DAIBA (東京都) 「術前内臓脂肪量低値は肝細胞癌肝切除後の予後不良因子である」 ※東孝暁、林洋光、武山秀晶、甲斐田剛圭、有馬浩太、高城克暢、岡部弘尚、新田英利、橋本大輔、近本亮、別府透、 <u>馬場秀夫</u> 審査有
41	IASGO-CME 2015 2015年6月14日 Jikei University School (東京都) Lysine-specific demethylase-1 contributes to malignant behavior in esophageal cance. ※ <u>Keisuke Kosumi</u> , <u>Yoshifumi Baba</u> , <u>Takatsugu Ishimoto</u> , Akihisa Sakamoto, <u>Kazuto Harada</u> , Kenichi Nakamura, Mayuko Ohuchi, Yuki Kiyozumi, Daisuke Izumi, Ryuma Tokunaga, Katsunobu Taki, <u>Takaaki Higashi</u> , Tatsunori Miyata, Junji Kurashige, Yukiharu Hiyoshi, Masaaki Iwatsuki, Shiro Iwagami, Yasuo Sakamoto, Yuji Miyamoto, Naoya Yoshida, Masayuki Watanabe, Shinjiro Hino, Mitsuyoshi Nakao, <u>Hideo Baba</u> . 審査有
42	IASGO-CME 2015 2015年6月14日 Jikei University School (東京都) Prognostic and clinical impact of sarcopenia in esophageal squamous cell carcinoma. ※ <u>Kazuto Harada</u> , Satoshi Ida, <u>Yoshifumi Baba</u> , <u>Takatsugu Ishimoto</u> , <u>Keisuke Kosumi</u> , Tokunaga Ryuma, Daisuke Izumi, Mayuko Ohuchi, Kenichi Nakamura, Yuki Kiyozumi, Yukiharu Hiyoshi, Junji Kurashige, Shiro Iwagami, Yuji Miyamoto, Yasuo Sakamoto, Naoya Yoshida, Masayuki Watanabe, <u>Hideo Baba</u> . 審査有
43	第70回日本消化器外科学会総会 2015年7月16日 アクトシティ浜松(静岡県)「肝細胞癌に対するスタチンの抗腫瘍効果の検討」 ※東孝暁、林洋光、武山秀晶、甲斐田剛圭、岡部弘尚、新田英利、橋本大輔、近本亮、別府透、 <u>馬場秀夫</u> 審査有
44	第70回日本消化器外科学会総会 2015年7月15日 アクトシティ浜松(静岡県)「腹腔鏡下胃切除における C-Arm X-ray Imaging System を用いた確実な口側切離線の設定」 ※ <u>金村裕</u> 、沖英次、堤智崇、堤亮介、中島雄一郎、安藤幸滋、大垣吉平、佐伯浩司、 <u>馬場秀夫</u> 、前原喜彦 審査有

45	第24回日本がん転移学会学術集会・総会 2015年7月23日 シティプラザ大阪(大阪府) 「スタチンはTAZを抑制して肝細胞癌に対する抗腫瘍効果を発揮する」 ※ <u>東孝暁</u> 、林洋光、甲斐田剛圭、有馬浩太、高城克暢、岡部弘尚、新田英利、橋本大輔、近本亮、別府透、 <u>馬場秀夫</u> 審査有
46	46th World Congress of Surgery WCS 2015 2015年8月25日 Centara Grand & Bangkok Convention Centre at CentralWorld (Bangkok, Thailand), Adjuvant and neoadjuvant therapies for locally advanced esophageal SCC. ※ <u>Hideo Baba</u>
47	第34回 Microwave Surgery 研究会 2015年9月11日 浅草ビューホテル(東京都) 「肝ドーム下の肝細胞癌に対する胸腔鏡外科手術の有用性について」 ※ <u>東孝暁</u> 、別府透、新田英利、林洋光、今井克憲、近本亮、石河隆敏、 <u>馬場秀夫</u> 審査有
48	JDDW 2015 第23回日本消化器関連学会週間 2015年10月9日 グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール(東京都) 「内臓脂肪が肝細胞癌の予後に与える影響」 ※ <u>東孝暁</u> 、林洋光、武山秀晶、甲斐田剛圭、有馬浩太、高城克暢、泉大輔、 <u>小澄敬祐</u> 、徳永竜馬、宮田辰徳、 <u>原田和人</u> 、岡部弘尚、新田英利、橋本大輔、近本亮、別府透、 <u>馬場秀夫</u> 審査有
49	JDDW 2015 第23回日本消化器関連学会週間 2015年10月9日 グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール(東京都) 「食道胃接合部腺癌の予後不良因子、およびその予測因子の検討」 ※今村裕、沖英次、内原智幸、中司悠、枝廣圭太郎、西村章、中村健一、徳永竜馬、財津瑛子、笠木勇太、津田康雄、由茅隆文、秋山真吾、中島雄一郎、安藤幸滋、大垣吉平、吉田直矢、佐伯浩司、 <u>馬場秀夫</u> 、前原喜彦 審査有
50	第53回日本癌治療学会学術集会 3rd International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology(FACO) 2015年10月29日 国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都(京都府) Lysine-specific demethylase-1 regulates glycolytic pathway in esophageal cancer. ※ <u>Keisuke Kosumi</u> , <u>Yoshifumi Baba</u> , <u>Takatsugu Ishimoto</u> ., <u>Kazuto Harada</u> , Kenichi Nakamura, Mayuko Ohuchi, Yuki Kiyozumi, Daisuke Izumi, Ryuma Tokunaga, Junji Kurashige, Masaaki Iwatsuki, Yasuo Sakamoto, Yuji Miyamoto, Naoya Yoshida, <u>Hideo Baba</u> . 審査有
51	第53回日本癌治療学会学術集会 3rd International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology(FACO) 2015年10月31日 国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都(京都府) 「肝細胞癌初回肝切除後の長期予後における術前内臓脂肪量と性差の関連」 ※ <u>東孝暁</u> 、林洋光、辻頭、北野雄希、山村謙介、武山秀晶、有馬浩太、甲斐田剛圭、高城克暢、新田英利、増田稔郎、橋本大輔、近本亮、別府透、 <u>馬場秀夫</u> 審査有
52	第9回肝臓内視鏡外科研究会 2015年11月25日 福岡サンパレス(福岡県) 「肝ドーム部病変に対する内視鏡下肝切除におけるアプローチの選択」 ※ <u>東孝暁</u> 、別府透、新田英利、高城克暢、林洋光、今井克憲、橋本大輔、近本亮、石河隆敏、 <u>馬場秀夫</u> 審査有
53	ESMO ASIA 2015 2015年12月19日 Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre (Singapore) Neoadjuvant DCF therapy, metabolic response and molecular biomarkers in esophageal squamous cell carcinoma" ※ <u>Yoshifumi Baba</u> , <u>Takatsugu Ishimoto</u> ., Hironobu Shigaki, Junji Kurashige, Masaaki Iwatsuki, Yasuo Sakamoto, Naoya Yoshida, <u>Hideo Baba</u> . 審査有
54	第88回日本胃癌学会総会 2016年3月18日 別府国際コンベンションセンター(大分県) 「E-PASS, PNI, GPSを用いた高齢胃癌症例に対する手術成績の網羅的検討」 ※ <u>馬場祥史</u> 、岩槻政晃、藏重淳二、志垣博信、坂本快郎、吉田直矢、 <u>馬場秀夫</u> 審査有
55	第88回日本胃癌学会総会 2016年3月19日 別府国際コンベンションセンター(大分県) 「食道胃接合部癌腺癌における予後因子解析」 ※今村裕、中村健一、徳永竜馬、黒河内喬範、岡村明彦、西田康二郎、吉田直矢、峯真司、沖英次、前原喜彦、 <u>馬場秀夫</u> 、佐野武、渡邊雅之 審査有

56	第114回日本外科学会定期学術集会 2014年4月4日 国立京都国際会館(京都府) ポスター 審査有「食道扁平上皮癌における術前内臓脂肪と臨床病理学的因子の解析」 ※ <u>原田和人</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>泉大輔</u> 、 <u>小澄敬祐</u> 、 <u>徳永竜馬</u> 、 <u>江藤弘二郎</u> 、 <u>杉原栄孝</u> 、 <u>村田飛鳥</u> 、 <u>澤山浩</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>渡邊雅之</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
57	第114回日本外科学会定期学術集会 2014年4月5日 国立京都国際会館(京都府) 口頭発表 審査有「消化器癌におけるCD44発現制御機構を標的とした治療戦略」 ※ <u>石本崇胤</u> 、 <u>杉原栄孝</u> 、 <u>泉大輔</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
58	第114回日本外科学会定期学術集会 2014年4月5日 国立京都国際会館(京都府) 口頭発表 審査有「直腸癌局所再発に対する外科治療」 ※ <u>宮本裕士</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
59	AACR Annual Meeting 2014 2014年4月6日 San Diego, California (米国)、ポスター、審査有“The relationship between LINE-1 hypomethylation and fibrosis status in noncancerous liver tissues of hepatocellular carcinoma patients” ※ <u>Yoshifumi Baba</u> 、 <u>Kazuto Harada</u> 、 <u>Keisuke Kosumi</u> 、 <u>Hiromitsu Hayashi</u> 、 <u>Hidetoshi Nitta</u> 、 <u>Daisuke Hashimoto</u> 、 <u>Akira Chikamoto</u> 、 <u>Toru Beppu</u> 、 <u>Hideo Baba</u> 、
60	AACR Annual Meeting 2014 2014年4月7日 San Diego, California (米国)、ポスター、審査有“Clinical, pathological and prognostic value of LINE-1 methylation in hepatocellular carcinoma.” ※ <u>Kazuto Harada</u> 、 <u>Yoshirumi Baba</u> 、 <u>Akira Chikamoto</u> 、 <u>Takatsugu Ishimoto</u> 、 <u>Keisuke Kosumi</u> 、 <u>Asuka Murata</u> 、 <u>Naoya Yoshida</u> 、 <u>Toru Beppu</u> 、 <u>Hideo Baba</u> 、
61	AACR Annual Meeting 2014 2014年4月8日 San Diego, California (米国)、ポスター、審査有“Macrophage-derived reactive oxygen species suppress miR-328 targeting CD44 in gastrointestinal cancer cells and promote redox adaptation.” ※ <u>Takatsugu Ishimoto</u> 、 <u>Naoya Yoshida</u> 、 <u>Hidetaka Sugihara</u> 、 <u>Daisuke Izumi</u> 、 <u>Keisuke Miyake</u> 、 <u>Hiroshi Sawayama</u> 、 <u>Yu Imamura</u> 、 <u>Shiro Iwagami</u> 、 <u>Yoshifumi Baba</u> 、 <u>Hideo Baba</u> 、
62	2014 ASCO Annual Meeting、2014年5月31日 McCormick Place, Chicago, Illinois (米国) ポスター 審査有“Visceral fat content, clinical features, and prognosis in a database of 507 upper gastrointestinal cancers.” ※ <u>Kazuto Harada</u> 、 <u>Yoshifumi Baba</u> 、 <u>Keisuke Kosumi</u> 、 <u>Ryuichi Karashima</u> 、 <u>Yu Imamura</u> 、 <u>Shiro Iwagami</u> 、 <u>Yasuo Sakamaoto</u> 、 <u>Naoya Yoshida</u> 、 <u>Hideo Baba</u> 、
63	第68回日本食道学会学術集会 2014年7月3日 東京ドームホテル(東京都) 口頭発表 審査有「食道癌に対する術前DCF療法の効果予測 -1コース後のPET SUV値を用いて-」 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>渡邊雅之</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
64	第68回日本食道学会学術集会 2014年7月4日 東京ドームホテル(東京都) ポスター発表 審査有「食道扁平上皮癌における術前筋肉量と臨床病理学的因子の解析」 ※ <u>原田和人</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>小澄敬祐</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
65	第81回大腸癌研究会 2014年7月4日 名古屋観光ホテル(愛知県) 口頭発表 審査有「高齢者(75歳以上)大腸癌手術の検討」 ※ <u>宮本裕士</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>大内繭子</u> 、 <u>徳永竜馬</u> 、 <u>日吉幸晴</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
66	第42回九州食道癌合併療法談話会 2014年7月12日 ホテルニューオータニ博多(福岡県) 口頭発表 審査有「80歳以上の高齢者食道癌に対する手術成功の網羅的解析」 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>日吉幸晴</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
67	第69回日本消化器外科学会総会 2014年7月16日 郡山総合体育館(福島県) 口頭発表 審査有「sarcopeniaは大腸癌切除症例の予後因子である」 ※ <u>宮本裕士</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、

68	第69回日本消化器外科学会総会 2014年7月17日 郡山市民文化センター(福島県)ビデオシンポジウム 審査有「頸部食道胃管吻合における三辺外翻三角吻合及び大網弁被覆の有用性」 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>渡邊雅之</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
69	第69回日本消化器外科学会総会 2014年7月18日 郡山総合体育館(福島県)口頭発表 審査有「食道胃接合部癌の壁内進展距離の検討」 ※ <u>今村裕</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
70	第69回日本消化器外科学会総会 2014年7月18日 郡山総合体育館(福島県)口頭発表 審査有「肝細胞癌のLINE-1メチル化レベルと臨床病理学的因子の検討」 ※ <u>原田和人</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>近本亮</u> 、 <u>村田飛鳥</u> 、 <u>新田英利</u> 、 <u>林洋光</u> 、 <u>橋本大輔</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>別府透</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
71	第12回日本臨床腫瘍学会学術集会 2014年7月17日 Fukuoka International Congress Center(福岡県) 口頭発表 審査有「他臓器転移を有するStage IV大腸癌における予後因子」 ※ <u>宮本裕士</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
72	第52回日本癌治療学会学術集会 2014年8月28日 パシフィコ横浜(神奈川県) 口頭発表 審査有「上部消化管癌における周術期輸血の予後に対する影響」 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>小澄敬祐</u> 、 <u>原田和人</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
73	第52回日本癌治療学会学術集会 2014年8月28日 パシフィコ横浜(神奈川県) 口頭発表 審査有「切除不能大腸癌に対するSOX、IRIS療法の有用性」 <u>宮本裕士</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
74	第14回日中韓大腸癌シンポジウム 2014年9月13日 Congres Convention Center(大阪府) 口頭発表 審査有 “Prognostic significance of sarcopenia in patients with resectable colorectal cancer.” ※ <u>Yuji Miyamoto</u> , <u>Yasuo Sakamoto</u> , <u>Mayuko Ohuchi</u> , <u>Ryuma Tokunaga</u> , <u>Yukiharu Hiyoshi</u> , <u>Shiro Iwagami</u> , <u>Yoshifumi Baba</u> , <u>Naoya Yoshida</u> , <u>Hideo Baba</u> .
75	第73回日本癌学会学術集会 2014年9月27日 パシフィコ横浜(神奈川県)ポスター発表 審査有「大腸癌におけるERCC1 isoformの発現レベル」 ※ <u>原田和人</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>小澄敬祐</u> 、 <u>中村健一</u> 、 <u>泉大輔</u> 、 <u>徳永竜馬</u> 、 <u>日吉幸晴</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
76	第67回日本胸部外科学会定期学術集会 2014年10月1日 福岡国際会議場(福岡県) 口頭発表、審査有「術前併存症を有する食道癌症例に対する手術成績の網羅的検討～E-PASS scoring systemなどを用いて～」 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>日吉幸晴</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
77	第67回日本胸部外科学会定期学術集会 2014年10月1日 福岡国際会議場(福岡県)ポスター 審査有「Prognostic Nutritional Index および modified Glasgow prognostic Scoreと食道扁平上皮癌術後予後の関連」 ※ <u>原田和人</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>小澄敬祐</u> 、 <u>泉大輔</u> 、 <u>徳永竜馬</u> 、 <u>江藤弘二郎</u> 、 <u>杉原栄孝</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>日吉幸晴</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
78	第67回日本胸部外科学会定期学術集会 2014年10月2日 福岡国際会議場(福岡県) 口頭発表 審査有「食道癌手術における肝門索を用いた経胃管的栄養チューブ挿入」 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>原田和人</u> 、 <u>小澄敬祐</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>日吉幸晴</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕士</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
79	第6回日本ハンガリーポーランド外科学会 2014年10月17日 慶応大学三田キャンパス(東京都)ポスター 審査有 “Pedunculated gastric conduit interposition with duodenal transection: an option for increasing the flexibility of the gastric conduit.” ※ <u>Baba Y</u> , <u>Hiyoshi Y</u> , <u>Kurashige J</u> , <u>Iwagami S</u> , <u>Sakamoto Y</u> , <u>Sakata K</u> , <u>Nitta H</u> , <u>Hayashi H</u> , <u>Chikamoto A</u> , <u>Ishiko T</u> , <u>Beppu T</u> , <u>Baba H</u> .

80	第6回日本ハンガリーポーランド外科学会 2014年10月17日 慶応大学三田キャンパス(東京都) 口頭発表 審査有“Prognostic Nutritional Index and modified Glasgow prognostic Score, clinical features, and prognosis in a database of 310 esophageal cancers.” ※ <u>Harada K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Kosumi K</u> , <u>Hiyoshi Y</u> , <u>Iwagami S</u> , <u>Miyamoto Y</u> , <u>Sakamoto Y</u> , <u>Yoshida N</u> , <u>Baba H</u> .
81	第6回日本ハンガリーポーランド外科学会 2014年10月18日 慶応大学三田キャンパス(東京都) ポスター 審査有“Sarcopenia as a prognostic factor among patients with Stage I-III colorectal cancer.” ※ <u>Miyamoto Y</u> , <u>Sakamoto Y</u> , <u>Ohuchi M</u> , <u>Tokunaga R</u> , <u>Hiyoshi Y</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Iwagami S</u> , <u>Yoshida N</u> , <u>Baba H</u> .
82	JDDW2014 2014年10月23日 神戸国際展示場(兵庫県) 口頭発表 審査有「肝細胞癌におけるLINE-1メチル化レベルの網羅的解析 -Marker for epigenetic field defect and prognosis-」 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>別府透</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
83	JDDW2014 2014年10月25日 神戸国際展示場(兵庫県) ポスター 審査有「食道扁平上皮癌におけるサルコペニアと栄養評価指数(PNI, mGPS)との関係」 ※ <u>原田和人</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>小澄敬祐</u> 、 <u>泉大輔</u> 、 <u>徳永竜馬</u> 、 <u>江藤弘二郎</u> 、 <u>杉原栄孝</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕土</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
84	JDDW2014 2014年10月25日 神戸国際展示場(兵庫県) ポスター 審査有「切除不能大腸癌における化学療法前の骨格筋量測定の意義」 ※ <u>宮本裕土</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>辛島龍一</u> 、 <u>今村裕</u> 、 <u>井田智</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
85	第69回日本大腸肛門病学会学術集会 2014年11月7日 パシフィコ横浜(神奈川県) 口頭発表 審査有「大腸癌肺転移に対するラジオ派凝固療法」 ※ <u>宮本裕土</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>大内繭子</u> 、 <u>徳永竜馬</u> 、 <u>日吉幸晴</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>河中功一</u> 、 <u>馬場秀夫</u> 、
86	第66回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会 2014年11月14日 高知県立県民文化ホール(高知県) 口頭発表 審査有「ケースカンファレンス どう治療する? 食道癌」 ※ <u>馬場祥史</u>
87	ASCO GI 2015 2015年1月17日 Moscon West Buildin(米国) ポスター 審査有“Liver resectability following S-1+L-OHP with cetuximab as the first-line treatment of unresectable liver limited metastases from KRAS exon 2 wild-colorectal cancer in Japanese patients (KSCC 1002).” ※ <u>Yuji Miyamoto</u> 、 <u>Yasunori Emi</u> , <u>Shoji Tokunaga</u> , <u>Toru Beppu</u> , <u>Yoshihiro Kakeji</u> , <u>Eiji Oki</u> , <u>Hiroshi Saeki</u> , <u>Shinichiro Mori</u> , <u>Masafumi Inomata</u> , <u>Yoshito Akagi</u> , <u>Hideo Baba</u> , <u>Shoji Natsugoe</u> , <u>Yutaka Ogata</u> , <u>Yoshihiko Maehara</u> , <u>Kyushu Study Group of Clinical Cancer(KSCC)</u> .
88	第82回大腸癌研究会 2015年1月23日 JPタワーホール(東京都) 口頭発表 審査有「腹腔鏡下直腸切除術の短期・長期成績の検討」 ※ <u>宮本裕土</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>大内繭子</u> 、 <u>徳永竜馬</u> 、 <u>藏重淳二</u> 、 <u>日吉幸晴</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
89	第25回日本気管食道科学会認定気管食道科専門医大会 2015年2月21日 宇都宮東武ホテルグランデ(栃木県) 口頭発表 審査有「食道癌におけるepigenetic changeの網羅的解析」 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>日吉幸晴</u> 、 <u>藏重淳二</u> 、 <u>岩上志朗</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>宮本裕土</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
90	第87回日本胃癌学会総会 2015年3月5日 広島県立総合体育館(広島県) 口頭発表 審査有「予後解析とリンパ節郭清効果 index から考える Siewert type II 食道胃接合部癌の治療方針」 今村裕、沖英次、岩上志朗、徳永竜馬、中村健一、中司悠、津田康雄、中島雄一郎、安藤幸滋、大垣吉平、佐伯浩司、 <u>馬場秀夫</u> 、前原喜彦